

統計数理研究所
研究レポート 92

国民性の研究 第 11 次全国調査

— 2003 年全国調査 —

2004 年 4 月

統計数理研究所

〒106-8569 東京都港区南麻布 4-6-7

当研究所では,

Annals of the Institute of Statistical Mathematics

統計数理

Computer Science Monographs

統計数理研究所研究リポート

統計数理研究所研究教育活動報告

統計数理研究所共同研究リポート

Research Memorandum

統計計算技術報告

を発行している。統計数理研究所研究リポートは、研究調査のデータの発表を目的とし、必要に応じて発行する。

All rights reserved. No part of this publication may be reproduced or transmitted in any form or by any means, electronic or mechanical, including photocopy, recording, or any information storage and retrieval system, without permission in writing from the institute.

統計数理研究所

〒106-8569 東京都港区南麻布 4-6-7

TEL 03-3446-1501(代)

統計数理研究所
研究レポート 92

国民性の研究 第 11 次全国調査

— 2003 年全国調査 —

2004 年 4 月

統 計 数 理 研 究 所

第 11 次日本人の国民性調査委員会

研究レポート作成班 (*国民性調査委員長)

坂元 慶行* (統計数理研究所 調査実験解析研究系 教授)

中村 隆 (統計数理研究所 調査実験解析研究系 教授)

前田 忠彦 (統計数理研究所 調査実験解析研究系 助教授)

土屋 隆裕 (統計数理研究所 調査実験解析研究系 助教授)

目 次

I	概 要	1
	§ 1 研究経過と調査項目	1
	§ 2 調査実施の概要	2
II	質問文と集計表	9
	集計表の見方	9
	§ 1 基本項目	11
	§ 2 個人的態度	18
	§ 3 宗 教	51
	§ 4 子供・家	55
	§ 5 身近な社会	63
	§ 6 男女の差異	82
	§ 7 一般の社会的問題	92
	§ 8 政治的態度	111
	§ 9 日本人・人種	119
III	文献と資料	129
IV	調査項目一覧表	165

I 概 要

このレポートは、統計数理研究所国民性調査委員会が5年ごとに実施している「国民性調査」の第11次全国調査(2003年秋実施)の結果を単純集計の形でまとめたものである。比較のため、今回調査した質問についての過去の結果も掲げてある。

詳細な分析結果は統計数理研究所の『統計数理』や *Annals of the Institute of Statistical Mathematics* などに発表する予定である。

§ 1 研究経過と調査項目

1. 研究の経過

国民性の研究は1953年(昭和28年)に第1次全国調査を行ない、以後5年ごとに全国調査を行なっている。したがって、今回(2003年)は11回目に当たり、初回から数えて50年目の調査である。

これらの全国調査はすべて全国民(20歳以上の有権者、ただし第11回は20歳以上80歳未満)を対象にした標本調査であり、各回ともそれぞれ層別多段サンプリングで3,000~6,000名の対象者を抽出し、個別面接聴取法で実施している。調査項目には、面接での質問項目と、サンプリングの段階で得られる性、年齢、地方別等の基本属性項目とがあり、毎回共通して使用している項目が多い。1973年(昭和48年)の第5次以降の調査では、それまで継続してきた質問項目を主とする調査票(K型とよぶ)と、新規の質問項目に重きを置く調査票(M型とよぶ)との2種類の調査票を用いている。

なお、5年ごとの全国調査のほかに内容的に関連する多くの調査を行なっている。これらの調査もそれぞれ独立の調査であると同時に、相互に比較・参照できるよう企画されている。

2. 調査方法と質問項目の選定

面接調査という調査方法の制約はあるが、質問項目の選定に当たっては、できるだけ広い範囲から国民性の特徴をよく表わす題材を選ぶようにしている。

質問項目の選定手順の概略はつぎのとおりである。まず、国民性に言及している内外の文献や資料から、日本人の性質、態度、特徴とみられるものを収集し整理する。つ

ぎに、これらの事項から面接調査に適するような質問項目を作成する。最後に質問全体の構成を吟味して、調査票にまとめる。

なお、質問項目は、各種のプリテストや吟味調査で検討を加えるとともに、何回もくり返して調査に用い、その性質を確かめるよう努めている。

3. 第11次全国調査の調査項目

今回の調査のねらいは大別して2つある。第1は、50年来の継続質問項目によって、日本人の“ものの考え方”の変化の様相を明らかにすることであり、第2は、従来との継続を図りながら、将来の新しい動向を探り、それに備えることである。第11次調査では、20世紀後半の日本人の意識動向を総括し、21世紀の動向を見据えるという趣旨から、必ずしも継続的に調査はしていないが過去に質問したことのある項目も採用している。

なお、今回の調査でも、K型調査票とM型調査票の2種類の調査票を用いたが、両者とも、従来の継続質問項目と新しい質問項目の双方を含んでいる。ただし、K型調査票はM型に比べると長期にわたる継続質問項目の割合が大きくなっている。

K型とM型にわけるのは、一人の対象者にかかる負担(面接時間の長さ)を軽減するためである。調査に当たっては、サンプルを二分し、奇数のサンプル番号の対象者にはK型調査票を、偶数のサンプル番号の対象者にはM型調査票を用いた。

§2 調査実施の概要

1. サンプリング

基本的な方針は第8次～第10次全国調査と同じである(『第5日本人の国民性』1992年、p.483参照)。すなわち、全国の市区町村を、地方性および人口規模を考慮して層別し、各層より合計300地点を選ぶものとし、まず市区町村を確率比例抽出で選ぶ(第1段サンプリング)。ついで、選んだ各市区町村から投票区を同じように確率比例抽出で選ぶ(第2段サンプリング)。最後に、抽出した投票区の有権者名簿より、その地点に割り当てた人数(平均14)のサンプルを等間隔抽出法で選んだ(第3段サンプリング)。計画サンプルサイズは全国で4,200人である(表1参照)。

2. 調査の実施

第3段目の有権者個人のサンプリング(関東圏以外の219地点分)と面接調査の実施は社団法人中央調査社に委託し、調査は2003年9月下旬から10月上旬にかけて実施した。関東圏(81地点分)の有権者個人のサンプリングは統計数理研究所が行なった。

まず、標本抽出員が担当地点の市・区役所、町・村役場に行き、指示された方法で有権者名簿からサンプルを抽出した。つぎに、面接調査員(一部は標本抽出も兼務)がサンプルとなった対象者の家を訪問して対象者本人に会い、調査票どおりの質問をし、対象者の回答を調査票に記録した(個別訪問面接聴取法)。

この結果、最終的な回収サンプルサイズはK型調査票1,192、M型調査票1,158、合計2,350で、これは計画サンプルサイズ4,200から年齢範囲外の7を除いた4,193の56%に当たる。なお、調査不能の詳細は表2～表5に示されているので参照されたい。

第11次全国調査の実施では、つぎの方々のご協力を得た。

まず、調査の準備から研究レポート作成までの作業を宮崎寿美子さんに担っていた。回収データの点検作業等では、伊藤恵子さん、忽那映子さんにご支援いただいた。また、統計数理研究所の桂康一氏にも集計や分析でご協力をいただいた。これらの方々的心からお礼申し上げたい。

今回の調査委員は、坂元慶行(委員長)、村上征勝、馬場康維、中村隆、吉野諒三、前田忠彦、土屋隆裕(以上、統計数理研究所)である。ほかに、故林知己夫(統計数理研究所名誉教授)、西平重喜(統計数理研究所名誉所員)、林文(東洋英和女学院大学教授)の三氏のご支援を得た。

なお、この研究レポートの作成には、坂元慶行、中村隆、前田忠彦、土屋隆裕が当たった。

表1. 「第11次 日本人の国民性調査」サンプリング

母集団	:	20歳以上80歳未満の有権者
母集団人口(有権者数) ^a	=	101,466,006
計画サンプルサイズ	=	4,200
(有効計画サンプル ^b サイズ)	=	4,193
計画地点総数	=	300
1地点あたりサンプルサイズ	=	14
1地点あたり母集団人口	=	338,220

層 コード	層名称	母集団人口 (有権者数)	地点総数	割当 地点数	計画サンプル サイズ
	《全国計》	101,466,006	3,251	300	4,200
1. K-00	区 部	23,344,923	160	69	966
S	〈市部計〉	56,537,894	652	168	2,341
2. S-01	人口20万人以上の市	25,230,047	90	75	1,045
3. S-02	人口20万人未満の市	31,307,847	562	93	1,296
4. G-00	郡 部	20,731,906	2,411	61	858
5. O-00	沖縄県	851,283	28	2	35

^a 標本設計は全有権者数に基づいて行い、抽出時に80歳以上を対象外とした。

^b 計画サンプル4,200から事後に80歳以上とわかった7を除いたサンプルを、このように仮称する。

表2. 調査不能の理由

		死亡	移転	該当者なし	尋ね当らず	長期不在	病気	一時不在	拒否	老衰	その他	計
K	実数	2	89	19	21	39	52	258	408	4	4	896
	%	0	10	2	2	4	6	29	46	0	0	99
M	実数	5	98	20	24	37	53	235	470	1	4	947
	%	1	10	2	3	4	6	25	50	0	0	101
K+M	実数	7	187	39	45	76	105	493	878	5	8	1,843
	%	0	10	2	2	4	6	27	48	0	0	99

表3. 性別・年齢別サンプル、不能率

	性別		年齢別												計
	男	女	20 ~ 24	25 ~ 29	30 ~ 34	35 ~ 39	40 ~ 44	45 ~ 49	50 ~ 54	55 ~ 59	60 ~ 64	65 ~ 69	70 ~ 79	不明	
K 回収 サンプル	551	641	55	66	96	113	105	90	147	121	128	125	146	0	1,192
不 能 サンプル	478	418	100	113	91	87	79	79	95	70	63	55	57	7	896
不能率	46	39	65	63	49	44	43	47	39	37	33	31	28	100	43
有効計画 サンプル	1,029	1,059	155	179	187	200	184	169	242	191	191	180	203	7	2,088
行%	49	51	7	9	9	10	9	8	12	9	9	9	10	0	101

	性別		年齢別												計
	男	女	20 ~ 24	25 ~ 29	30 ~ 34	35 ~ 39	40 ~ 44	45 ~ 49	50 ~ 54	55 ~ 59	60 ~ 64	65 ~ 69	70 ~ 79	不明	
M 回収 サンプル	540	618	55	86	92	79	90	93	137	110	135	102	179	0	1,158
不 能 サンプル	522	425	112	140	118	70	72	78	100	75	50	54	72	6	947
不能率	49	41	67	62	56	47	44	46	42	41	27	35	29	100	45
有効計画 サンプル	1,062	1,043	167	226	210	149	162	171	237	185	185	156	251	6	2,105
行%	50	50	8	11	10	7	8	8	11	9	9	7	12	0	100

	性別		年齢別												計
	男	女	20 ~ 24	25 ~ 29	30 ~ 34	35 ~ 39	40 ~ 44	45 ~ 49	50 ~ 54	55 ~ 59	60 ~ 64	65 ~ 69	70 ~ 79	不明	
K + M 回収 サンプル	1,091	1,259	110	152	188	192	195	183	284	231	263	227	325	0	2,350
不 能 サンプル	1,000	843	212	253	209	157	151	157	195	145	113	109	129	13	1,843
不能率	48	40	66	62	53	45	44	46	41	39	30	32	28	100	44
有効計画 サンプル	2,091	2,102	322	405	397	349	346	340	479	376	376	336	454	13	4,193
行%	50	50	8	10	9	8	8	8	11	9	9	8	11	0	99

2000年国調%	49	51	9	10	9	8	8	9	11	9	8	7	11	-	99
----------	----	----	---	----	---	---	---	---	----	---	---	---	----	---	----

表4. (#1.5) 市郡別サンプル、不能率

	市 郡 別														
	K					M					K + M				
	回サ ンプ 収ル	不サ ンプ 能ル	不 能 率	有サ 効ン 計プ 画ル	列 %	回サ ンプ 収ル	不サ ンプ 能ル	不 能 率	有サ 効ン 計プ 画ル	列 %	回サ ンプ 収ル	不サ ンプ 能ル	不 能 率	有サ 効ン 計プ 画ル	列 %
6大都市*	148	180	55	328	16	151	177	54	328	16	299	357	54	656	16
人口50万 以上の市	147	125	46	272	13	141	132	48	273	13	288	257	47	545	13
人口20～ 50万の市	223	179	45	402	19	211	193	48	404	19	434	372	46	806	19
人口10～ 20万の市	161	109	40	270	13	142	133	48	275	13	303	242	44	545	13
人口5～ 10万の市	165	113	41	278	13	164	116	41	280	13	329	229	41	558	13
人口5万 未満の市	77	36	32	113	5	72	42	37	114	5	149	78	34	227	5
町 村	271	154	36	425	20	277	154	36	431	20	548	308	36	856	20
計	1,192	896	43	2,088	99	1,158	947	45	2,105	99	2,350	1,843	44	4,193	99

* 6大都市は、東京23区、横浜市、名古屋市、京都市、大阪市、神戸市。

表5. (#1.6) 地方別サンプル、不能率

	地 方 別*														
	K					M					K + M				
	回サ ンプ 収ル	不サ ンプ 能ル	不 能 率	有サ 効ン 計プ 画ル	列 %	回サ ンプ 収ル	不サ ンプ 能ル	不 能 率	有サ 効ン 計プ 画ル	列 %	回サ ンプ 収ル	不サ ンプ 能ル	不 能 率	有サ 効ン 計プ 画ル	列 %
北海道	57	41	42	98	5	66	32	33	98	5	123	73	37	196	5
東北	96	64	40	160	8	102	60	37	162	8	198	124	39	322	8
関東	350	326	48	676	32	333	345	51	678	32	683	671	50	1,354	32
中部(東)	102	52	34	154	7	89	65	42	154	7	191	117	38	308	7
中部(西)	124	76	38	200	10	123	80	39	203	10	247	156	39	403	10
近畿	183	185	50	368	18	179	190	51	369	18	362	375	51	737	18
中国	86	46	35	132	6	74	59	44	133	6	160	105	40	265	6
四国	40	21	34	61	3	37	27	42	64	3	77	48	38	125	3
九州	154	85	36	239	11	155	89	36	244	12	309	174	36	483	12
計	1,192	896	43	2,088	100	1,158	947	45	2,105	101	2,350	1,843	44	4,193	101

* 沖縄は九州を含む。

II 質問文と集計表

集計表の見方

1. [収録調査項目] ここには、2003年の第11次全国調査で使用した質問の全文と、その他の項目を含む全調査項目の集計表を収録した。収録順は原則として、国民性調査委員会で決めた調査項目の §、# 番号順になっている(ただし、同じ問番号の下にいくつかの質問が含まれている連問の場合は、第11次の実際の質問順とした)。また、第10次までの質問項目で、今回の質問と特に関連のあるものについては、参考までにその数値をのせた。
2. [調査の略称] 集計表には比較のため第1次～第11次全国調査の結果を示した。

略 称	説 明
I (1953)	1953年(昭和28年)実施の第1次全国調査の結果
II (1958)	1958年(昭和33年)実施の第2次全国調査の結果
III (1963)	1963年(昭和38年)実施の第3次全国調査の結果
IV (1968)	1968年(昭和43年)実施の第4次全国調査の結果
V (1973)	1973年(昭和48年)実施の第5次全国調査の結果
VI (1978)	1978年(昭和53年)実施の第6次全国調査の結果
VII (1983)	1983年(昭和58年)実施の第7次全国調査の結果
VIII (1988)	1988年(昭和63年)実施の第8次全国調査の結果
IX (1993)	1993年(平成5年)実施の第9次全国調査の結果
X (1998)	1998年(平成10年)実施の第10次全国調査の結果
XI (2003)	2003年(平成15年)今回実施の第11次全国調査の結果

以下の各集計表の間欄について：

- 第5次～第11次調査のKという記号は、「I 概要」で述べたように、過去との比較に重きをおいたK型調査票の質問番号およびその集計結果を表し、Mは将来のために改良または新設した質問を主としたM型調査票の質問番号とその集計結果を示す。また、K+Mとあるのは、当該質問が両調査票で用いられた場合の全体についての集計を示す。
- 第2次調査も調査票を2種類作り、一方は問1から、他方は問101から始まっている。ただし、同一質問の集計結果は両者を合わせたものしか示していない。
- ×印は、その回の調査では質問していないことを示す。

3. [D.K.] 集計表にあげられた選択肢のうちD.K. (Don't Know)は「わからない」の意味であるが、第8次全国調査までは、調査員につきのように指示した。

「サンプルが質問の内容を理解しないときは、質問をくりかえし、それでもわからないようならD.K. (Don't Know)とすること。質問の内容は、だれでもわかるはずの言葉を使うように心がけている。中には二、三その範囲を越えることもあるが、統計調査であるから、この言葉で質問したとき、D.K.の人がどのくらいいたかは大切なデータとなるので、いいかえたりしないこと。」

前々回の第9次調査からは、前述のように、面接調査を専門調査機関に委託した。調査担当者の説明を聞く限り、調査機関とわれわれとの間に、選択肢の“その他”と“D.K.”について解釈のズレはないが、第8次と第9次調査の間で、質問によってはこれらの選択肢の結果数値に断層が見られる。すなわち、第9次～第11次の結果は、それまでに比べて、“その他”が少なく、“D.K.”が多めである。したがって、結果的には、両者についての調査現場での解釈に相違があったと考えざるを得ない。しかし、“その他”と“D.K.”を一括すると数値に大きな差はない。

4. 【質問文の体裁】 質問文は、原則として第8次までの調査票に印刷した通りの体裁で示した。第9次調査からは調査票が専門調査機関で通常用いている体裁に変わっているが、調査は個別訪問面接聴取法で行われ、調査員が質問文を読み上げる方式なので、調査対象者の目に直接質問文の体裁が触れることはない。

回答記入欄も第8次までの調査票の体裁で示した。リスト(選択肢を記入して回答者に示す)を使用した質問は質問文の前に[リスト]とある(第9次調査からは調査票には[回答票]と記されている)。なお、回答者用のリストには選択肢のみを印刷し、“その他”、“D.K.”は入っていない。

5. 【集計表の数値】 (a) 集計表の数値は%を示すもので、第1次から第11次までのすべての結果について、小数点以下を四捨五入してある。

具体的には、サンプルサイズを n 、当該選択肢の回答者数を m とするとき、 $100m/n$ の商 p と余り q を求め、 $2q < n$ ならば p そのままを、 $2q \geq n$ ならば $p+1$ を、四捨五入した%とした。

集計表中の%で、“0”は四捨五入して0%であることを、“-”はその回答者が全くないなかったことを示す。また、“*”は調査回によって当該選択肢が設けられていなかったことを示す。

(b) 集計表の計欄は、個々の選択肢の四捨五入した後の%を合計した数値で、必ずしも100(%)とはなっていない。また、()内は、集計に用いたサンプルサイズである。

(c) 本リポートに収録した結果数値(%)は、過去の研究リポート等に収録した%とわずかに異なる場合がある。それは、過去の調査のデータについて見直しを行ったこと、また過去の数値では、丸め方法の違いや、合計が100%になるようにいずれかの選択肢の%を増減して調整することがあったからである。

§ 1 基本項目

#1.1 性

#1.2 年齡

	問	1 2		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	計
		男	女	20 ~ 24	25 ~ 29	30 ~ 34	35 ~ 39	40 ~ 44	45 ~ 49	50 ~ 54	55 ~ 59	60 ~ 64	65 ~ 69	70 以上	
I (1953)	1	47	53	19	15	11	11	10	8	9	6	5	3	3	100(2,254)
II (1958)	1 ¹ 101	46	54	15	14	14	10	11	9	7	7	6	4	4	101(2,369)
III (1963)	性 年齡	46	54	12	13	14	12	10	9	9	6	6	4	4	99(2,698)
IV (1968)	性 年齡	47	53	12	13	13	13	11	8	7	7	6	4	4	98(3,033)
V (1973)	K+M	45	55	14	12	12	12	12	10	8	7	5	4	5	101(4,594)
	K ^性 年齡	46	54	14	12	12	11	12	10	7	7	5	4	5	99(3,055)
	M ^性 年齡	43	57	13	11	12	13	12	10	9	7	5	4	5	101(1,539)
VI (1978)	K+M	44	56	10	12	12	11	11	11	8	7	6	5	7	100(3,945)
	K ^性 年齡	44	56	9	12	12	13	11	11	9	7	5	5	7	101(2,032)
	M ^性 年齡	43	57	10	12	13	10	11	11	8	7	7	4	6	99(1,913)
VII (1983)	K+M	44	56	9	9	12	11	11	11	10	8	6	5	7	99(4,429)
	K ^性 年齡	44	56	9	9	12	11	11	12	10	8	6	5	7	100(2,256)
	M ^性 年齡	45	55	9	9	13	11	10	11	10	9	6	5	7	100(2,173)
VIII (1988)	K+M	45	55	10	8	9	13	10	10	9	9	8	6	8	100(3,682)
	K ^性 年齡	45	55	9	8	10	13	10	10	8	9	8	6	9	100(1,858)
	M ^性 年齡	44	56	11	8	8	13	11	10	10	8	8	6	8	101(1,824)
IX (1993)	K+M	46	54	8	7	8	9	13	11	10	10	10	7	7	100(3,738)
	K ^性 年齡	46	54	8	8	8	9	13	11	10	9	10	6	7	99(1,833)
	M ^性 年齡	47	53	8	7	9	9	12	11	10	10	10	7	7	100(1,905)
X (1998)	K+M	45	55	7	7	8	8	8	11	10	10	11	8	12	100(2,680)
	K ^性 年齡	46	54	8	5	8	7	8	11	10	10	11	8	13	99(1,339)
	M ^性 年齡	45	55	6	8	7	9	8	12	11	10	11	8	11	101(1,341)
XI (2003)	K+M	46	54	5	6	8	8	8	8	12	10	11	10	14	100(2,350)
	K ^性 年齡	46	54	5	6	8	9	9	8	12	10	11	10	12	100(1,192)
	M ^性 年齡	47	53	5	7	8	7	8	8	12	9	12	9	15	100(1,158)

#1.3 学歴

あなたが、最後にいらっしゃった学校はなんですか？

- 1 小学校 [学歴なしを含む]
- 2 新制中学 [旧制高等小学]
- 3 新制高校 [工(商)業高校]
旧制中学校 [中学校、工(商)業学校、(高等)女学校]
- 4 大学、短大、高専 [旧制高等学校、工(商)業専門、高等工(商)業]
- 5 その他 [1～4のどれに当たるか分らないときは最終学校名記入]

	問	1 小 学	2 中 学	3 高 校	4 大 学	5 そ の 他	計
I (1953)	55	33	35	24	6	2	100(2, 254)
II (1958)	^{32a} 132a	31	37	24	7	2	101(2, 369)
III (1963)	学歴	21	41	29	8	1	100(2, 698)
IV (1968)	学歴	16	40	34	10	0	100(3, 033)
V (1973)	K+M	15	30	41	12	2	100(4, 594)
	K学歴	15	30	42	11	2	100(3, 055)
	M29	14	31	40	13	2	100(1, 539)
VI (1978)	K+M	10	32	40	16	2	100(3, 945)
	K学歴	10	32	41	15	2	100(2, 032)
	M学歴	11	32	39	17	1	100(1, 913)
VII (1983)	K+M	8	29	43	19	1	100(4, 429)
	K学歴	8	29	43	19	1	100(2, 256)
	M学歴	9	29	43	18	1	100(2, 173)
VIII (1988)	K+M	8	24	45	22	1	100(3, 682)
	K学歴	8	23	44	23	1	99(1, 858)
	M学歴	7	25	46	21	1	100(1, 824)
IX (1993)	K+M	5	22	47	25	1	100(3, 738)
	K40	4	23	46	26	0	99(1, 833)
	M34	5	22	49	24	1	101(1, 905)
X (1998)	K+M	5	21	46	26	1	99(2, 680)
	K38	6	22	45	26	1	100(1, 339)
	M34	5	20	48	27	1	101(1, 341)
XI (2003)	K+M	3	20	48	29	0	100(2, 350)
	K38	3	19	48	30	0	100(1, 192)
	M33	4	20	47	28	1	100(1, 158)

#1.4c 職業 (新形式)

[リスト] では、あなたのお仕事の種類は、つぎのどれに当たりますか？

1 農林水産業	
2 自営の商工業	
3 専門、自由業 (教員、医者など)	
4 管理職 (課長以上)	
5 事務系の勤め人 (ホワイトカラー)	
6 作業系の勤め人 (ブルーカラー)	
7 主婦 (専業主婦)	
8 学生、無職	
	9 D. K.

	問	1 農 林 水 産 業	2 自 営 の 商 工 業	3 専 門 ・ 自 由 業	4 管 理 職	5 事 務 系 の 勤 め 人	6 作 業 系 の 勤 め 人	7 主 婦	8 学 生 ・ 無 職	9 D. K.	計
I (1953)	×										
II (1958)	×										
III (1963)	×										
IV (1968)	×										
注) V (1973)	K+M	13	10	5	3	16	16	26	10	1	100(4,594)
	K職業	13	10	5	3	16	16	26	10	1	100(3,055)
	M30	13	11	5	2	15	16	27	10	1	100(1,539)
VI (1978)	×										
VII (1983)	×										
VIII (1988)	K+M	7	12	7	5	16	20	18	13	1	99(3,682)
	K職業b	7	13	8	5	15	21	18	13	1	101(1,858)
	M職業b	8	12	7	5	17	20	18	13	1	101(1,824)
IX (1993)	K+M	7	12	5	6	17	24	19	10	1	101(3,738)
	K41b	7	13	5	6	16	25	19	9	1	101(1,833)
	M35b	7	11	5	6	17	24	19	11	0	100(1,905)
X (1998)	K+M	6	12	5	5	16	23	18	15	0	100(2,680)
	K39	5	11	5	5	16	23	18	16	0	99(1,339)
	M35	7	13	4	5	16	23	18	14	0	100(1,341)
XI (2003)	K+M	5	11	6	5	14	23	19	16	0	99(2,350)
	K39	5	10	7	5	14	23	20	15	0	99(1,192)
	M34	5	12	5	5	14	22	18	18	0	99(1,158)

注) 第5次(1973)調査のコード(#1.4*)は順序を変えて#1.4cに組み込んだ。

#1.5 市郡別

	問	1	2	3	4	5	6	7	計
		区 6 大 都 市	市					町 村	
			50 万 以 上	20 } 50 万	10 } 20 万	5 } 10 万	5 万 未 満		
I (1953)	—	14	7		6	6	7	61	101(2,254)
II (1958)	—	15	10		9	9	13	44	100(2,369)
III (1963)	—	16	12		11	11	11	38	99(2,698)
IV (1968)	—	17	17		10	12	11	32	99(3,033)
V (1973)	K+M	18	23		9	12	10	28	100(4,594)
	K	18	23		10	12	10	28	101(3,055)
	M	18	23		9	12	10	28	100(1,539)
VI (1978)	K+M	15	26		10	15	8	26	100(3,945)
	K	15	27		10	15	8	25	100(2,032)
	M	16	26		10	15	8	26	101(1,913)
VII (1983)	K+M	14	8	20	11	14	7	25	99(4,429)
	K	14	8	20	12	14	7	25	100(2,256)
	M	14	8	20	11	14	7	25	99(2,173)
VIII (1988)	K+M	12	9	20	11	14	7	26	99(3,682)
	K	12	9	20	11	15	7	26	100(1,858)
	M	13	9	21	11	13	7	26	100(1,824)
IX (1993)	K+M	12	10	21	11	14	6	25	99(3,738)
	K	12	10	21	11	15	6	25	100(1,833)
	M	13	10	22	11	14	5	25	100(1,905)
X (1998)	K+M	12	10	22	13	11	8	24	100(2,680)
	K	12	11	21	13	11	8	24	100(1,339)
	M	12	10	22	13	12	7	25	101(1,341)
XI (2003)	K+M	13	12	18	13	14	6	23	99(2,350)
	K	12	12	19	14	14	6	23	100(1,192)
	M	13	12	18	12	14	6	24	99(1,158)

#1.6 地方別

北海道：北海道

東北：青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島

関東：茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川

中部(東)：新潟、山梨、長野、静岡

中部(西)：富山、石川、福井、岐阜、愛知

近畿：三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

中国：鳥取、島根、岡山、広島、山口

四国：香川、愛媛、徳島、高知

九州：福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、(V以降)沖縄

問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	
	北海道	東北	関東(東)	中部(西)	中部(東)	近畿	中国	四国	九州		
I (1953) ^{注)}	—	5	14	17	12	9	11	16		16	100(1,370)
II (1958)	—	5	10	24	8	9	14	8	5	15	98(2,369)
III (1963)	—	5	10	23	9	10	17	8	4	13	99(2,698)
IV (1968)	—	5	10	25	9	9	16	8	4	13	99(3,033)
V (1973)	K+M	4	9	28	8	10	18	7	3	13	100(4,594)
	K	4	9	28	8	10	17	7	3	13	99(3,055)
	M	5	9	28	7	11	18	7	3	12	100(1,539)
VI (1978)	K+M	4	9	28	8	11	18	7	3	12	100(3,945)
	K	4	9	28	8	11	18	7	3	12	100(2,032)
	M	4	9	28	8	11	18	6	3	13	100(1,913)
VII (1983)	K+M	4	9	29	8	10	17	7	4	12	100(4,429)
	K	4	9	29	8	10	17	7	4	11	99(2,256)
	M	5	8	28	8	10	17	7	4	12	99(2,173)
VIII (1988)	K+M	5	8	26	10	10	17	7	4	12	99(3,682)
	K	5	8	27	10	10	17	7	4	12	100(1,858)
	M	5	9	26	10	9	17	8	4	12	100(1,824)
IX (1993)	K+M	5	8	29	9	10	15	7	4	13	100(3,738)
	K	5	8	28	9	10	15	8	4	13	100(1,833)
	M	5	8	29	9	10	16	7	4	13	101(1,905)
X (1998)	K+M	5	8	27	8	10	18	8	4	13	101(2,680)
	K	5	8	27	8	9	17	8	4	13	99(1,339)
	M	5	8	27	8	10	18	8	4	12	100(1,341)
XI (2003)	K+M	5	8	29	8	11	15	7	3	13	99(2,350)
	K	5	8	29	9	10	15	7	3	13	99(1,192)
	M	6	9	29	8	11	15	6	3	13	100(1,158)

注) 第1次(1953)調査は郡部のみの集計

#1.8 帰属階層

[リスト] かりに現在の日本の社会全体を、この表にかいてあるように5つの層に分けるとすれば、お宅は、このどれに入るとお思いますか？

1	上
2	中の上
3	中の中
4	中の下
5	下
6	その他 [記入]
7	D. K.

	問	1 上	2 中 の 上	3 中 の 中	4 中 の 下	5 下	6 そ の 他	7 DK	計
I (1953)	×								
II (1958)	×								
III (1963)	×								
IV (1968)	×								
V (1973)	×								
VI (1978)	×								
VII (1983)	K+M	2	12	53	26	5	0	2	100(4, 429)
	K33	2	13	53	24	5	0	2	99(2, 256)
	M30	1	11	52	28	5	0	3	100(2, 173)
VIII (1988)	K+M	1	12	52	27	5	0	2	99(3, 682)
	K32	2	12	52	27	5	0	2	100(1, 858)
	M23	1	13	51	27	5	0	3	100(1, 824)
IX (1993)	K+M	1	12	58	23	3	-	2	99(3, 738)
	K37	1	11	57	23	4	-	3	99(1, 833)
	M22	2	12	58	23	2	-	2	99(1, 905)
X (1998)	M24	1	10	57	26	4	-	2	100(1, 341)
XI (2003)	M24	1	10	57	25	4	-	3	100(1, 158)

#1.22 世帯人員数

最後に、あなたの世帯には、全部で何人の方が住んでいらっしゃいますか？

_____ 人

	問	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人	6 人	7 人	8 人	9 人	DK	計
I (1953)	×											
II (1958)	×											
III (1963)	×											
IV (1968)	×											
V (1973)	×											
VI (1978)	×											
VII (1983)	×											
VIII (1988)	×											
IX (1993)	×											
X (1998)	×											
	K+M	8	24	21	23	12	8	3	1	0	0	100(2,350)
XI (2003)	K40	8	23	20	24	12	8	3	1	0	0	99(1,192)
	M35	7	25	23	22	12	8	3	1	0	0	101(1,158)

§ 2 個人的態度

#2.1 しきたりに従うか

あなたは、自分が正しいと思えば世のしきたりに反しても、それをおし通すべきだと思いますか、それとも世間のしきたりに、従った方がまちがいないと思いますか？

1 おし通せ	
2 従え	
3 場合による	
4 その他 [記入]	5 D. K.

	問	1 お し 通 せ	2 従 え	3 場 合 に よ る	4 そ の 他	5 D. K.	計
I (1953)	4	41	35	19	1	4	100(2, 254)
II (1958)	⁷ 107	41	35	19	1	4	100(2, 369)
III (1963)	7	40	32	25	1	2	100(2, 698)
IV (1968)	8	42	34	20	2	2	100(3, 033)
V (1973)	K11	36	32	29	0	3	100(3, 055)
VI (1978)	K 6	30	42	24	2	2	100(2, 032)
VII (1983)	K+M	29	39	29	1	2	100(4, 429)
	K 6	30	37	30	1	2	100(2, 256)
	M 5	29	40	28	1	2	100(2, 173)
VIII (1988)	K 7	27	36	35	1	2	101(1, 858)
IX (1993)	K 6	26	30	42	0	2	100(1, 833)
X (1998)	K 7	27	32	39	0	2	100(1, 339)
XI (2003)	K 7	21	27	48	1	3	100(1, 192)

#2.2b スジかまるるか

[リスト] 物事の「スジを通すこと」に重点をおく人と、物事を「まるくおさめること」に重点をおく人では、どちらがあなたの好きな“ひとがら”ですか？

- | | |
|----------------------|---------|
| 1 「スジを通すこと」に重点をおく人 | |
| 2 「まるくおさめること」に重点をおく人 | |
| 3 その他 [記入] | 4 D. K. |

	問	1 スジを通す	2 まるく おさめる	3 そ の 他	4 D. K.	計
I (1953)	×					
II (1958)	×					
III (1963)	×					
IV (1968)	×					
V (1973)	×					
VI (1978)	K13	44	50	4	2	100 (2, 032)
VII (1983)	K27	45	51	2	2	100 (2, 256)
VIII (1988)	K25	42	54	2	2	100 (1, 858)
IX (1993)	K28	38	56	2	4	100 (1, 833)
X (1998)	K29	43	54	1	2	100 (1, 339)
XI (2003)	K30	42	52	2	4	100 (1, 192)

#2.3d 社会に満足か

[リスト] あなたは、「社会」に対して満足していますか、それとも不満がありますか？

1 満 足	
2 やや満足	
3 やや不満	
4 不 満	
5 その他 [記入]	6 D. K.

	問	1 満 足	2 やや 満足	3 やや 不満	4 不 満	5 そ の 他	6 D. K.	計
I (1953)	×							
II (1958)	×							
III (1963)	×							
IV (1968)	×							
V (1973)	M 9b	6	20	37	30	1	6	100(1, 539)
VI (1978)	M 5b	9	28	38	19	1	5	100(1, 913)
VII (1983)	K+M	9	31	39	18	1	2	100(4, 429)
	K32b	9	29	39	20	1	2	100(2, 256)
	M19	9	34	39	16	1	2	101(2, 173)
VIII (1988)	K+M	6	29	43	18	1	3	100(3, 682)
	K31b	7	28	44	19	1	2	101(1, 858)
	M20b	6	30	42	18	1	3	100(1, 824)
IX (1993)	M20a	6	44	38	10	0	2	100(1, 905)
X (1998)	M21a	4	24	50	21	0	2	101(1, 341)
XI (2003)	M20a	3	27	51	17	0	2	100(1, 158)

注) 第5次(1973)～第7次(1983)K型、第8次(1988)調査の質問文では
前問(#2.3c)に続けて
では、社会に対してはどうですか？

#2.3i 仕事や職場に満足か

[リスト] では、「仕事や職場」についてはどうですか？

1 満 足	
2 やや満足	
3 やや不満	
4 不 満	
5 その他 [記入]	6 D. K.

	問	1 満 足	2 やや 満足	3 やや 不満	4 不 満	5 そ の 他	6 D. K.	計
I (1953)	×							
II (1958)	×							
III (1963)	×							
IV (1968)	×							
V (1973)	×							
VI (1978)	×							
VII (1983)	×							
VIII (1988)	×							
IX (1993)	M20b	16	42	21	3	1	16	99(1, 905)
X (1998)	M21b	13	38	27	6	0	16	100(1, 341)
XI (2003)	M20b	13	36	27	6	3	16	101(1, 158)

#2.3c 家庭に満足か

[リスト] では、「家庭」についてはどうですか？

1 満 足	
2 やや満足	
3 やや不満	
4 不 満	
5 その他 [記入]	6 D. K.

	問	1 満 足	2 やや 満足	3 やや 不満	4 不 満	5 そ の 他	6 D. K.	計
I (1953)	×							
II (1958)	×							
III (1963)	×							
IV (1968)	×							
V (1973)	M 9a	47	33	13	5	1	1	100(1,539)
VI (1978)	M 5a	54	32	8	4	0	1	99(1,913)
VII (1983)	K32a	53	33	10	3	0	1	100(2,256)
VIII (1988)	×							
IX (1993)	M20c	51	40	7	1	0	0	99(1,905)
X (1998)	M21c	44	44	10	1	0	1	100(1,341)
XI (2003)	M20c	35	52	10	2	0	1	100(1,158)

注) 第5次(1973)～第7次(1983) 調査の質問文は以下のとおり。
あなたは自分の家庭に満足していますか、それとも不満がありますか？

#2.3j 余暇に満足か

[リスト] では、「余暇（レジャー）の過ごし方」についてはどうですか？

1 満 足	
2 やや満足	
3 やや不満	
4 不 満	
5 その他 [記入]	6 D. K.

	問	1 満 足	2 やや 満足	3 やや 不満	4 不 満	5 そ の 他	6 D. K.	計
I (1953)	×							
II (1958)	×							
III (1963)	×							
IV (1968)	×							
V (1973)	×							
VI (1978)	×							
VII (1983)	×							
VIII (1988)	×							
IX (1993)	M20d	20	48	25	6	0	2	101 (1,905)
X (1998)	M21d	22	48	22	5	0	2	99 (1,341)
XI (2003)	M20d	22	49	22	5	0	1	99 (1,158)

#2.3k 健康状態に満足か

[リスト] では、「自分の健康状態」についてはどうですか？

1 満 足	
2 やや満足	
3 やや不満	
4 不 満	
5 その他 [記入]	6 D. K.

	問	1 満 足	2 やや 満足	3 やや 不満	4 不 満	5 そ の 他	6 D. K.	計
I (1953)	×							
II (1958)	×							
III (1963)	×							
IV (1968)	×							
V (1973)	×							
VI (1978)	×							
VII (1983)	×							
VIII (1988)	×							
IX (1993)	M20e	34	41	21	4	0	0	100(1,905)
X (1998)	M21e	27	41	24	7	-	0	99(1,341)
XI (2003)	M20e	23	44	25	8	-	0	100(1,158)

#2.31 生活全体に満足か

[リスト] では、「自分の生活全体」についてはどうですか？

1 満 足	
2 やや満足	
3 やや不満	
4 不 満	
5 その他 [記入]	6 D. K.

	問	1 満 足	2 やや 満足	3 やや 不満	4 不 満	5 そ の 他	6 D. K.	計
I (1953)	×							
II (1958)	×							
III (1963)	×							
IV (1968)	×							
V (1973)	×							
VI (1978)	×							
VII (1983)	×							
VIII (1988)	×							
IX (1993)	M20f	23	58	17	3	0	0	101 (1, 905)
X (1998)	M21f	21	55	20	3	0	0	99 (1, 341)
XI (2003)	M20f	18	58	20	3	0	1	100 (1, 158)

#2.3h くらしむき満足か

[リスト] あなたは、自分の暮らし向きに満足していますか、それとも、不満がありますか？

1	満 足	
2	やや満足	
3	やや不満	
4	不 満	
5	その他 [記入]	6 D. K.

	問	1 満 足	2 や や 満 足	3 や や 不 満	4 不 満	5 そ の 他	6 D. K.	計
I (1953)	×							
II (1958)	×							
III (1963)	×							
IV (1968)	×							
V (1973)	×							
VI (1978)	×							
VII (1983)	×							
VIII (1988)	K+M	30	45	19	5	0	0	99(3,682)
	K31a	32	44	17	6	0	0	99(1,858)
	M20a	29	45	20	5	1	1	101(1,824)
IX (1993)	×							
X (1998)	×							
XI (2003)	M13	30	48	17	5	0	0	100(1,158)

#2.4 くらし方

[リスト] 人のくらし方には、いろいろあるでしょうが、つぎにあげるものうちで、どれが一番、あなた自身の気持に近いものですか？

- | | |
|---|---|
| 1 | 一生けんめい働き、金持ちになること |
| 2 | まじめに勉強して、名をあげること |
| 3 | 金や名誉を考えずに、自分の趣味にあったくらし方をすること |
| 4 | その日その日を、のんきにクヨクヨしないでくらすこと |
| 5 | 世の中の正しくないことを押しつけて、どこまでも清く正しくくらすこと |
| 6 | 自分の一身のことを考えずに、社会のためにすべてを捧 ^{ささ} げてくらすこと |
| 7 | その他 [記入] |
| 8 | D. K. |

	問	1 金 持 ち	2 名 を あ げ る	3 趣 味	4 の ん き に	5 清 く 正 し く	6 社 会 つ に く す	7 そ の 他	8 D. K.	計
I (1953)	39	15	6	21	11	29	10	4	4	100(2,254)
II (1958)	22	17	3	26	19	22	6	3	3	99(920)
III (1963)	26	17	4	30	19	18	6	3	3	100(2,698)
IV (1968)	31	17	3	32	20	17	6	2	3	100(3,033)
V (1973)	K34	14	3	39	23	11	4	2	3	99(3,055)
VI (1978)	K19	14	2	39	22	11	7	2	4	101(2,032)
	K+M	18	2	38	23	9	5	2	4	101(4,429)
VII (1983)	K20	20	2	38	20	10	6	2	4	102(2,256)
	M20	15	2	38	26	9	4	2	3	99(2,173)
	K+M	15	3	41	23	9	4	2	3	100(3,682)
VIII (1988)	K18	17	3	38	23	9	4	2	3	99(1,858)
	M 9	13	2	44	23	9	4	2	3	100(1,824)
	K+M	17	3	40	26	6	4	2	3	101(3,738)
IX (1993)	K22	17	2	38	25	6	5	3	3	99(1,833)
	M10	16	3	41	26	6	4	1	3	100(1,905)
X (1998)	K22	15	3	41	23	8	4	2	4	100(1,339)
XI (2003)	K24	17	4	39	23	7	4	4	4	102(1,192)

#2.5 自然と人間との関係

[リスト] 自然と人間との関係について、つぎのような意見があります。あなたがこのうち真実に近い（ほんとうのことに近い）と思うものを、ひとつだけえらんで下さい？

- | | | |
|---|--------------------------------|---------|
| 1 | 人間が幸福になるためには、自然に従わなければならない | |
| 2 | 人間が幸福になるためには、自然を利用しなければならない | |
| 3 | 人間が幸福になるためには、自然を征服してゆかなければならない | |
| 4 | その他 [記入] | 5 D. K. |

	問	1 自然 に従 え	2 自然 を 利用	3 自然 を 征 服	4 そ の 他	5 D. K.	計
I (1953)	34	26	41	23	1	8	99(2,254)
II (1958)	15	20	37	28	1	13	99(920)
III (1963)	15	19	40	30	1	10	100(2,698)
IV (1968)	17	19	40	34	1	7	101(3,033)
V (1973)	K+M	31	45	17	1	7	101(4,594)
	K23	30	45	16	1	7	99(3,055)
	M20	32	44	18	1	6	101(1,539)
VI (1978)	K16	33	44	16	1	6	100(2,032)
VII (1983)	K+M	36	47	11	1	4	99(4,429)
	K17	41	41	12	1	4	99(2,256)
	M17	31	53	11	1	4	100(2,173)
VIII (1988)	K15	42	44	9	1	4	100(1,858)
IX (1993)	K19	48	38	7	0	7	100(1,833)
X (1998)	K19	49	39	6	1	5	100(1,339)
XI (2003)	K21	45	43	5	2	6	101(1,192)

#2.7 一番大切なもの

あなたにとって一番大切と思うものはなんですか。一つだけあげてください？
 (なんでもかまいません)
 [品物、愛情、子供などなんでもよいが、こちらからは絶対に例をあげるな]

(自由回答)

	問	1 生 命 健 康 自 分	2 子 供	3 家 族	4 家 族 先 祖	5 金 財 産	6 愛 情 精 神	7 仕 事 信 用	8 国 家 社 会	9 そ の 他	10 DK 特 に な し	計
I (1953)	×											
II (1958)	29 129	22	11	12	3	15	16	7	6	1	6	99(2,369)
III (1963)	29	28	10	13	3	11	19	5	3	1	7	100(2,698)
IV (1968)	34	29	9	13	3	9	22	5	4	1	6	101(3,033)
V (1973)	K41	21	8	18	2	9	22	5	5	1	10	101(3,055)
VI (1978)	K32	23	7	23	1	6	27	6	4	1	3	101(2,032)
VII (1983)	K13	22	9	31	2	8	19	5	1	1	3	101(2,256)
VIII (1988)	K11	22	10	33	2	6	18	3	1	2	4	101(1,858)
IX (1993)	K10	17	10	42	1	4	16	3	1	2	4	100(1,833)
X (1998)	K10a	22	9	40	1	3	17	3	2	1	3	101(1,339)
XI (2003)	K10a	21	7	45	1	5	13	2	2	1	3	100(1,192)

注) 第10次(1998)調査では、本項目をアフターコーディングする際のカテゴリ基準の見直しを行い、第2次(1958)～第9次(1993)調査についても再集計を行った。このため、第2次～第9次の数値は、従来発表されているものと若干異なる。

[参考]

あなたの家で一番大切と思うものはなんですか。一つだけあげてください？なぜそれが一番大切ですか？

	問	1 生 命 健 康 自 分	2 子 供	3 家 族	4 家 族 先 祖	5 金 財 産	6 愛 情 精 神	7 仕 事 信 用	8 国 家 社 会	9 そ の 他	10 DK 特 に な し	計
I (1953)	47	12	12	19	*	16	11	*	*	25	5	100(2,254)

*はその他に入れてある。

#2.7a2 二番大切なもの

では、あなたにとって二番目に大切と思うものはなんですか？
 [なんでもよいが、こちらからは絶対に例をあげるな]

(自由回答)

	問	1 生命・健康・自分	2 子 供	3 家 族	4 家 族 先 祖	5 金 財 産	6 愛 情 精 神	7 仕 事 信 用	8 国 家 社 会	9 そ の 他	10 DK 特 に な し	計
I (1953)	×											
II (1958)	×											
III (1963)	×											
IV (1968)	×											
V (1973)	×											
VI (1978)	×											
VII (1983)	×											
VIII (1988)	×											
IX (1993)	×											
X (1998)	K10b	16	5	22	1	17	18	8	4	2	8	101(1,339)
XI (2003)	K10b	19	4	22	1	18	16	7	3	2	8	100(1,192)

#2.8 一生働くか

もし、一生楽に生活できるだけのお金がたまったら、あなたはずっと働きますか、それとも働くのをやめますか？

- | | |
|------------|---------|
| 1 ずっと働く | |
| 2 働くのをやめる | |
| 3 その他 [記入] | 4 D. K. |

	問	1 ず っ と 働 く	2 働 く の を や め る	3 そ の 他	4 D. K.	計
I (1953)	×					
II (1958)	×					
III (1963)	×					
IV (1968)	×					
V (1973)	M 2	70	25	3	2	100 (1, 539)
VI (1978)	K 1	69	25	3	3	100 (2, 032)
	K+M	70	24	3	3	100 (4, 429)
VII (1983)	K 2	73	23	2	2	100 (2, 256)
	M 1	67	25	4	3	99 (2, 173)
	K+M	65	28	5	3	101 (3, 682)
VIII (1988)	K 3	68	25	5	2	100 (1, 858)
	M 1	62	30	5	3	100 (1, 824)
IX (1993)	M 1	60	33	2	5	100 (1, 905)
X (1998)	M 4	64	31	1	4	100 (1, 341)
XI (2003)	M 3	59	35	3	3	100 (1, 158)

#2.10 幸福かためになることか

[リスト] 2人の人が、つぎのような意見をのべました。あなたは、どちらの意見に賛成ですか？

- | | |
|---|---------|
| 1 人間として生れてきたからには、自分がしあわせにくらすことが第一だ | |
| 2 人間として生れてきたからには、なにか小さなことでも、世の中のためになることをしたい | |
| 3 その他 [記入] | 4 D. K. |

	問	1 しあ わせ すに	2 た世 めの 中 に な る	3 そ の 他	4 D. K.	計
I (1953)	×					
II (1958)	×					
III (1963)	×					
IV (1968)	×					
V (1973)	M11	27	66	2	4	99(1,539)
VI (1978)	×					
VII (1983)	×					
VIII (1988)	×					
IX (1993)	×					
X (1998)	K25	35	62	1	2	100(1,339)
XI (2003)	K26	36	59	1	4	100(1,192)

#2.11 好きなくらし方か人のためか

[リスト] あなたは、つぎの2つの暮らし方のうち、どちらに賛成ですか？

- | | |
|---|---------------------------------|
| 1 | 人のためにはならなくても、自分の好きなことをしたい |
| 2 | 自分の好きなことかどうかはともかく、人のためになることをしたい |
| 3 | その他 [記入] |
| 4 | D. K. |

	問	1 好自 き分 なの こと	2 人 なの るた こめ とに	3 そ の 他	4 D. K.	計
I (1953)	×					
II (1958)	×					
III (1963)	×					
IV (1968)	×					
V (1973)	×					
VI (1978)	M 6	35	55	5	5	100 (1, 913)
VII (1983)	K21a	37	55	4	5	101 (2, 256)
VIII (1988)	K+M	42	49	4	4	99 (3, 682)
	K19	40	52	5	4	101 (1, 858)
	M10	44	47	4	5	100 (1, 824)
IX (1993)	M11	44	48	2	6	100 (1, 905)
X (1998)	M10	38	53	3	6	100 (1, 341)
XI (2003)	M 9	40	52	4	5	101 (1, 158)

#2.12 他人のためか自分のためか

たいていの人は、他人の役にたとうとしていると思いますか、それとも、自分のことだけに気をくばっていると思いますか？

1 他人の役にたとうとしている	
2 自分のことだけに気をくばっている	
3 その他 [記入]	4 D. K.

	問	1 他人の役に	2 自分のことだけ	3 その他	4 D. K.	計
I (1953)	×					
II (1958)	×					
III (1963)	×					
IV (1968)	×					
V (1973)	×					
VI (1978)	K27	19	74	3	4	100(2,032)
VII (1983)	K 7	24	62	9	5	100(2,256)
VIII (1988)	×					
IX (1993)	K14	29	58	5	7	99(1,833)
X (1998)	K14	30	60	3	6	99(1,339)
XI (2003)	K14	34	51	6	9	100(1,192)

#2.12b スキがあれば利用されるか

他人は、スキがあれば、あなたを利用しようとしていると思いますか、それとも、そんなことはないと思いますか？

- | | |
|-----------------|---------|
| 1 利用しようとしていると思う | |
| 2 そんなことはないと思う | |
| 3 その他 [記入] | 4 D. K. |

	問	1 と 利用 して いる う	2 は そ ん な こ と	3 そ の 他	4 D. K.	計
I (1953)	×					
II (1958)	×					
III (1963)	×					
IV (1968)	×					
V (1973)	×					
VI (1978)	K28	39	53	3	5	100(2, 032)
VII (1983)	K 8	29	59	7	5	100(2, 256)
VIII (1988)	×					
IX (1993)	K15	25	65	2	8	100(1, 833)
X (1998)	K15	28	61	2	9	100(1, 339)
XI (2003)	K15	25	62	3	9	99(1, 192)

注) 『第4日本人の国民性』では#7.20ciに分類

#2.12c 人は信頼できるか

たいていの人は信頼できると思いますか、それとも、用心するにこしたことはないと思いますか？

- | | |
|--------------------|---------|
| 1 信頼できると思う | |
| 2 用心するにこしたことはないと思う | |
| 3 その他 [記入] | 4 D. K. |

	問	1 信 頼 で き る	2 用 心 が し た 方 が よ い	3 そ の 他	4 D. K.	計
I (1953)	×					
II (1958)	×					
III (1963)	×					
IV (1968)	×					
V (1973)	×					
VI (1978)	K29	26	68	3	3	100 (2, 032)
VII (1983)	K 9	31	61	5	2	99 (2, 256)
VIII (1988)	×					
IX (1993)	K16	38	55	3	4	100 (1, 833)
X (1998)	K16	33	62	2	4	101 (1, 339)
XI (2003)	K16	33	59	3	5	100 (1, 192)

注) 『第4日本人の国民性』では#7. 20bに分類

#2.13 将来に備えるか楽しむか

[リスト] 若いときは、将来に備えるための時期であり、また、楽しむための時期でもあると思います。あなたはそのどちらの方に重点をおくべきだと思いますか？

- | | |
|--------------------|---------|
| 1 将来に備える方に重点をおくべきだ | |
| 2 楽しむ方に重点をおくべきだ | |
| 3 その他 [記入] | 4 D. K. |

	問	1 将来に 備えるに 方	2 楽しむ 方	3 その 他	4 D. K.	計
I (1953)	×					
II (1958)	×					
III (1963)	×					
IV (1968)	×					
V (1973)	×					
VI (1978)	M 7	72	23	2	2	99(1, 913)
VII (1983)	×					
VIII (1988)	K20	69	27	3	2	101(1, 858)
IX (1993)	M13	67	29	2	2	100(1, 905)
X (1998)	M12	65	30	2	3	100(1, 341)
XI (2003)	M11	66	30	2	2	100(1, 158)

#2.30 不安感 重い病気

〔リスト〕ときどき、自分自身のことや家族のことで、不安になることがあると思います。あなたは、つぎのような危険について、不安を感じるがありますか。

まず、「重い病気」の不安は、どの程度でしょうか？

1 非常に感じる	6 D. K.
2 かなり感じる	
3 少しは感じる	
4 まったく感じない	
5 その他〔記入〕	

	問	1 非常に 感じる	2 かなり 感じる	3 少しは 感じる	4 まった く感 じな い	5 そ の 他	6 D. K.	計
I (1953)	×							
II (1958)	×							
III (1963)	×							
IV (1968)	×							
V (1973)	×							
VI (1978)	×							
VII (1983)	M25a	29	27	35	8	0	1	100(2, 173)
VIII (1988)	×							
IX (1993)	×							
X (1998)	M15a	27	23	35	15	-	0	100(1, 341)
XI (2003)	M14a	23	21	40	16	0	0	100(1, 158)

#2.30c 不安感 街での暴力

[リスト] では、「街での暴力」については、どの程度でしょうか？

1 非常に感じる	
2 かなり感じる	
3 少しは感じる	
4 まったく感じない	
5 その他 [記入]	6 D. K.

	問	1 非常に 感じる	2 かなり 感じる	3 少しは 感じる	4 ま った く 感 じ な い	5 そ の 他	6 D. K.	計
I (1953)	×							
II (1958)	×							
III (1963)	×							
IV (1968)	×							
V (1973)	×							
VI (1978)	×							
VII (1983)	M25c	23	20	37	17	1	2	100(2, 173)
VIII (1988)	×							
IX (1993)	×							
X (1998)	M15b	16	22	39	23	-	1	101(1, 341)
XI (2003)	M14b	16	25	37	21	-	1	100(1, 158)

#2.30d 不安感 交通事故

[リスト] では、「交通事故」については、どうでしょうか？

1 非常に感じる	
2 かなり感じる	
3 少しは感じる	
4 まったく感じない	
5 その他 [記入]	6 D. K.

	問	1 非常に 感じる	2 かなり 感じる	3 少しは 感じる	4 まった く感 じな い	5 そ の 他	6 D.K.	計
I (1953)	×							
II (1958)	×							
III (1963)	×							
IV (1968)	×							
V (1973)	×							
VI (1978)	×							
VII (1983)	M25d	43	34	19	3	0	1	100 (2, 173)
VIII (1988)	×							
IX (1993)	×							
X (1998)	M15c	30	38	27	6	0	0	101 (1, 341)
XI (2003)	M14c	25	36	34	5	-	0	100 (1, 158)

#2.30e 不安感 失業

[リスト] では、「失業」については、どうでしょうか？

1 非常に感じる	
2 かなり感じる	
3 少しは感じる	
4 まったく感じない	
5 その他 [記入]	6 D. K.

	問	1 非常に 感じる	2 かなり 感じる	3 少しは 感じる	4 ま った く 感 じ な い	5 そ の 他	6 D. K.	計
I (1953)	×							
II (1958)	×							
III (1963)	×							
IV (1968)	×							
V (1973)	×							
VI (1978)	×							
VII (1983)	M25e	23	19	31	23	1	2	99(2, 173)
VIII (1988)	×							
IX (1993)	×							
X (1998)	M15d	20	25	31	21	0	3	100(1, 341)
XI (2003)	M14d	20	24	33	21	0	2	100(1, 158)

#2.30f 不安感 戦争

[リスト] では、「戦争」については、どうでしょうか？

1 非常に感じる	
2 かなり感じる	
3 少しは感じる	
4 まったく感じない	
5 その他 [記入]	6 D. K.

	問	1 非常に 感じる	2 かなり 感じる	3 少しは 感じる	4 まった く感 じな い	5 そ の 他	6 D.K.	計
I (1953)	×							
II (1958)	×							
III (1963)	×							
IV (1968)	×							
V (1973)	×							
VI (1978)	×							
VII (1983)	M25f	34	19	31	13	1	2	100(2, 173)
VIII (1988)	×							
IX (1993)	×							
X (1998)	M15e	26	16	34	23	-	1	100(1, 341)
XI (2003)	M14e	28	23	33	15	-	1	100(1, 158)

#2. 30g 不安感 原子力施設の事故

[リスト] では、「原子力施設の事故」については、どうでしょうか？

1 非常に感じる	
2 かなり感じる	
3 少しは感じる	
4 まったく感じない	
5 その他 [記入]	6 D. K.

	問	1 非常に 感じる	2 かなり 感じる	3 少しは 感じる	4 まった く感 じな い	5 そ の 他	6 D. K.	計
I (1953)	×							
II (1958)	×							
III (1963)	×							
IV (1968)	×							
V (1973)	×							
VI (1978)	×							
VII (1983)	M25g	26	20	36	13	1	4	100(2,173)
VIII (1988)	×							
IX (1993)	×							
X (1998)	M15f	26	26	32	14	-	2	100(1,341)
XI (2003)	M14f	26	23	33	15	0	2	99(1,158)

#2. 30h 不安感 経済面の不安

[リスト] では、「最近の生活の中での経済面の不安」については、どうでしょうか？

1 非常に感じる	
2 かなり感じる	
3 少しは感じる	
4 まったく感じない	
5 その他 [記入]	6 D. K.

	問	1 非常に 感じる	2 かなり 感じる	3 少しは 感じる	4 まった く感 じな い	5 そ の 他	6 D. K.	計
I (1953)	×							
II (1958)	×							
III (1963)	×							
IV (1968)	×							
V (1973)	×							
VI (1978)	×							
VII (1983)	×							
VIII (1988)	×							
IX (1993)	×							
X (1998)	M15g	18	31	38	13	-	1	101 (1, 341)
XI (2003)	M14g	15	28	44	12	0	0	99 (1, 158)

#2.80a 病気 頭痛

[リスト] ここ1ヶ月の間につきにあげるものに悩みましたか (かかりましたか) ?
 まず、「頭痛、偏頭痛」についてはどうですか？

- | | | |
|---|----------|---------|
| 1 | かかったことあり | |
| 2 | かかったことなし | |
| 3 | その他 [記入] | 4 D. K. |

	問	1 か こ か つ た こ と あ た り	2 か か つ た こ と な し	3 そ の 他	4 D. K.	計
I (1953)	×					
II (1958)	×					
III (1963)	×					
IV (1968)	×					
V (1973)	×					
VI (1978)	×					
VII (1983)	×					
VIII (1988)	×					
IX (1993)	M25a	25	75	0	0	100(1, 905)
X (1998)	M28a	28	72	-	-	100(1, 341)
XI (2003)	M27a	28	71	-	0	99(1, 158)

#2. 80b 病気 背中の痛み

[リスト] では、「背中の痛み」についてはどうですか？

1	かかったことあり	
2	かかったことなし	
3	その他 [記入]	4 D. K.

	問	1 か か こ こ あ あ り	2 か か こ こ な な し	3 そ の 他	4 D. K.	計
I (1953)	×					
II (1958)	×					
III (1963)	×					
IV (1968)	×					
V (1973)	×					
VI (1978)	×					
VII (1983)	×					
VIII (1988)	×					
IX (1993)	M25b	25	74	0	0	99 (1, 905)
X (1998)	M28b	27	73	-	-	100 (1, 341)
XI (2003)	M27b	26	74	0	0	100 (1, 158)

#2.80c 病気 いろいろ

[リスト] では、「いろいろ」についてはどうですか？

1 かかったことあり	
2 かかったことなし	
3 その他 [記入]	4 D. K.

	問	1 か か つ た こ と あ た り	2 か か つ た こ と な し	3 そ の 他	4 D. K.	計
I (1953)	×					
II (1958)	×					
III (1963)	×					
IV (1968)	×					
V (1973)	×					
VI (1978)	×					
VII (1983)	×					
VIII (1988)	×					
IX (1993)	M25c	38	62	0	0	100 (1, 905)
X (1998)	M28c	46	54	-	-	100 (1, 341)
XI (2003)	M27c	45	55	0	0	100 (1, 158)

#2.80d* 病気 ゆううつ

[リスト] では、「ゆううつになる、気がふさぐ」についてはどうですか？

1	かかったことあり	
2	かかったことなし	
3	その他 [記入]	4 D. K.

	問	1 か か こ と あ り	2 か か こ と な し	3 そ の 他	4 D. K.	計
I (1953)	×					
II (1958)	×					
III (1963)	×					
IV (1968)	×					
V (1973)	×					
VI (1978)	×					
VII (1983)	×					
VIII (1988)	×					
IX (1993)	×					
X (1998)	×					
XI (2003)	M27d	35	65	0	0	100 (1, 158)

[参考]

#2.80d 病気 うつ状態

[リスト] では、「うつ状態」についてはどうですか？

1	かかったことあり	
2	かかったことなし	
3	その他 [記入]	4 D. K.

	問	1 か か こ と あ り	2 か か こ と な し	3 そ の 他	4 D. K.	計
I (1953)	×					
II (1958)	×					
III (1963)	×					
IV (1968)	×					
V (1973)	×					
VI (1978)	×					
VII (1983)	×					
VIII (1988)	×					
IX (1993)	M25d	8	92	0	0	100 (1, 905)
X (1998)	M28d	10	90	-	0	100 (1, 341)
XI (2003)	×					

#2.80e 病気 不眠症

[リスト] では、「不眠症」についてはどうですか？

1	かかったことあり	
2	かかったことなし	
3	その他 [記入]	4 D. K.

	問	1 か か こ こ あ あ た り	2 か か こ こ な な し	3 そ の 他	4 D. K.	計
I (1953)	×					
II (1958)	×					
III (1963)	×					
IV (1968)	×					
V (1973)	×					
VI (1978)	×					
VII (1983)	×					
VIII (1988)	×					
IX (1993)	M25e	15	85	0	0	100(1, 905)
X (1998)	M28e	18	82	-	-	100(1, 341)
XI (2003)	M27e	22	78	-	0	100(1, 158)

§ 3 宗 教

#3.1 宗教を信じるか

宗教についておききたいのですが、
たとえば、あなたは、何か信仰とか信心とかを持っていますか？

- | |
|-----------------------|
| 1 もっている、信じている |
| 2 もっていない、信じていない、関心がない |

	問	1 信じている	2 信じて いない	計
I (1953)	×			
II (1958)	16a	35	65	100(920)
III (1963)	28a	31	69	100(2,698)
IV (1968)	33a	30	70	100(3,033)
V (1973)	K19a	25	75	100(3,055)
VI (1978)	K11a	34	66	100(2,032)
VII (1983)	K15a	32	68	100(2,256)
VIII (1988)	K13a	31	69	100(1,858)
IX (1993)	K12a	33	67	100(1,833)
X (1998)	K12a	29	71	100(1,339)
XI (2003)	K12a	30	70	100(1,192)

#3.2b 「宗教心」は大切か

それでは、いままでの宗教にはかかわりなく、「宗教的な心」というものを、大切だと思いますか、それとも大切だとは思いませんか？

1 大切	
2 大切でない	
3 その他 [記入]	4 D. K.

	問	1 大 切	2 大 な 切 いで	3 そ の 他	4 D. K.	計
I (1953)	×					
II (1958)	×					
III (1963)	×					
IV (1968)	×					
V (1973)	×					
VI (1978)	×					
VII (1983)	K15b	80	11	5	4	100 (2, 256)
VIII (1988)	K13b	72	15	8	5	100 (1, 858)
IX (1993)	K12b	72	14	3	11	100 (1, 833)
X (1998)	K12b	68	20	2	10	100 (1, 339)
XI (2003)	K12b	70	15	3	12	100 (1, 192)

[参考]

#3.2 「宗教心」は大切か

[これは前問 #3.1 の答が 1 の人には質問しない] それでは、いままでの宗教にはかかわりなく、「宗教的な心」というものを、大切だと思いますか、それとも大切だとは思いませんか？

1 大切	
2 大切でない	
3 その他 [記入]	4 D. K.

	問	1 大 切	2 大 な 切 い で	3 そ の 他	4 D. K.	計
I (1953)	×					
II (1958)	16c	70	17	2	11	100(600)
III (1963)	28b	77	13	4	6	100(1, 870)
IV (1968)	33b	76	14	5	5	100(2, 113)
V (1973)	K19b	69	15	6	10	100(2, 303)
VI (1978)	K11b	74	13	4	8	99(1, 335)
VII (1983)	×					
VIII (1988)	×					
IX (1993)	×					
X (1998)	×					
XI (2003)	×					

注) 第1次(1958)～第6次(1978)調査では前問 #3.1の答が2の人のみに質問、第7次(1983)調査以降は#3.2bとして全員に質問した。

#3.9 首相の伊勢参り

あたらしく総理大臣になったとき、伊勢の皇大神宮にお参りに行く人がありますが、あなたはこのことをどう思いますか？

1 行かねばならぬ	7 D. K.
2 行った方がよい	
3 本人の自由だ	
4 行かない方がよい	
5 行くべきではない	
6 その他 [記入]	

	問	1 行 か な ら ぬ	2 行 っ た 方 が よ い	3 本 人 の 自 由	4 行 か な い 方 が よ い	5 行 く べ き で は な い	6 そ の 他	7 DK	計
I (1953)	14	7	50	23	6	2	2	10	100(2,254)
II (1958)	110	5	33	27	12	5	2	16	100(1,449)
III (1963)	10	4	28	41	9	5	3	10	100(2,698)
IV (1968)	11	3	28	33	14	6	6	10	100(3,033)
V (1973)	K14	4	21	48	10	5	3	9	100(3,055)
VI (1978)	K 7	3	17	51	7	5	8	9	100(2,032)
VII (1983)	M 6	2	19	52	6	4	9	8	100(2,173)
VIII (1988)	K 9	2	16	59	6	4	7	6	100(1,858)
IX (1993)	K 8	2	17	64	6	3	1	8	101(1,833)
X (1998)	K 9	2	16	62	6	4	1	9	100(1,339)
XI (2003)	K 9	3	16	63	6	3	1	9	101(1,192)

§ 4 子供・家

§ 4.1 子供

#4.4 先生が悪いことをした

「先生が何か悪いことをした」というような話を、子供が聞いてきて、親にたずねたとき、親はそれがほんとうであることを知っている場合、子供には

「そんなことはない」

といった方がよいと思いますか、それとも

「それはほんとうだ」

といった方がよいと思いますか？

1 そんなことはないという	
2 ほんとうだという	
3 その他 [記入]	4 D. K.

	問	1 そ な な い こ と は	2 ほ ん と う だ い う	3 そ の 他	4 D. K.	計
I (1953)	9	38	42	12	7	99(2,254)
II (1958)	6	38	40	11	11	100(920)
III (1963)	4	33	50	10	8	101(2,698)
IV (1968)	4	29	52	11	7	99(3,033)
V (1973)	K 5	31	54	6	8	99(3,055)
VI (1978)	K 4	27	57	8	8	100(2,032)
VII (1983)	K 4	26	59	9	6	100(2,256)
VIII (1988)	K 5	23	62	9	6	100(1,858)
IX (1993)	K 4	24	59	6	11	100(1,833)
X (1998)	K 5	20	64	5	10	99(1,339)
XI (2003)	K 5	15	64	8	12	99(1,192)

#4.5 子供に「金は大切」と教える

小学校に行っているくらいの子供をそだてるのに、つぎのような意見があります。
 「小さいときから、お金は人にとって、いちばん大切なものだ教えるのがよい」というのです。あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか？

1 賛成	
2 反対	
3 いちがいにはいえない	
4 その他 [記入]	5 D. K.

	問	1 賛 成	2 反 対	3 はい いち えが ない に	4 そ の 他	5 D. K.	計
I (1953)	24-1	65	24	9	0	2	100(2,254)
II (1958)	×						
III (1963)	5	59	23	15	1	1	99(2,698)
IV (1968)	5	57	28	12	1	2	100(3,033)
V (1973)	K 6	44	38	17	0	1	100(3,055)
VI (1978)	K 5	44	40	13	1	2	100(2,032)
VII (1983)	K+M	43	42	13	1	1	100(4,429)
	K 5	43	42	13	1	1	100(2,256)
	M 4	43	41	14	1	1	100(2,173)
VIII (1988)	K 6	35	47	16	1	1	100(1,858)
IX (1993)	K 5	35	45	18	0	1	99(1,833)
X (1998)	K 6	31	51	17	0	1	100(1,339)
XI (2003)	K 6	30	48	20	0	1	99(1,192)

#4.13 就職のとき

[リスト] 学校を卒業して、仕事のため、家から離れて行く自分の子供に、2人の親がつぎのように言いました。親としては、どちらの言い方がよいと思いますか？

- | | | |
|---|-----------------------------|---------|
| 1 | こまったことがあったら、まず親に相談しなさい | |
| 2 | 今後はこまったことがあっても、親を頼りにしてはいけない | |
| 3 | その他 [記入] | 4 D. K. |

	問	1 相 談 し な さ い	2 頼 る な	3 そ の 他	4 D. K.	計
I (1953)	×					
II (1958)	×					
III (1963)	×					
IV (1968)	×					
V (1973)	M15a	58	37	2	3	100 (1, 539)
VI (1978)	M12a	67	30	2	2	101 (1, 913)
VII (1983)	×					
VIII (1988)	M13a	61	36	2	2	101 (1, 824)
IX (1993)	×					
X (1998)	M14	76	22	1	2	101 (1, 341)
XI (2003)	M12a	73	21	3	3	100 (1, 158)

#4.13b 嫁入りのとき

[リスト] では、娘が嫁に行く場合は、どちらがよいと思いますか？

- | | | |
|---|-----------------------------|---------|
| 1 | こまったことがあったら、まず親に相談しなさい | |
| 2 | 今後はこまったことがあっても、親を頼りにしてはいけない | |
| 3 | その他 [記入] | 4 D. K. |

	問	1 相 談 し な さ い	2 頼 る な	3 そ の 他	4 D. K.	計
I (1953)	×					
II (1958)	×					
III (1963)	×					
IV (1968)	×					
V (1973)	M15b	54	42	1	3	100 (1, 539)
VI (1978)	M12b	57	39	2	3	101 (1, 913)
VII (1983)	×					
VIII (1988)	M13b	59	37	2	2	100 (1, 824)
IX (1993)	×					
X (1998)	×					
XI (2003)	M12b	72	23	2	3	100 (1, 158)

#4.16 子供の将来の性質

[リスト] 子供がいるとしたら、あなたは、将来、どのような性質を持つ大人になってほしいと思いますか。つぎの中から、特に重要と思うものを3つ選んでください？

[上の質問では、3つの項目をあげてもらおうこと]

1	礼儀正しさ	
2	規則を守り、人に迷惑をかけない公共心	
3	公正さや正義感	
4	他人のことを思いやる心	
5	落ち着きや情緒の安定	
6	責任感	
7	人前で自分の意見をはっきり言う力	
8	自分で物事を計画し実行する力	
9	特にない	
10	その他 [記入]	11 D. K.

	問	1 礼 儀 正 し さ	2 公 共 心	3 正 義 感	4 思 い や る 心	5 情 緒 の 安 定	6 責 任 感	7 人 前 で 言 う 力	8 実 行 意 見 力	9 特 に な い	10 そ の 他	11 DK	計 (複数回答)
I (1953)	×												
II (1958)	×												
III (1963)	×												
IV (1968)	×												
V (1973)	×												
VI (1978)	×												
VII (1983)	×												
VIII (1988)	×												
IX (1993)	×												
	K+M	38	62	18	66	9	47	30	23	0	2	0	— (2, 680)
X (1998)	K23	39	61	18	67	9	47	31	22	0	2	0	— (1, 339)
	M13	38	63	17	65	9	47	29	23	0	2	1	— (1, 341)
XI (2003)	K25	40	59	16	68	10	46	27	24	0	3	0	— (1, 192)

§ 4.2 家

#4.10 他人の子供を養子にするか

子供がないときは、たとえ血のつながりがない他人の子供でも、養子にもらって家をつがせた方がよいと思いますか、それとも、つがせる必要はないと思いますか？

- | | |
|-------------------|---------|
| 1 つがせた方がよい | |
| 2 つがせないでもよい、意味がない | |
| 3 場合による | |
| 4 その他 [記入] | 5 D. K. |

	問	1 つが せる	2 つが せない	3 場 合 に よ る	4 そ の 他	5 D. K.	計
I (1953)	28-1	74	16	7	1	3	101 (2, 254)
II (1958)	106	63	21	8	1	7	100 (1, 449)
III (1963)	2	51	32	12	1	4	100 (2, 698)
IV (1968)	2	43	41	9	2	5	100 (3, 033)
V (1973)	K 3	36	41	17	1	5	100 (3, 055)
VI (1978)	K 3	32	48	12	1	7	100 (2, 032)
VII (1983)	M 3	27	51	15	2	5	100 (2, 173)
VIII (1988)	K 2	28	52	15	2	3	100 (1, 858)
IX (1993)	K 2	22	56	16	1	5	100 (1, 833)
X (1998)	K 2	22	58	16	0	4	100 (1, 339)
XI (2003)	K 2	18	57	19	1	5	100 (1, 192)

#4.11 先祖を尊ぶか

あなたはどちらかといえば、先祖を尊ぶ方ですか、それとも尊ばない方ですか？

1 尊ぶ方	
2 普通	
3 尊ばない方	
4 その他 [記入]	5 D. K.

	問	1 尊 ぶ 方	2 普 通	3 尊 ば な い 方	4 そ の 他	5 D. K.	計
I (1953)	3	77	15	5	1	2	100(2,254)
II (1958)	×						
III (1963)	×						
IV (1968)	×						
V (1973)	K20	67	21	10	1	1	100(3,055)
VI (1978)	K10	72	16	10	1	1	100(2,032)
VII (1983)	K14	71	15	13	1	1	101(2,256)
VIII (1988)	K12	66	21	12	1	1	101(1,858)
IX (1993)	K11	65	27	7	0	1	100(1,833)
X (1998)	K11	60	27	12	0	1	100(1,339)
XI (2003)	K11	59	31	9	0	0	99(1,192)

#4.32 離婚すべきでないか

[リスト] つぎの3つの意見の中で、どれが1番あなたの意見に近いですか？

- | | |
|------------------------|---------|
| 1 離婚はすべきでない | |
| 2 ひどい場合には、離婚してもよい | |
| 3 二人の合意さえあれば、いつ離婚してもよい | |
| 4 その他 [記入] | 5 D. K. |

	問	1 離 婚 す べ き で な い き	2 ひ ど い に は 離 婚 合 場 合	3 合 意 あ れ ば 離 婚 ば	4 そ の 他	5 D. K.	計
I (1953)	×						
II (1958)	×						
III (1963)	×						
IV (1968)	×						
V (1973)	×						
VI (1978)	×						
VII (1983)	M11	35	39	22	2	2	100 (2, 173)
VIII (1988)	×						
IX (1993)	×						
X (1998)	×						
XI (2003)	M21	27	44	27	1	2	101 (1, 158)

§ 5 身近な社会

#5.1 恩人がキトクするとき

〔絵を見せながら〕南山さんという人は、小さいときに両親に死に別れ、となりの親切な西木野さんに育てられて、大学まで卒業させてもらいました。そして、南山さんはある会社の社長にまで出世しました。ところが故郷の、育ててくれた、西木野さんが「キトクだからスグカエレ」という電報を受けとったとき、南山さんの会社がつぶれるか、つぶれないか、ということがきまってしまう大事な会議があります。

〔ここでリストを見せる〕あなたはつぎのどちらの態度をとるのがよいと思いますか。よいと思う方を一つだけえらんで下さい？

- | | |
|---------------------------|---------|
| 1 何をおいても、すぐ故郷へ帰る | |
| 2 故郷のことが気になっても、大事な会議に出席する | |
| 3 その他 [記入] | 4 D. K. |

	問	1 故郷へ帰る	2 会議に出る	3 その他	4 D. K.	計
I (1953)	41	54	41	1	4	100(2, 254)
II (1958)	111a	50	39	2	9	100(1, 449)
III (1963)	13a	46	46	2	5	99(2, 698)
IV (1968)	15a	46	47	2	5	100(3, 033)
V (1973)	K21a	51	40	2	8	101(3, 055)
VI (1978)	K15a	51	42	1	5	99(2, 032)
	K+M	52	41	2	5	100(4, 429)
VII (1983)	K16a	52	41	3	4	100(2, 256)
	M16a	52	41	2	5	100(2, 173)
VIII (1988)	K14a	52	41	3	4	100(1, 858)
IX (1993)	K18a	49	42	1	8	100(1, 833)
X (1998)	K18a	46	45	1	8	100(1, 339)
XI (2003)	K20a	41	48	2	9	100(1, 192)

#5.1b 親がキトクするとき

[絵、リスト] いまの質問では、恩人が死にそうなときを、うかがいましたが、もしキトクなのが恩人ではなくて、南山さんの親だったら、どうしたらよいと思いますか、どちらかえらんで下さい？

- | | |
|---------------------------|---------|
| 1 何をおいても、すぐ故郷へ帰る | |
| 2 故郷のことが気になっても、大事な会議に出席する | |
| 3 その他 [記入] | 4 D. K. |

	問	1 故郷へ 帰る	2 会議に 出る	3 そ の 他	4 D. K.	計
I (1953)	42	49	47	1	3	100(2, 254)
II (1958)	111b	50	41	2	7	100(1, 449)
III (1963)	13b	45	47	2	6	100(2, 698)
IV (1968)	15b	44	49	3	4	100(3, 033)
V (1973)	K21b	51	41	2	7	101(3, 055)
VI (1978)	K15b	49	44	1	5	99(2, 032)
VII (1983)	K+M	49	45	2	4	100(4, 429)
	K16b	49	45	2	3	99(2, 256)
	M16b	49	45	2	4	100(2, 173)
VIII (1988)	K14b	53	41	2	4	100(1, 858)
IX (1993)	K18b	48	44	1	7	100(1, 833)
X (1998)	K18b	44	47	1	8	100(1, 339)
XI (2003)	K20b	40	51	1	8	100(1, 192)

#5.1 恩人がキトクのととき×#5.1b 親がキトクのととき

	恩人	1 故郷	2 故郷	3 会議	4 会議	5 その他 の 組合せ	計
	親	会議	故郷	故郷	会議		
I (1953)	41 42	15	38	9	31	6	99(2, 254)
II (1958)	111a 111b	11	37	10	27	14	99(1, 449)
III (1963)	13a 13b	10	34	9	35	11	99(2, 698)
IV (1968)	15a 15b	12	32	11	35	9	99(3, 033)
V (1973)	K21a K21b	9	40	8	30	12	99(3, 055)
VI (1978)	K15a K15b	12	38	9	31	9	99(2, 032)
VII (1983)	K+M	13	38	9	31	9	100(4, 429)
	K16a K16b	12	38	9	31	9	99(2, 256)
	M16a M16b	13	37	10	31	9	100(2, 173)
VIII (1988)	K14a K14b	9	41	10	30	9	99(1, 858)
IX (1993)	K18a K18b	9	40	6	35	10	100(1, 833)
X (1998)	K18a K18b	9	36	6	38	11	100(1, 339)
XI (2003)	K20a K20b	9	31	6	41	12	99(1, 192)

#5. 1c-1入社試験（親戚）

〔リスト〕あなたが、ある会社の社長だったとします。その会社で、新しく職員を一人採用するために試験をしました。入社試験をまかせておいた課長が、「社長のご親戚の方は2番でした。しかし、私としましては、1番の人でも、ご親戚の方でも、どちらでもよいと思いますがどうでしょうか」と社長のあなたに報告しました。あなたはどちらをとれ（採用しろ）といますか？

1	1番の人を採用するよういいう	
2	親戚を採用するよういいう	
3	その他〔記入〕	4 D. K.

	問	1 1番の 人	2 親戚の 人	3 そ の 他	4 D. K.	計
I (1953)	×					
II (1958)	×					
III (1963)	20a	75	19	2	4	100 (2, 698)
IV (1968)	22a	78	17	2	4	101 (3, 033)
V (1973)	K+M	73	19	1	7	100 (4, 594)
	K28a	73	19	1	7	100 (3, 055)
	M16a	72	19	1	8	100 (1, 539)
VI (1978)	K21a	72	22	2	4	100 (2, 032)
VII (1983)	K+M	70	23	3	4	100 (4, 429)
	K22a	71	23	2	4	100 (2, 256)
	M21a	70	23	3	4	100 (2, 173)
VIII (1988)	K21a	70	24	3	3	100 (1, 858)
IX (1993)	K25a	67	24	1	8	100 (1, 833)
X (1998)	K26a	70	22	1	7	100 (1, 339)
XI (2003)	K27a	73	18	1	8	100 (1, 192)

#5.1c-2入社試験（恩人の子）

[リスト] それでは、このばあい、2番になったのがあなたの親戚の子供でなくて、あなたの恩人の子供だったとしたら、あなたはどうしますか？（どちらをとれといいますか？）

- | | | |
|---|-----------------|---------|
| 1 | 1番の人を採用するようという | |
| 2 | 恩人の子供を採用するようという | |
| 3 | その他 [記入] | 4 D. K. |

	問	1 1番の 人	2 恩人 の子	3 そ の 他	4 D. K.	計
I (1953)	×					
II (1958)	×					
III (1963)	20b	48	44	2	6	100(2,698)
IV (1968)	22b	54	39	2	5	100(3,033)
V (1973)	K+M	52	38	2	8	100(4,594)
	K28b	52	39	2	8	101(3,055)
	M16b	52	38	1	9	100(1,539)
VI (1978)	K21b	47	46	2	5	100(2,032)
VII (1983)	K+M	46	47	2	5	100(4,429)
	K22b	46	47	2	5	100(2,256)
	M21b	47	46	3	5	101(2,173)
VIII (1988)	K21b	45	49	3	4	101(1,858)
IX (1993)	K25b	45	44	2	9	100(1,833)
X (1998)	K26b	49	42	1	8	100(1,339)
XI (2003)	K27b	54	35	2	10	101(1,192)

#5.1c-1入社試験（親戚）×#5.1c-2入社試験（恩人の子）

	親戚	1 1 番	2 親 戚	3 親 戚	4 1 番	5 そ の 組 他 合 の せ	計
	の恩 子人	恩 人	恩 人	1 番	1 番		
I (1953)	×						
II (1958)	×						
III (1963)	20a 20b	25	17	2	46	10	100(2,698)
IV (1968)	22a 22b	23	14	2	52	10	101(3,033)
V (1973)	K+M	20	16	2	49	12	99(4,594)
	K28a K28b	20	17	2	50	12	101(3,055)
	M16a M16b	21	16	2	49	13	101(1,539)
VI (1978)	K21a K21b	25	20	2	45	8	100(2,032)
	K+M	24	21	2	44	9	100(4,429)
VII (1983)	K22a K22b	24	21	2	44	9	100(2,256)
	M21a M21b	23	20	2	44	10	99(2,173)
	K21a K21b	26	21	2	42	9	100(1,858)
IX (1993)	K25a K25b	21	22	2	43	12	100(1,833)
X (1998)	K26a K26b	21	20	2	47	11	101(1,339)
XI (2003)	K27a K27b	18	16	2	52	13	101(1,192)

#5.1d 大切な道徳

[リスト] つぎのうち、大切なことを2つあげてくれといわれたら、どれにしますか？

[上の質問では、2つの項目をあげてもらうこと]

1 親孝行をすること	
2 恩返しをすること	
3 個人の権利を尊重すること	
4 自由を尊重すること	
5 その他 [記入]	6 D. K.

	問	1 親 孝 行	2 恩 返 し	3 権 利 尊 重	4 自 由 尊 重	5 そ の 他	6 D. K.	計 (複数回答)
I (1953)	×							
II (1958)	×							
III (1963)	17	60	43	49	40	1	2	— (2,698)
IV (1968)	20	61	44	43	46	0	2	— (3,033)
V (1973)	K26	63	42	45	43	1	2	— (3,055)
VI (1978)	K18	70	47	38	39	0	2	— (2,032)
VII (1983)	K19	73	50	36	37	0	1	— (2,256)
VIII (1988)	K17	71	47	36	42	0	1	— (1,858)
IX (1993)	K21	69	43	38	42	3	2	— (1,833)
X (1998)	K21	70	43	40	43	0	1	— (1,339)
XI (2003)	K23	73	47	37	37	0	1	— (1,192)

#5.1d 大切な道德の組合せ

	問	1 孝 行 × 恩 返	2 孝 行 × 權 利	3 孝 行 × 自 由	4 恩 返 × 權 利	5 恩 返 × 自 由	6 權 利 × 自 由	7 は 孝 恩 返 の み 又	8 は 權 自 利 の み 又	9 そ の 組 他 の 合 せ	計
I (1953)	×										
II (1958)	×										
III (1963)	17	28	19	12	8	7	21	1	1	3	100(2,698)
IV (1968)	20	28	15	18	8	8	19	1	1	2	100(3,033)
V (1973)	K26	28	17	16	8	6	20	1	1	3	100(3,055)
VI (1978)	K18	34	17	19	7	7	14	1	0	2	101(2,032)
VII (1983)	K19	36	18	18	6	7	12	1	0	1	99(2,256)
VIII (1988)	K17	34	16	21	6	7	14	1	1	1	101(1,858)
IX (1993)	K21	31	17	20	6	6	15	-	-	4	99(1,833)
X (1998)	K21	31	19	19	5	8	15	1	1	1	100(1,339)
XI (2003)	K23	33	19	19	6	7	11	2	1	1	99(1,192)

#5.6 めんどうをみる課長

[リスト] ある会社につきのような2人の課長がいます。もしあなたが使われるとしたら、どちらの課長につかわれる方がよいと思いますか、どちらか一つあげて下さい？

- | | |
|---|---------|
| 1 規則をまげてまで、無理な仕事をさせることはありませんが、仕事以外のことで人のめんどうを見ません | |
| 2 時には規則をまげて、無理な仕事をさせることもありますが、仕事のこと以外でも人のめんどうをよく見ます | |
| 3 その他 [記入] | 4 D. K. |

	問	1 めん み な い を	2 めん ど う を み る を	3 そ の 他	4 D. K.	計
I (1953)	35	12	85	1	2	100 (2, 254)
II (1958)	117	14	78	2	7	101 (1, 449)
III (1963)	21	12	82	1	5	100 (2, 698)
IV (1968)	23	12	84	1	4	101 (3, 033)
V (1973)	K29	13	81	1	5	100 (3, 055)
VI (1978)	K22	10	87	0	3	100 (2, 032)
VII (1983)	K+M	9	89	1	2	101 (4, 429)
	K23	8	89	0	2	99 (2, 256)
	M22	9	88	1	2	100 (2, 173)
VIII (1988)	K+M	10	87	1	2	100 (3, 682)
	K22	10	88	1	2	101 (1, 858)
	M18	10	87	1	3	101 (1, 824)
IX (1993)	K26	12	82	0	5	99 (1, 833)
X (1998)	K27	16	80	0	4	100 (1, 339)
XI (2003)	K28	18	77	0	5	100 (1, 192)

#5. 6*2 めんどうをみる課長

[リスト] ある会社につきのような2人の課長がいます。もしあなたが使われるとしたら、どちらの課長につかわれる方がよいと思いますか、どちらか一つあげて下さい？

- | | | |
|---|---|---------|
| 1 | 仕事以外のことでは人のめんどうを見ませんが、規則をまげてまで、無理な仕事をさせることもありません | |
| 2 | 仕事のこと以外でも人のめんどうをよく見ますが、時には規則をまげて、無理な仕事をさせることもあります | |
| 3 | その他 [記入] | 4 D. K. |

	問	1 めん み な い を	2 めん ど う を みる	3 そ の 他	4 D. K.	計
I (1953)	×					
II (1958)	×					
III (1963)	×					
IV (1968)	×					
V (1973)	×					
VI (1978)	×					
VII (1983)	×					
VIII (1988)	×					
IX (1993)	×					
X (1998)	×					
XI (2003)	M16	42	50	1	7	100 (1, 158)

#5.6* 上役とのつき合い

あなたが会社で働いているとします。その場合、上役と仕事以外のつき合いはなくてもよいと思いますか、それともあった方がよいと思いますか？

1	なくてもよい	
2	あった方がよい	
3	その他 [記入]	4 D. K.

	問	1 なく ても よい	2 あ っ た 方 が よ い	3 そ の 他	4 D. K.	計
I (1953)	×					
II (1958)	×					
III (1963)	×					
IV (1968)	×					
V (1973)	M 5	22	72	2	5	101 (1, 539)
VI (1978)	×					
VII (1983)	×					
VIII (1988)	×					
IX (1993)	×					
X (1998)	M 9	39	55	2	4	100 (1, 341)
XI (2003)	M 8	38	55	3	4	100 (1, 158)

#5. 6b つとめたい会社

[リスト] つぎのような2つの会社があるとします。もしあなたがつとめるとしたら、どちらの会社の方がよいですか？

- | | | |
|---|--------------------------------------|---------|
| 1 | 給料は多いが、レクリエーションのための運動会や旅行などはしない会社 | |
| 2 | 給料はいくらか少ないが、運動会や旅行などをして、家族的な雰囲気のある会社 | |
| 3 | その他 [記入] | 4 D. K. |

	問	1 多 給 料 が 会 社	2 家 族 的 な 雰 囲 気 な	3 そ の 他	4 D. K.	計
I (1953)	×					
II (1958)	×					
III (1963)	×					
IV (1968)	×					
V (1973)	M18	21	74	1	4	100 (1, 539)
VI (1978)	K23	18	78	1	3	100 (2, 032)
VII (1983)	×					
VIII (1988)	×					
IX (1993)	M19	30	65	1	4	100 (1, 905)
X (1998)	M20	34	62	1	3	100 (1, 341)
XI (2003)	M19	44	53	1	3	101 (1, 158)

#5.6e 課長－ヨメの世話

友達と雑談していたとき、その友達が自分の会社についてこんなことをいっ
たとします。

「うちの会社では、課長が何人もの部下のおヨメさんの世話をした」
というのです。こういう会社は、「いい感じ」がしますか、それとも、「いや
な感じ」がしますか？

1 いい感じ	
2 いやな感じ	
3 その他 [記入]	4 D. K.

	問	1 いい 感じ	2 いや な感 じ	3 そ の 他	4 D. K.	計
I (1953)	×					
II (1958)	×					
III (1963)	×					
IV (1968)	×					
V (1973)	×					
VI (1978)	K30a	45	35	10	9	99 (2, 032)
VII (1983)	×					
VIII (1988)	×					
IX (1993)	×					
X (1998)	×					
XI (2003)	K17a	30	41	10	19	100 (1, 192)

#5.6f 課長一引越し

では、

「うちの会社では、課長が引越した、たとえば、部下の方から進んで手伝いに行く」といったら、こういう会社は「いい感じ」がしますか、「いやな感じ」がしますか？

1 いい感じ	
2 いやな感じ	
3 その他 [記入]	4 D. K.

	問	1 いい 感じ	2 いや な 感じ	3 そ の 他	4 D. K.	計
I (1953)	×					
II (1958)	×					
III (1963)	×					
IV (1968)	×					
V (1973)	×					
VI (1978)	K30b	58	29	6	7	100(2,032)
VII (1983)	×					
VIII (1988)	×					
IX (1993)	×					
X (1998)	×					
XI (2003)	K17b	41	38	7	14	100(1,192)

#5.6h 他人との仲か仕事か

[リスト] つぎのうち、あなたはどちらが人間として望ましいとお考えですか？

- | | |
|---|----------------------------------|
| 1 | 他人と仲がよく、なにかと頼りになるが、仕事の上ではパツとしない人 |
| 2 | 仕事はよくできるが、他人の事情や心配事には無関心な人 |
| 3 | その他 [記入] |
| 4 | D. K. |

	問	1 他人と 仲がよ い	2 仕事よ くでき る	3 そ の 他	4 D. K.	計
I (1953)	×					
II (1958)	×					
III (1963)	×					
IV (1968)	×					
V (1973)	×					
VI (1978)	K14	72	11	7	10	100(2, 032)
VII (1983)	K26	75	11	6	8	100(2, 256)
VIII (1988)	×					
IX (1993)	K27	77	12	3	9	101(1, 833)
X (1998)	K28	77	11	2	10	100(1, 339)
XI (2003)	K29	72	13	3	12	100(1, 192)

#5.23 能力か功労か

会社で給料や賃金を決めるときに、その人の現在の能力を重視して決めるべきだと思いますか、それとも、その人のこれまでの会社に対する功労を重視して決めるべきだと思いますか？

- | | |
|---|------------------------------|
| 1 | その人の現在の能力を重視して決めるべきだ |
| 2 | その人のこれまでの会社に対する功労を重視して決めるべきだ |
| 3 | その他[記入] |
| 4 | D. K. |

	問	1 能力 重視	2 功労 重視	3 そ の 他	4 D. K.	計
I (1953)	×					
II (1958)	×					
III (1963)	×					
IV (1968)	×					
V (1973)	×					
VI (1978)	×					
VII (1983)	×					
VIII (1988)	×					
IX (1993)	M 8	59	30	4	8	101 (1,905)
X (1998)	M 8	61	29	3	7	100 (1,341)
XI (2003)	M 7	59	28	5	7	99 (1,158)

#5.23* 能力か功労か

会社で給料や賃金を決めるときに、その人のこれまでの会社に対する功労を重視して決めるべきだと思いますか、それとも、その人の現在の能力だけで決めるべきだと思いますか?

- | | | |
|---|------------------------------|---------|
| 1 | その人のこれまでの会社に対する功労を重視して決めるべきだ | |
| 2 | その人の現在の能力だけで決めるべきだ | |
| 3 | その他[記入] | 4 D. K. |

	問	1 功 労 重 視	2 能 力 だ け	3 そ の 他	4 D. K.	計
I (1953)	×					
II (1958)	×					
III (1963)	×					
IV (1968)	×					
V (1973)	×					
VI (1978)	×					
VII (1983)	×					
VIII (1988)	×					
IX (1993)	×					
X (1998)	×					
XI (2003)	K18	42	39	10	10	101 (1, 192)

#5.24 勤め先を変えるか

[リスト] 勤め先を変えることについて、つぎのような2つの意見があります。
あなたはどちらに賛成ですか？

1	いまよりよい条件の勤め先があれば、かわった方がよい	
2	いまよりよい条件の勤め先があっても、一つの勤め先にながく勤めるのがよい	
3	その他[記入]	4 D. K.

	問	1 か わ っ た 方 が よ い	2 な が く 勤 め る の が よ い	3 そ の 他	4 D. K.	計
I (1953)	×					
II (1958)	×					
III (1963)	×					
IV (1968)	×					
V (1973)	×					
VI (1978)	×					
VII (1983)	×					
VIII (1988)	×					
IX (1993)	M17	41	52	1	6	100(1, 905)
X (1998)	M18	42	53	1	4	100(1, 341)
XI (2003)	M17	47	49	1	3	100(1, 158)

#5.25 リーダーの条件

[リスト] 職場でのよきリーダーはどんな資質を持っているべきでしょうか。重要なもの3つをつぎの中から選んでください？

[上の質問では、3つの項目をあげてもらうこと]

1	部下に利益をもたらすこと	
2	部下に尊敬され、好かれること	
3	技術的にすぐれていること	
4	仕事仲間に誠意をもって接すること	
5	若くて有能であること	
6	人間関係がよく、顔が広いこと	
7	その他[記入]	8 D. K.

	問	1 部 下 に 利 益	2 部 下 に 尊 敬	3 技 術 的 に す ぐ れ る	4 仲 間 に 誠 意	5 若 く て 有 能	6 人 間 関 係 が よ い	7 そ の 他	8 DK	計 (複数回答)
I (1953)	×									
II (1958)	×									
III (1963)	×									
IV (1968)	×									
V (1973)	×									
VI (1978)	×									
VII (1983)	×									
VIII (1988)	×									
IX (1993)	M18	21	77	47	69	7	49	8	3	— (1, 905)
X (1998)	M19	21	74	47	71	8	51	7	2	— (1, 341)
XI (2003)	M18	22	76	52	70	6	47	7	2	— (1, 158)

§ 6 男女の差異

#6.2 男・女の生まれかわり

もういちど生まれかわるとしたら、あなたは男と女の、どちらに、生れてきたいと思いますか？

1 男に	
2 女に	
3 その他 [記入]	4 D. K.

	問	1 男 に	2 女 に	3 そ の 他	4 D. K.	計
I (1953)	×					
II (1958)	103	76	17	5	2	100(1,449)
III (1963)	1a	70	23	4	3	100(2,698)
IV (1968)	1a	65	28	4	4	101(3,033)
V (1973)	K+M	63	30	3	4	100(4,594)
	K 1a	63	30	3	4	100(3,055)
	M 1a	63	30	3	4	100(1,539)
VI (1978)	M1a	62	31	3	3	99(1,913)
VII (1983)	K 1	61	34	3	2	100(2,256)
VIII (1988)	K 1	59	35	4	2	100(1,858)
IX (1993)	K 1	56	37	2	5	100(1,833)
X (1998)	K+M	55	39	1	5	100(2,680)
	K 1	56	38	2	4	100(1,339)
	M 1	53	40	1	6	100(1,341)
XI (2003)	K+M	54	39	2	5	100(2,350)
	K 1	54	39	1	5	99(1,192)
	M 1	53	40	3	4	100(1,158)

#6.2 男・女の生まれかわり（男女別）

	問	1 男 に	2 女 に	3 そ の 他	4 D. K.	計	
男 の み	I (1953)	×					
	II (1958)	103	90	5	4	1	100(684)
	III (1963)	1a	88	7	3	2	100(1, 252)
	IV (1968)	1a	89	5	4	3	101(1, 427)
	V (1973)	K+M	89	5	2	3	99(2, 063)
		K 1a	88	6	2	4	100(1, 395)
		M 1a	90	5	3	3	101(668)
	VI (1978)	M 1a	90	4	3	3	100(832)
	VII (1983)	K 1	90	5	3	2	100(988)
	VIII (1988)	K 1	90	4	4	2	100(837)
	IX (1993)	K 1	88	3	3	6	100(836)
	X (1998)	K+M	88	5	2	5	100(1, 216)
		K 1	89	5	2	4	100(615)
		M 1	87	6	1	6	100(601)
	XI (2003)	K+M	87	5	2	5	99(1, 091)
K 1		87	5	2	6	100(551)	
M 1		88	4	3	5	100(540)	
女 の み	I (1953)	×					
	II (1958)	103	64	27	5	3	99(765)
	III (1963)	1a	55	36	5	4	100(1, 446)
	IV (1968)	1a	43	48	4	5	100(1, 606)
	V (1973)	K+M	42	51	3	4	100(2, 531)
		K 1a	42	51	3	4	100(1, 660)
		M 1a	43	50	3	5	101(871)
	VI (1978)	M 1a	41	52	3	4	100(1, 081)
	VII (1983)	K 1	39	56	3	2	100(1, 268)
	VIII (1988)	K 1	34	59	5	2	100(1, 021)
	IX (1993)	K 1	29	65	1	4	99(997)
	X (1998)	K+M	28	67	1	4	100(1, 464)
		K 1	29	66	1	3	99(724)
		M 1	26	67	1	5	99(740)
	XI (2003)	K+M	25	69	2	4	100(1, 259)
K 1		26	68	1	5	100(641)	
M 1		23	71	3	3	100(618)	

#6. 2c 苦勞どちらが多いか

今の日本では、ひとくちでいうと、男と女ではどちらの方が苦勞が多いと思いますか？

1 男が多い	4 D. K.
2 女が多い	
3 その他 [記入]	

	問	1 男 が 多 い	2 女 が 多 い	3 そ の 他	4 D. K.	計
I (1953)	×					
II (1958)	×					
III (1963)	1b	47	34	12	7	100 (2, 698)
IV (1968)	1b	53	27	15	6	101 (3, 033)
V (1973)	K+M	55	26	12	7	100 (4, 594)
	K 1b	55	26	12	6	99 (3, 055)
	M 1b	54	27	11	8	100 (1, 539)
VI (1978)	M 1b	54	26	14	5	99 (1, 913)
VII (1983)	×					
VIII (1988)	×					
IX (1993)	×					
X (1998)	M 2a	44	36	12	8	100 (1, 341)
XI (2003)	M 2a	47	34	11	8	100 (1, 158)

#6.2c 苦勞どちらが多いか (男女別)

		問	1 男 が 多 い	2 女 が 多 い	3 そ の 他	4 D. K.	計
男 の み	I (1953)	×					
	II (1958)	×					
	III (1963)	1b	57	25	12	6	100(1, 252)
	IV (1968)	1b	60	19	15	5	99(1, 427)
	V (1973)	K+M	64	18	11	7	100(2, 063)
		K 1b	65	17	12	6	100(1, 395)
		M 1b	64	18	9	9	100(668)
	VI (1978)	M 1b	58	20	16	6	100(832)
	VII (1983)	×					
	VIII (1988)	×					
	IX (1993)	×					
X (1998)	M 2a	47	29	15	9	100(601)	
XI (2003)	M 2a	50	27	14	9	100(540)	
女 の み	I (1953)	×					
	II (1958)	×					
	III (1963)	1b	39	42	12	7	100(1, 446)
	IV (1968)	1b	47	33	14	6	100(1, 606)
	V (1973)	K+M	47	33	13	7	100(2, 531)
		K 1b	48	33	13	6	100(1, 660)
		M 1b	47	34	13	7	101(871)
	VI (1978)	M 1b	51	32	12	5	100(1, 081)
	VII (1983)	×					
	VIII (1988)	×					
	IX (1993)	×					
X (1998)	M 2a	42	41	9	8	100(740)	
XI (2003)	M 2a	45	39	9	7	100(618)	

#6.2d 楽しみどちらが多いか

それでは、どちらの方が楽しみが多いと思いますか？

1 男が多い	
2 女が多い	
3 その他 [記入]	4 D. K.

	問	1 男 が 多 い	2 女 が 多 い	3 そ の 他	4 D. K.	計
I (1953)	×					
II (1958)	×					
III (1963)	1c	69	12	11	9	101 (2,698)
IV (1968)	1c	63	13	16	8	100 (3,033)
V (1973)	K+M	67	13	11	8	99 (4,594)
	K 1c	67	13	12	9	101 (3,055)
	M 1c	67	14	11	8	100 (1,539)
VI (1978)	M 1c	66	14	12	8	100 (1,913)
VII (1983)	×					
VIII (1988)	×					
IX (1993)	×					
X (1998)	M 2b	43	34	10	13	100 (1,341)
XI (2003)	M 2b	38	42	10	10	100 (1,158)

#6.2d 楽しみどちらが多いか (男女別)

	問	1 男 が 多 い	2 女 が 多 い	3 そ の 他	4 D. K.	計	
男 の み	I (1953)	×					
	II (1958)	×					
	III (1963)	1c	71	10	10	8	99(1, 252)
	IV (1968)	1c	66	10	17	7	100(1, 427)
	V (1973)	K+M	71	11	10	8	100(2, 063)
		K 1c	70	11	11	8	100(1, 395)
		M 1c	74	10	10	7	101(668)
	VI (1978)	M 1c	71	8	12	8	99(832)
	VII (1983)	×					
	VIII (1988)	×					
	IX (1993)	×					
X (1998)	M 2b	54	20	13	14	101(601)	
XI (2003)	M 2b	50	25	13	12	100(540)	
女 の み	I (1953)	×					
	II (1958)	×					
	III (1963)	1c	67	13	11	10	101(1, 446)
	IV (1968)	1c	60	16	15	9	100(1, 606)
	V (1973)	K+M	63	16	12	9	100(2, 531)
		K 1c	64	15	12	9	100(1, 660)
		M 1c	62	17	12	9	100(871)
	VI (1978)	M 1c	62	19	11	8	100(1, 081)
	VII (1983)	×					
	VIII (1988)	×					
	IX (1993)	×					
X (1998)	M 2b	34	46	8	13	101(740)	
XI (2003)	M 2b	28	56	8	8	100(618)	

#6. 2e 男の子と女の子

子供を一人だけもつとしたら、男の子の方がよいですか、女の子の方がよいですか、それとも、どちらでもよいですか？

1 男の子	
2 女の子	
3 どちらでもよい	
4 その他 [子供はいらない、など記入]	5 D. K.

	問	1 男 の 子	2 女 の 子	3 ど ち ら も よ い も	4 そ の 他	5 D. K.	計
I (1953)	×						
II (1958)	×						
III (1963)	×						
IV (1968)	×						
V (1973)	×						
VI (1978)	×						
VII (1983)	×						
VIII (1988)	M 2	32	29	37	1	1	100 (1, 824)
IX (1993)	M 2	33	36	30	0	1	100 (1, 905)
X (1998)	M 5	28	47	23	0	1	99 (1, 341)
XI (2003)	M 4	27	47	24	0	1	99 (1, 158)

#6.2e 男の子と女の子 (男女別)

		問	1 男 の 子	2 女 の 子	3 ど ち ら よ で い も	4 そ の 他	5 DK	計
男 の み	I (1953)	×						
	II (1958)	×						
	III (1963)	×						
	IV (1968)	×						
	V (1973)	×						
	VI (1978)	×						
	VII (1938)	×						
	VIII (1988)	M 2	45	15	36	2	1	99(805)
	IX (1993)	M 2	45	19	34	1	1	100(888)
	X (1998)	M 5	40	28	30	1	1	100(601)
	XI (2003)	M 4	41	28	30	-	1	100(540)
女 の み	I (1953)	×						
	II (1958)	×						
	III (1963)	×						
	IV (1968)	×						
	V (1973)	×						
	VI (1978)	×						
	VII (1938)	×						
	VIII (1988)	M 2	22	40	37	1	1	101(1, 019)
	IX (1993)	M 2	22	50	26	0	1	99(1, 017)
	X (1998)	M 5	19	62	18	0	1	100(740)
	XI (2003)	M 4	16	64	19	0	1	100(618)

#6.5 男女の能力差

生まれつき、物事を考えたり、まとめたりする能力は、男と女で差があると思いますか？

1 差がある	
2 差はない	
3 その他 [記入]	4 D. K.

	問	1 差 あ り	2 差 な し	3 そ の 他	4 D. K.	計
I (1953)	×					
II (1958)	120	63	29	2	6	100(1,449)
III (1963)	×					
IV (1968)	×					
V (1973)	×					
VI (1978)	×					
VII (1983)	×					
VIII (1988)	M 5	54	41	2	3	100(1,824)
IX (1993)	M 5	49	44	2	5	100(1,905)
X (1998)	K 3	44	50	1	4	99(1,339)
XI (2003)	K 3	45	49	2	4	100(1,192)

#6.5 男女の能力差 (男女別)

		問	1 差 あり	2 差 なし	3 そ の 他	4 D. K.	計
男 の み	I (1953)	×					
	II (1958)	120	63	31	2	5	101(684)
	III (1963)	×					
	IV (1968)	×					
	V (1973)	×					
	VI (1978)	×					
	VII (1938)	×					
	VIII (1988)	M 5	55	41	2	2	100(805)
	IX (1993)	M 5	51	43	2	5	101(888)
	X (1998)	K 3	43	51	2	5	101(615)
	XI (2003)	K 3	42	52	2	5	101(551)
女 の み	I (1953)	×					
	II (1958)	120	63	28	2	7	100(765)
	III (1963)	×					
	IV (1968)	×					
	V (1973)	×					
	VI (1978)	×					
	VII (1938)	×					
	VIII (1988)	M 5	53	41	3	4	101(1, 019)
	IX (1993)	M 5	48	45	2	4	99(1, 017)
	X (1998)	K 3	46	49	1	4	100(724)
	XI (2003)	K 3	48	47	1	3	99(641)

§ 7 一般の社会的問題

#7.1 人間らしさはへるか

こういう意見があります。

「世の中は、だんだん科学や技術が発達して、便利になって来るが、それにつれて人間らしさがなくなっていく」

というのですが、あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか？

1 賛成 [人間らしさはへる]	5 D. K.
2 いちがいにいえない	
3 反対 [人間らしさ不変、ふえる]	
4 その他 [記入]	

	問	1 賛 成	2 いち がいに いえない	3 反 対	4 そ の 他	5 D. K.	計
I (1953)	5	30	17	35	1	17	100(2,254)
II (1958)	3	33	17	34	0	16	100(920)
III (1963)	6	38	22	28	1	12	101(2,698)
IV (1968)	7	40	16	35	1	8	100(3,033)
V (1973)	K10	50	21	22	1	6	100(3,055)
VI (1978)	K 2	43	21	30	1	5	100(2,032)
VII (1983)	K+M	48	20	28	1	4	101(4,429)
	K 3	46	19	30	1	3	99(2,256)
	M 2	49	20	26	1	4	100(2,173)
VIII (1988)	K 4	47	24	26	1	3	101(1,858)
IX (1993)	K 3	51	26	19	0	3	99(1,833)
X (1998)	K 4	54	25	17	0	3	99(1,339)
XI (2003)	K 4	54	29	13	0	3	99(1,192)

注) 第1次(1953)調査の質問文は以下のとおり。

「世の中はだんだん機械が発達して便利になって来たが、それにつれて人間らしさがなくなってくる」という意見があります。あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか？

#7.2 心の豊かさはへらないか

こういう意見があります。

「どんなに世の中が機械化しても、人の心の豊かさ（人間らしさ）はへりはしない」

というのですが、あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか？

- | | |
|-------------|---------|
| 1 反対 [へる] | |
| 2 いちがいにいけない | |
| 3 賛成 [へらない] | |
| 4 その他 [記入] | 5 D. K. |

	問	1 (へる) 対	2 いちがいに いけない	3 (へらない) 賛成	4 そ の 他	5 D. K.	計
I (1953)	29	17	8	58	1	16	100 (2, 254)
II (1958)	24	21	10	53	1	16	101 (920)
III (1963)	12	18	19	49	0	13	99 (2, 698)
IV (1968)	13	22	13	56	1	9	101 (3, 033)
V (1973)	K18	31	20	42	1	7	101 (3, 055)
VI (1978)	K12	25	15	53	1	6	100 (2, 032)
VII (1983)	M 8	31	17	46	1	5	100 (2, 173)
VIII (1988)	K27	33	22	42	1	3	101 (1, 858)
IX (1993)	K13	25	24	47	0	4	100 (1, 833)
X (1998)	K13	30	22	44	0	3	99 (1, 339)
XI (2003)	K13	27	27	42	0	3	99 (1, 192)

注) 第1次(1953)調査の質問文は以下のとおり。

「どんなに文明が進歩しても、人の心の豊かさ（人間らしさ）はへりはしない」という意見がありますが、あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか？

#7.4 日本と個人の幸福

[リスト] あなたはつぎの意見の、どちらに賛成ですか。一つだけあげてください？

- | | | |
|---|-----------------------------|---------|
| 1 | 個人が幸福になって、はじめて日本全体がよくなる | |
| 2 | 日本がよくなって、はじめて個人が幸福になる | |
| 3 | 日本がよくなることも、個人が幸福になることも同じである | |
| 4 | その他 [記入] | 5 D. K. |

	問	1 個人 ↓ 日本	2 日本 ↓ 個人	3 日本 ⇕ 個人	4 そ の 他	5 D. K.	計
I (1953)	45	25	37	31	1	6	100(2,254)
II (1958)	×						
III (1963)	16	30	30	34	0	7	101(2,698)
IV (1968)	19	27	32	36	1	5	101(3,033)
V (1973)	K25	30	26	37	0	6	99(3,055)
VI (1978)	K17	27	27	41	0	4	99(2,032)
VII (1983)	K18	25	30	40	1	4	100(2,256)
VIII (1988)	K16	29	25	42	0	4	100(1,858)
IX (1993)	K20	30	26	40	0	4	100(1,833)
X (1998)	K20	28	28	40	0	3	99(1,339)
XI (2003)	K22	29	24	42	1	5	101(1,192)

#7.4b 国の繁栄と国民の生活

[リスト] 国の繁栄ということについて、つぎの2つの意見があります。
あなたはどちらの意見に賛成ですか？

- | | | | |
|--|----------------------------|------------|---------|
| 1 国が繁栄しても、一部の人がもうけるばかりで、国民ひとりひとりの生活はよくなる | 2 国が繁栄すれば、国民ひとりひとりの生活もよくなる | 3 その他 [記入] | 4 D. K. |
|--|----------------------------|------------|---------|

	問	1 よ く な ら ない	2 よ く な る	3 そ の 他	4 D. K.	計
I (1953)	×					
II (1958)	×					
III (1963)	×					
IV (1968)	×					
V (1973)	×					
VI (1978)	M20	37	57	1	5	100 (1, 913)
VII (1983)	K30	33	63	1	3	100 (2, 256)
VIII (1988)	K29	47	48	1	3	99 (1, 858)
IX (1993)	K30	40	55	1	4	100 (1, 833)
X (1998)	K32	36	60	0	4	100 (1, 339)
XI (2003)	K32	28	67	1	4	100 (1, 192)

#7. 5b* 公益と個人の権利

[リスト] つぎのような意見があります。あなたはどちらに賛成ですか。もちろん、場合により、また程度によって違うでしょうが、ひとくちでいうと、どちらを重視すべきでしょうか？

- | | | |
|---|--|---------|
| 1 | 個人の権利をみとめるためには、公共の利益が多少犠牲になることがあっても、しかたがない | |
| 2 | 公共の利益のためには、個人の権利が多少犠牲になることがあっても、しかたがない | |
| 3 | その他 [記入] | 4 D. K. |

	問	1 個 権人 利の	2 公 利共 益の	3 そ の 他	4 D. K.	計
I (1953)	×					
II (1958)	×					
III (1963)	×					
IV (1968)	×					
V (1973)	M21	32	55	1	11	99 (1, 539)
VI (1978)	M17	32	55	2	11	100 (1, 913)
VII (1983)	×					
VIII (1988)	×					
IX (1993)	×					
X (1998)	×					
XI (2003)	M22	39	51	1	9	100 (1, 158)

#7.18 人間の健康の面はよくなるか

これから先、人間の健康の面はよくなってゆくと思いますか、わるくなると思いますか？

1 よくなる	
2 わるくなる	
3 変わらない	
4 その他 [記入]	5 D. K.

	問	1 よくなる	2 わるくなる	3 変わらない	4 その他	5 D. K.	計
I (1953)	×						
II (1958)	×						
III (1963)	×						
IV (1968)	×						
V (1973)	M27a	25	55	13	1	6	100(1, 539)
VI (1978)	M25a	49	35	10	1	4	99(1, 913)
VII (1983)	×						
VIII (1988)	×						
IX (1993)	×						
X (1998)	M32a	16	67	13	0	4	100(1, 341)
XI (2003)	M31a	19	60	16	0	4	99(1, 158)

#7. 18b 心のやすらかさはますか

では、心のやすらかさは、ますと思いますか、へると思いますか？

1 ます	
2 へる	
3 変わらない	
4 その他 [記入]	5 D. K.

	問	1 ま す	2 へ る	3 変 わ ら な い	4 そ の 他	5 D. K.	計
I (1953)	×						
II (1958)	×						
III (1963)	×						
IV (1968)	×						
V (1973)	M27b	13	64	13	1	9	100 (1, 539)
VI (1978)	M25b	24	51	15	2	8	100 (1, 913)
VII (1983)	×						
VIII (1988)	×						
IX (1993)	×						
X (1998)	M32b	9	70	16	0	4	99 (1, 341)
XI (2003)	M31b	8	69	18	1	4	100 (1, 158)

#7. 18c 人間の自由はふえるか

人間の自由は、ふえると思いますか、へると思いますか？

1	ふえる
2	へる
3	変わらない
4	その他 [記入]
5	D. K.

	問	1 ふ え る	2 へ る	3 変 わ ら な い	4 そ の 他	5 D. K.	計
I (1953)	×						
II (1958)	×						
III (1963)	×						
IV (1968)	×						
V (1973)	M27c	43	27	17	1	11	99(1,539)
VI (1978)	M25c	51	24	16	1	8	100(1,913)
VII (1983)	×						
VIII (1988)	×						
IX (1993)	×						
X (1998)	M32c	31	35	28	0	6	100(1,341)
XI (2003)	M31c	27	35	30	1	7	100(1,158)

#7. 18d 生活は豊かになるか

ひとびとの生活は、豊かになると思いますか、貧^{ます}しくなると思いますか？

1 豊かに	
2 貧しく	
3 変わらない	
4 その他 [記入]	5 D. K.

	問	1 豊 か に	2 貧 し く	3 変 わ ら な い	4 そ の 他	5 D. K.	計
I (1953)	×						
II (1958)	×						
III (1963)	×						
IV (1968)	×						
V (1973)	M27d	38	30	19	3	10	100(1, 539)
VI (1978)	M25d	44	25	21	2	8	100(1, 913)
VII (1983)	×						
VIII (1988)	×						
IX (1993)	×						
X (1998)	M32d	15	50	27	0	7	99(1, 341)
XI (2003)	M31d	14	47	31	1	6	99(1, 158)

#7.18e 幸福になるか

ひとびとは幸福になると思いますか、不幸になると思いますか？

1 幸福に	
2 不幸に	
3 変わらない	
4 その他 [記入]	5 D. K.

	問	1 幸 福 に	2 不 幸 に	3 変 わ ら な い	4 そ の 他	5 D. K.	計
I (1953)	×						
II (1958)	×						
III (1963)	×						
IV (1968)	×						
V (1973)	M27e	27	26	24	4	19	100(1, 539)
VI (1978)	M25e	37	19	24	5	16	101(1, 913)
VII (1983)	×						
VIII (1988)	×						
IX (1993)	×						
X (1998)	M32e	19	28	36	1	16	100(1, 341)
XI (2003)	M31e	17	25	41	2	15	100(1, 158)

#7.19 才能か運か

いまの社会で成功している人を見て、その人の成功には、個人の才能や努力と、運やチャンスのどちらが大きな役割をはたしていると思いますか？

1 個人の才能や努力	
2 運やチャンス	
3 その他 [記入]	4 D. K.

	問	1 才能 や 努力	2 運 や チャン ス	3 そ の 他	4 D. K.	計
I (1953)	×					
II (1958)	×					
III (1963)	×					
IV (1968)	×					
V (1973)	×					
VI (1978)	M 2	44	38	9	8	99(1, 913)
VII (1983)	×					
VIII (1988)	M 6	49	35	12	5	101(1, 824)
IX (1993)	M 6	52	35	8	5	100(1, 905)
X (1998)	M 7	48	42	6	5	101(1, 341)
XI (2003)	M 6	50	36	8	6	100(1, 158)

#7.24 就職の第1の条件

[リスト] ここに仕事について、ふだん話題になることがあります。
あなたは、どれに1番関心がありますか？

1	かなりよい給料がもらえること	
2	倒産や失業の恐れがない仕事	
3	気の合った人たちと働くこと	
4	やりとげたという感じがもてる仕事	
5	その他 [記入]	6 D. K.

	問	1 よ い 給 料	2 失 業 が の な 恐 れ	3 気 の 合 っ た 人 合 っ た	4 と や い り う と 感 じ た	5 そ の 他	6 D. K.	計
I (1953)	×							
II (1958)	×							
III (1963)	×							
IV (1968)	×							
V (1973)	×							
VI (1978)	K24a	7	23	30	38	0	2	100(2,032)
	K+M	7	17	33	39	1	2	99(4,429)
VII (1983)	K25	7	16	33	42	1	2	101(2,256)
	M23	8	19	33	37	1	2	100(2,173)
VIII (1988)	K+M	10	15	36	36	1	2	100(3,682)
	K24	9	14	35	39	1	1	99(1,858)
	M17	10	17	36	34	1	2	100(1,824)
IX (1993)	M16a	12	20	31	33	0	3	99(1,905)
	K+M	7	23	29	36	0	4	99(2,680)
X (1998)	K30a	7	18	31	41	0	2	99(1,339)
	M17	7	29	26	32	0	5	99(1,341)
XI (2003)	K31a	8	19	26	45	0	2	100(1,192)

#7. 24b 就職の第2の条件

[リスト] では、2番目はどれですか？

1	かなりよい給料がもらえること	
2	倒産や失業の恐れがない仕事	
3	気の合った人たちと働くこと	
4	やりとげたという感じがもてる仕事	
5	その他 [記入]	6 D. K.

	問	1 よ い 給 料	2 失 業 の 恐 れ	3 気 の 合 っ た 人 ち た	4 と や い り と 感 げ じ た	5 そ の 他	6 D. K.	計
I (1953)	×							
II (1958)	×							
III (1963)	×							
IV (1968)	×							
V (1973)	×							
VI (1978)	K24b	20	24	30	22	0	3	99(2,032)
VII (1983)	×							
VIII (1988)	×							
IX (1993)	M16b	22	20	29	22	0	6	99(1,905)
X (1998)	K30b	17	20	34	24	-	5	100(1,339)
XI (2003)	K31b	19	22	34	21	0	3	99(1,192)

#7.25 お金と仕事

[リスト] 仕事について、つぎの2つの意見があります。どちらがあなたの気持ちに近いですか？

- | | |
|---|-------------------------------|
| 1 | いくらお金があっても、仕事が無ければ、人生はつまらない |
| 2 | お金があれば、仕事が無くても、人生がつまらないとは思わない |
| 3 | その他 [記入] |
| 4 | D. K. |

	問	1 ば仕事 つま まがな らなけ いれ	2 仕事 がな くも よい	3 そ の 他	4 D. K.	計
I (1953)	×					
II (1958)	×					
III (1963)	×					
IV (1968)	×					
V (1973)	×					
VI (1978)	×					
VII (1983)	K24	83	14	1	2	100 (2, 256)
	K+M	77	19	1	2	99 (3, 682)
VIII (1988)	K23	80	17	1	2	100 (1, 858)
	M11	75	21	2	2	100 (1, 824)
IX (1993)	M12	75	22	0	3	100 (1, 905)
X (1998)	M11	76	21	1	2	100 (1, 341)
XI (2003)	M10	71	26	2	2	101 (1, 158)

#7.29 暮らしむき

[リスト] 現在のお宅の暮らしむきは、次の5つに分けるとすれば、どれに当たるでしょうか？

1	非常に豊か
2	やや豊か
3	ふつう
4	やや貧しい
5	非常に貧しい
6	その他 [記入]
7	D. K.

	問	1 非常に 豊か	2 やや 豊か	3 ふ つ う	4 や や 貧 しい	5 非 常 に 貧 しい	6 そ の 他	7 DK	計
I (1953)	×								
II (1958)	×								
III (1963)	×								
IV (1968)	×								
V (1973)	×								
VI (1978)	×								
VII (1983)	×								
VIII (1988)	M12	1	10	72	14	2	0	0	99(1,824)
IX (1993)	M15	1	12	73	11	2	-	0	99(1,905)
X (1998)	M16	1	9	73	14	3	-	0	100(1,341)
XI (2003)	M15	1	11	73	12	3	-	1	101(1,158)

#7.30a 生活水準 10 年の変化

[リスト] あなたの生活水準は、この 10年間でどう変りましたか？

1 よくなった	
2 ややよくなった	
3 変らない	
4 ややわるくなった	
5 わるくなった	
6 その他 [記入]	7 D. K.

	問	1 よ く な っ た	2 よ や く な っ た	3 変 ら な い	4 や や な わ る っ た く	5 わ る な く な っ た	6 そ の 他	7 DK	計
I (1953)	×								
II (1958)	×								
III (1963)	×								
IV (1968)	×								
V (1973)	×								
VI (1978)	×								
VII (1983)	M14a	17	32	35	10	4	0	1	99(2, 173)
VIII (1988)	M25	10	31	43	10	4	0	1	99(1, 824)
IX (1993)	M24	9	31	46	10	3	-	1	100(1, 905)
X (1998)	M26	4	24	42	22	7	-	1	100(1, 341)
XI (2003)	M26	4	16	40	28	11	0	1	100(1, 158)

#7.35 環境の保護は重要か

[リスト] 環境の保護は、あなたにとってどのくらい重要な問題ですか？

1 非常に重要である	
2 重要である	
3 あまり重要ではない	
4 重要ではない	
5 その他 [記入]	6 D. K.

	問	1 非常に重要 である	2 重要である	3 あまり重要 ではない	4 重要でない	5 そ の 他	6 D. K.	計
I (1953)	×							
II (1958)	×							
III (1963)	×							
IV (1968)	×							
V (1973)	×							
VI (1978)	×							
VII (1983)	M27b	37	50	9	1	1	3	101 (2, 173)
VIII (1988)	×							
IX (1993)	K36	50	43	5	0	-	2	100 (1, 833)
X (1998)	K35	49	43	6	0	-	2	100 (1, 339)
XI (2003)	K35	45	47	5	1	0	2	100 (1, 192)

#7.36 科学上の発見・利用は生活に役立つか

[リスト] 科学上の発見とその利用は、どの程度あなたの日常生活の改善に役立っていると思いますか？

1 役立っている	
2 少しは役立っている	
3 役立っていない	
4 その他 [記入]	5 D. K.

	問	1 役 立 っ て い る	2 役 少 立 し っ は い る	3 役 立 っ て い な い	4 そ の 他	5 D. K.	計
I (1953)	×						
II (1958)	×						
III (1963)	×						
IV (1968)	×						
V (1973)	×						
VI (1978)	×						
VII (1983)	M28	39	48	7	1	4	99(2, 173)
VIII (1988)	×						
IX (1993)	K35	47	41	6	0	6	100(1, 833)
X (1998)	K34	40	44	8	-	7	99(1, 339)
XI (2003)	K34	38	44	9	0	8	99(1, 192)

#7.40 社会は公平か

【リスト】一般的に言って、今の日本の社会は公平だと思いますか。あなたの気持は、つぎのうちのどれに近いですか？

1 公平だ	
2 だいたい公平だ	
3 あまり公平でない	
4 公平でない	
5 その他【記入】	6 D. K.

	問	1 公 平 だ	2 だ い た い 公 平 だ	3 あ ま り 公 平 で な い	4 公 平 で な い	5 そ の 他	6 DK	計
I (1953)	×							
II (1958)	×							
III (1963)	×							
IV (1968)	×							
V (1973)	×							
VI (1978)	×							
VII (1983)	×							
VIII (1988)	×							
IX (1993)	M23	3	33	47	15	0	2	100(1,905)
X (1998)	M25	2	24	50	23	0	1	100(1,341)
XI (2003)	M25	1	29	48	20	0	2	100(1,158)

§ 8 政治的態度

#8.1b 政治家にまかせるか

こういう意見があります。

「日本の国をよくするためには、すぐれた政治家がでてきたら、国民がたがいに議論をたたかわせるよりは、その人にまかせる方がよい」

というのですが、あなたはこれに賛成ですか、それとも反対ですか？

1 賛成 [まかせる]	
2 反対 [まかせっきりはいけない]	
3 その他 [記入]	4 D. K.

	問	1 賛 成	2 反 対	3 そ の 他	4 D. K.	計
I (1953)	×					
II (1958)	×					
III (1963)	×					
IV (1968)	×					
V (1973)	×					
VI (1978)	K 8	32	58	2	7	99 (2, 032)
	K+M	33	60	3	5	101 (4, 429)
VII (1983)	K10	33	60	2	5	100 (2, 256)
	M 7	32	59	3	5	99 (2, 173)
VIII (1988)	K 8	30	61	4	5	100 (1, 858)
IX (1993)	K 7	24	68	1	7	100 (1, 833)
X (1998)	K 8	26	67	1	6	100 (1, 339)
XI (2003)	K 8	21	69	2	9	101 (1, 192)

[参考]

#8.1 政治家にまかせるか

こういう意見があります。

「日本の国をよくするためには、すぐれた政治家がでてきたら、国民がたがいに議論をたたかわせるよりは、その人にまかせる方がよい」

というのですが、あなたはこれに賛成ですか、それとも反対ですか？

1 賛成 [まかせる]	
2 時、人による	
3 反対 [まかせっきりはいけない]	
4 そんなにすぐれた人が出るとは考えられない	
5 その他 [記入]	6 D. K.

	問	1 賛 成	2 時、 人 よ る に	3 反 対	4 は そ ん な い 人	5 そ の 他	6 D. K.	計
I (1953)	30	43	9	38	3	0	7	100 (2, 254)
II (1958)	12 112	35	10	44	2	0	9	100 (2, 369)
III (1963)	11	29	13	47	4	1	7	101 (2, 698)
IV (1968)	12	30	10	51	3	1	5	100 (3, 033)
V (1973)	K15	23	15	51	5	1	6	101 (3, 055)
VI (1978)	×							
VII (1983)	×							
VIII (1988)	×							
IX (1993)	×							
X (1998)	×							
XI (2003)	×							

注) 第1次(1953)調査の質問文は以下のとおり。

「日本の復興の為には、すぐれた政治家が出てきたら、国民がたがいに議論をたたかわせるよりは、その人にまかせた方がよい」という意見がありますが、あなたはこれに賛成ですか、それとも反対ですか？

#8.6 選挙への関心

[リスト] あなたは衆議院の総選挙があるとき、ふつうはどうしますか？

- | | | |
|---|-----------------|---------|
| 1 | なにをおいても投票する | |
| 2 | なるべく投票するようにつとめる | |
| 3 | あまり投票する気にならない | |
| 4 | ほとんど投票しない | |
| 5 | その他 [記入] | 6 D. K. |

	問	1 おな いに てを も 投 票	2 な る べ く 投 票	3 あ ま に り な 投 票 す い る	4 ほ と ん ど 投 票 し な い	5 そ の 他	6 D.K.	計
I (1953)	×							
II (1958)	³⁴ 134	62	32	3	2	1	1	101 (2, 369)
III (1963)	33	53	41	4	1	0	1	100 (2, 698)
IV (1968)	38	51	44	4	1	0	0	100 (3, 033)
V (1973)	K39	41	50	6	2	0	0	99 (3, 055)
VI (1978)	M18	45	47	5	3	0	0	100 (1, 913)
VII (1983)	M31	39	48	9	3	0	0	99 (2, 173)
VIII (1988)	K+M	34	50	10	5	0	0	99 (3, 682)
	K28	32	52	10	6	0	0	100 (1, 858)
	M21	36	49	10	5	0	0	100 (1, 824)
IX (1993)	K31	40	50	7	3	0	0	100 (1, 833)
X (1998)	K33	37	47	9	6	0	0	99 (1, 339)
XI (2003)	K33	35	50	8	6	0	0	99 (1, 192)

#8.7i 支持政党

あなたは何党を支持していらっしゃいますか？

1	自民党	
2	民主党	
3	公明党	
4	自由党	
5	共産党	
6	社民党	
7	保守新党	
8	その他の政党 [記入]	
9	支持政党なし	10 D. K.

	問	1 自 民 党	2 民 主 党	3 公 明 党	4 自 由 党	5 共 産 党	6 社 民 党	7 保 守 新 党	8 そ の 他 の 政 党	9 支 持 政 党 な し	10 DK	計
I (1953)	×											
II (1958)	×											
III (1963)	×											
IV (1968)	×											
V (1973)	×											
VI (1978)	×											
VII (1983)	×											
VIII (1988)	×											
IX (1993)	×											
X (1998)	×											
	K+M	25	5	4	1	2	1	0	0	60	3	101(2,350)
XI (2003)	K37	26	4	4	1	1	1	-	0	60	3	100(1,192)
	M32	24	5	4	1	2	1	0	0	60	3	100(1,158)

[参考]

#8.7 支持政党

あなたは何党を支持していらっしゃいますか？

1 自民党	
2 民社党	
3 社会党	
4 共産党	
5 公明党	
6 新自由クラブ	
7 社会民主連合	
8 支持政党なし	
9 その他 [記入]	10 D. K.

	問	1 自 民 党	2 民 社 党	3 社 会 党	4 共 産 党	5 公 明 党	6 新 自 由 ク ラ ブ	7 社 会 民 主 連 合	8 支 持 政 党 な し	9 そ の 他	10 DK	計
I (1953)	58	40	*	23	0	*	*	*	20	5	12	100(2,254)
II (1958)	35 135	38	*	30	0	*	*	*	20	1	10	99(2,369)
III (1963)	35	43	3	22	0	2	*	*	22	1	7	100(2,698)
IV (1968)	39	41	4	22	2	4	*	*	21	3	4	101(3,033)
V (1973)	K+M	33	3	17	3	4	*	*	33	2	6	101(4,594)
	K40	35	3	17	3	4	*	*	31	2	5	100(3,055)
	M28	30	2	17	3	3	*	*	37	1	7	100(1,539)
VI (1978)	K+M	34	3	14	3	4	1	0	34	2	5	100(3,945)
	K31	35	3	14	2	4	1	0	34	2	5	100(2,032)
	M26	34	2	14	3	5	1	0	33	2	5	99(1,913)
VII (1983)	K+M	39	4	13	3	4	1	0	32	1	4	101(4,429)
	K支持	39	4	12	3	5	0	0	33	1	3	100(2,256)
	M支持	39	4	13	3	4	1	0	31	1	4	100(2,173)
VIII (1988) 注2)	K+M	36	2	14	2	3	*	0	38	1	4	100(3,682)
	K支持	36	2	14	2	3	*	0	39	1	3	100(1,858)
	M支持	36	2	15	2	4	*	0	36	1	4	100(1,824)
IX (1993)	×											
X (1998)	×											
XI (2003)	×											

注1) 第1次(1953)調査では、1 自由党と改進黨、3 左右社会党

注2) 第8次(1988)調査では、6 社会民主連合、7 その他、8 支持政党なし、9 D. K.

[参考]

#8.7g 支持政党

あなたは何党を支持していらっしゃいますか？

1 自民党	
2 社会党	
3 新生党	
4 公明党	
5 日本新党	
6 民社党	
7 共産党	
8 新党さきがけ	
9 社会民主連合	
10 その他の政党 [記入]	
11 支持政党なし	
	12 D. K.

	問	1 自 民 党	2 社 会 党	3 新 生 党	4 公 明 党	5 日 本 新 党	6 民 社 党	7 共 産 党	8 新 党 さ き が け	9 社 会 民 主 連 合	10 そ の 他 の 政 党	11 支 持 政 党 な し	12 DK	計
I (1953)	×													
II (1958)	×													
III (1963)	×													
IV (1968)	×													
V (1973)	×													
VI (1978)	×													
VII (1983)	×													
VIII (1988)	×													
	K+M	27	9	5	3	6	1	1	1	0	0	41	4	98(3,738)
IX (1993)	K39	29	8	5	4	6	1	1	1	0	0	41	4	100(1,833)
	M33	25	10	6	3	6	2	2	1	0	0	42	3	100(1,905)
X (1998)	×													
XI (2003)	×													

[参考]

#8.7h 支持政党

あなたは何党を支持していらっしゃいますか？

1 自民党	
2 民主党	
3 新党平和・公明	
4 自由党	
5 共産党	
6 社民党	
7 改革クラブ	
8 新党さきがけ	
9 その他の政党 [記入]	
10 支持政党なし	11 D. K.

	問	1 自 民 党	2 民 主 党	3 新 党 平 和 ・ 公 明	4 自 由 党	5 共 産 党	6 社 民 党	7 改 革 ク ラ ブ	8 新 党 さ き が け	9 そ の 他 の 政 党	10 支 持 政 党 な し	11 DK	計
I (1953)	×												
II (1958)	×												
III (1963)	×												
IV (1968)	×												
V (1973)	×												
VI (1978)	×												
VII (1983)	×												
VIII (1988)	×												
IX (1993)	×												
	K+M	21	8	3	2	3	3	0	0	0	57	3	100 (2,680)
X (1998)	K37	22	7	3	2	3	3	0	0	0	57	3	100 (1,339)
	M33	20	8	3	1	3	3	-	0	0	57	3	98 (1,341)
XI (2003)	×												

#8.9 社会不満の表し方

[リスト] 仮りに、あなたが社会に対して不満があるとします。その場合、あなたはどのような態度をとりますか？

- | | |
|------------------------------|---------|
| 1 選挙で投票するときに、考慮する | 6 D. K. |
| 2 合法的な陳情、署名あつめ、デモ、ストライキなどをする | |
| 3 場合によっては、非合法の手段をとることもありうる | |
| 4 たとえ不満があっても、別になにもしない | |
| 5 その他【記入】 | |

	問	1 選 挙 で 考 慮	2 合 法 的 に	3 非 合 法 の よ 手 段	4 な に も し な い	5 そ の 他	6 D.K.	計
I (1953)	×							
II (1958)	×							
III (1963)	×							
IV (1968)	×							
V (1973)	×							
VI (1978)	M24	37	15	4	38	1	4	99(1, 913)
VII (1983)	×							
VIII (1988)	M22	42	6	3	46	1	3	101(1, 824)
IX (1993)	M21	49	7	5	34	0	5	100(1, 905)
X (1998)	M23	51	10	5	31	0	4	101(1, 341)
XI (2003)	M23	46	12	6	30	1	5	100(1, 158)

§ 9 日本人・人種

#9.1 日本人の性格（長所）

[リスト] つぎのうち、日本人の性質をあらわしていると思うコトバがあったら、いくつでもあげてください？

1 合理的	
2 勤勉	
3 自由を尊ぶ	
4 淡泊	
5 ねばり強い	
6 親切	
7 独創性にとむ	
8 礼儀正しい	
9 明朗	
10 理想を求める	
11 その他 [記入]	12 D. K.

	問	1 合 理 的	2 勤 勉	3 自 由 を 尊 ぶ	4 淡 白	5 ね ば り 強 い	6 親 切	7 独 創 性 に と む	8 礼 儀 正 し い	9 明 朗	10 理 想 を 求 め る	11 そ の D.K.	12 他	計 (複数回答)
I (1953)	×													
II (1958)	²⁸ 128	11	55	15	19	48	50	8	47	23	32	-	12	— (2,369)
III (1963)	32a	8	60	10	15	55	42	7	43	14	23	1	9	— (2,698)
IV (1968)	37a	10	61	12	13	58	45	8	47	13	23	1	5	— (3,033)
V (1973)	K38a	13	66	9	14	52	31	7	37	9	21	1	6	— (3,055)
VI (1978)	×													
VII (1983)	K31	22	69	17	12	60	42	11	47	12	30	1	2	— (2,256)
VIII (1988)	K30	22	72	14	13	50	38	10	50	9	27	1	3	— (1,858)
IX (1983)	×													
X (1998)	K36	18	71	13	14	51	42	7	50	8	23	0	4	— (1,339)
XI (2003)	K36	17	66	14	14	46	41	9	48	8	20	1	4	— (1,192)

#9.6 日本人・西洋人の優劣

日本人は西洋人とくらべて、ひとくちでいえばすぐれていると思いますか、それとも劣っていると思いますか？

1	すぐれている	
2	劣っている	
3	同じだ	
4	ひとくちではいえない	
5	その他 [記入]	6 D. K.

	問	1 すぐ れて いる	2 劣 っ て い る	3 同 じ だ	4 い ひ え と な く い ち で は	5 そ の 他	6 D. K.	計
I (1953)	25	20	28	14	21	1	15	99(2,254)
II (1958)	×							
III (1963)	30	33	14	16	27	1	9	100(2,698)
IV (1968)	35	47	11	12	21	1	7	99(3,033)
V (1973)	K16	39	9	18	26	0	7	99(3,055)
VI (1978)	×							
VII (1983)	K11	53	8	12	21	2	5	101(2,256)
VIII (1988)	×							
IX (1993)	K17	41	6	27	20	0	5	99(1,833)
X (1998)	K17	33	11	32	19	0	6	101(1,339)
XI (2003)	K19	31	7	31	24	1	6	100(1,192)

#9.12 日本の「科学技術の水準」

[リスト] 現在の日本は「科学技術の水準」という点では、つぎの4つのどれに当たると思いますか？

1 非常によい	
2 ややよい	
3 ややわるい	
4 非常にわるい	
5 その他 [記入]	6 D. K.

	問	1 非 常 に よ い	2 やや よ い	3 やや わ る い	4 非 常 に わ る い	5 そ の 他	6 D. K.	計
I (1953)	×							
II (1958)	×							
III (1963)	×							
IV (1968)	×							
V (1973)	M25a	33	49	6	2	0	10	100(1, 539)
VI (1978)	M22a	37	48	5	1	1	9	101(1, 913)
VII (1983)	×							
VIII (1988)	M27a	43	45	4	1	0	7	100(1, 824)
IX (1993)	M28a	46	43	3	0	0	7	99(1, 905)
X (1998)	M29a	24	57	10	1	-	8	100(1, 341)
XI (2003)	M28a	28	54	7	0	0	10	99(1, 158)

#9.12b 日本の「芸術」

[リスト] では、「芸術」という点では、日本はどれでしょうか？

1 非常によい	
2 ややよい	
3 ややわるい	
4 非常にわるい	
5 その他 [記入]	6 D. K.

	問	1 非 常 に よ い	2 や や よ い	3 や や わ る い	4 非 常 に わ る い	5 そ の 他	6 D. K.	計
I (1953)	×							
II (1958)	×							
III (1963)	×							
IV (1968)	×							
V (1973)	M25b	14	48	16	2	0	19	99(1,539)
VI (1978)	M22b	18	53	12	2	1	14	100(1,913)
VII (1983)	×							
VIII (1988)	M27b	12	47	24	4	1	12	100(1,824)
IX (1993)	M28b	14	54	19	2	0	11	100(1,905)
X (1998)	M29b	7	54	23	3	0	12	99(1,341)
XI (2003)	M28b	8	59	18	2	0	13	100(1,158)

#9.12c 日本の「経済力」

[リスト] では、「経済力」という点では、日本はどれでしょうか？

1 非常によい	
2 ややよい	
3 ややわるい	
4 非常にわるい	
5 その他 [記入]	6 D. K.

	問	1 非 常 に よ い	2 や や よ い	3 や や わ る い	4 非 常 に わ る い	5 そ の 他	6 D. K.	計
I (1953)	×							
II (1958)	×							
III (1963)	×							
IV (1968)	×							
V (1973)	M25c	25	42	19	5	1	9	101(1,539)
VI (1978)	M22c	23	43	19	5	0	8	98(1,913)
VII (1983)	×							
VIII (1988)	M27c	42	40	10	2	0	6	100(1,824)
IX (1993)	M28c	33	46	14	3	0	4	100(1,905)
X (1998)	M29c	4	28	42	23	-	3	100(1,341)
XI (2003)	M28c	3	29	51	14	-	3	100(1,158)

#9.12d 日本の「生活水準」

[リスト] では、「生活水準」という点では、日本はどれでしょうか？

1 非常によい	
2 ややよい	
3 ややわるい	
4 非常にわるい	
5 その他 [記入]	6 D. K.

	問	1 非 常 に よ い	2 や や よ い	3 や や わ る い	4 非 常 に わ る い	5 そ の 他	6 D. K.	計
I (1953)	×							
II (1958)	×							
III (1963)	×							
IV (1968)	×							
V (1973)	M25d	9	42	32	10	1	5	99(1, 539)
VI (1978)	M22d	11	52	25	7	1	4	100(1, 913)
VII (1983)	×							
VIII (1988)	M27d	17	56	19	3	1	4	100(1, 824)
IX (1993)	M28d	16	58	20	2	0	3	99(1, 905)
X (1998)	M29d	5	48	38	6	-	2	99(1, 341)
XI (2003)	M28d	5	45	41	6	0	3	100(1, 158)

#9.12e 日本の「心の豊かさ」

[リスト] では、「心の豊かさ」という点では、日本はどれでしょうか？

1 非常によい	
2 ややよい	
3 ややわるい	
4 非常にわるい	
5 その他 [記入]	6 D. K.

	問	1 非 常 に よ い	2 やや よ い	3 やや わ る い	4 非 常 に わ る い	5 そ の 他	6 D. K.	計
I (1953)	×							
II (1958)	×							
III (1963)	×							
IV (1968)	×							
V (1973)	M25e	6	33	40	14	1	6	100 (1, 539)
VI (1978)	M22e	6	39	37	11	1	5	99 (1, 913)
VII (1983)	×							
VIII (1988)	M27e	4	34	41	14	0	5	98 (1, 824)
IX (1993)	M28e	4	37	43	11	0	5	100 (1, 905)
X (1998)	M29e	2	24	50	21	0	3	100 (1, 341)
XI (2003)	M28e	2	23	52	19	0	4	100 (1, 158)

#9.14 外国人との結婚

もし自分の子供が、「外国人と結婚したい」と言ったとしたら、あなたは、賛成しますか、それとも、反対しますか？

1 賛成する	
2 反対する	
3 場合による	
4 その他[記入]	5 D. K.

	問	1 賛成 する	2 反対 する	3 場 合 に よ る	4 そ の 他	5 D. K.	計
I (1953)	×						
II (1958)	×						
III (1963)	×						
IV (1968)	×						
V (1973)	×						
VI (1978)	×						
VII (1983)	×						
VIII (1988)	M 3	29	36	28	4	2	99 (1,824)
IX (1993)	M 3	30	34	31	2	3	100 (1,905)
X (1998)	M 6	40	29	28	1	3	101 (1,341)
XI (2003)	M 5	41	27	29	1	2	100 (1,158)

#9.16 国際貢献

[リスト] これからの日本について、つぎの二つの意見があります。あなたの気持はどちらに近いですか？

- | | |
|-------------------------------|---------|
| 1 自分たちの生活水準が多少落ちても、外国を助けるべきだ | |
| 2 まだまだ自分のたちの生活水準を上げることを考えるべきだ | |
| 3 その他[記入] | 4 D. K. |

	問	1 外国 助ける	2 生活 水準 上げる	3 そ の 他	4 D. K.	計
I (1953)	×					
II (1958)	×					
III (1963)	×					
IV (1968)	×					
V (1973)	×					
VI (1978)	×					
VII (1983)	×					
VIII (1988)	×					
IX (1993)	M29	35	57	1	6	99(1, 905)
X (1998)	M31	39	53	1	7	100(1, 341)
XI (2003)	M30	33	59	1	6	99(1, 158)

#9.17 地球環境

[リスト] 地球環境と自分たちの生活との関係について、つぎの二つの意見があります。あなたの気持はどちらに近いですか？

- | | |
|---|---|
| 1 | 自分たちの生活が今より多少不便になっても、地球環境を守るために、ひとりひとりが努力すべきだ |
| 2 | まだまだ自分たちの生活を、より便利にすることを考えるべきだ |
| 3 | その他[記入] |
| 4 | D. K. |

	問	1 ひとり ひとり 努力	2 生活 自分 便利 にの	3 そ の 他	4 D. K.	計
I (1953)	×					
II (1958)	×					
III (1963)	×					
IV (1968)	×					
V (1973)	×					
VI (1978)	×					
VII (1983)	×					
VIII (1988)	×					
IX (1993)	M30	79	17	0	4	100(1, 905)
X (1998)	M30	85	13	0	2	100(1, 341)
XI (2003)	M29	82	14	0	3	99(1, 158)

III 文献と資料

文献と資料

1953年

1. 林知己夫 他：「わが国国民性の統計数理的研究」 **日本統計学会会報**, 1953年度, 52-66, 1953年.

1954年

2. 林知己夫：「統計的立場から見た国民性の研究」 **教育統計** (文部省調査局), 第30号, 16-53, 1954年.

1959年

3. 「国民性の研究 第II次調査 (その1)」 **数研研究レポート**, No. 5, 1959年.
4. 「国民性の研究 第II次調査 (改訂増補版)」 **数研研究レポート**, No. 6, 1959年.
5. 西平重喜：「日本人のものの考え方」 **経済評論**, 8月臨時増刊号, 135-157, 1959年.

1960年

6. 「国民性の研究 岐阜吟味調査」 **数研研究レポート**, No. 7, 1960年.
7. 林知己夫：「日本人の国民性」 **自由**, 1月号, 58-72, 1960年.
8. Hayashi, C. *et al.* : A study of Japanese national character, *Ann. Inst. Statist. Math.*, Sup. I, 1-30, 1960.
9. Hayashi, C. *et al.* : A study of Japanese national character—Part II—, *Ann. Inst. Statist. Math.*, Sup. II, 1-30, 1960.

1961年

10. 統計数理研究所国民性調査委員会： **日本人の国民性**, 至誠堂, 1961年.
11. 西平重喜：「国民性第II次調査—その1—」 **日本統計学会会報**, 1959年度, 52-53, 1961年.
12. 鈴木達三：「国民性第II次調査—その2—」 **日本統計学会会報**, 1959年度, 53-55, 1961年.

1963年

13. 「国民性の研究 岐阜調査 (1963)」 **数研研究レポート**, No. 8, 1963年.
14. 西平重喜： **日本人の意見**, 誠信書房, 1963年.

1964年

15. 「国民性の研究 第III次調査 1963年調査」 **数研研究レポート**, No. 11, 1964年.

16. 「成年の常識 (壮丁検査との比較) および職業の社会的評価 (職業ランキング)」 **数研研究レポート**, No. 12, 1964年.
17. 鈴木達三: 「国民性の研究 — 第 III 次全国調査について」 **統計数理研究所彙報**, 11 卷 2 号, 105-176, 1964年.
18. 鈴木達三: 「戦後日本人は変わったか」 **自由**, 10月号, 140-147, 1964年.

1965年

19. 林知己夫・西平重喜・鈴木達三: **図説・日本人の国民性** (至誠堂新書 5), 至誠堂, 1965年.

1966年

20. 「国民性の研究 1965年調査」 **数研研究レポート**, No. 14, 1966年.
21. Suzuki, T.: A study of the Japanese national character — Part III, the third survey, *Ann. Inst. Statist. Math.*, Sup. IV, 15-64, 1966.

1967年

22. 林知己夫・鈴木達三: 「日本人の自画像 — 日本人は日本人をどう考えているか —」 **自由**, 1月号, 170-178, 1967年.

1968年

23. 鈴木達三: 「日本人の国民性・ものの考え方」 **統計** (日本統計協会), 19 卷 2 号 (2 月号), 22-27, 1968年.

1969年

24. 「宗教調査 — 1968年, 国際比較 —」 **数研研究レポート**, No. 21, 1969年.
25. 「国民性の研究 第4次全国調査 — 1968年全国調査 —」 **数研研究レポート**, No. 23, 1969年.
26. 「国民性の研究 — I. 1969年岐阜パネル調査 — II. 面接調査と自記式調査の比較 (1969年岐阜自記式調査)」 **数研研究レポート**, No. 24, 1969年.
27. 林知己夫: 「日本人の国民像 — 15年の変化」 **自由**, 7月号, 49-57, 1969年.
28. 西平重喜: 「日本人の宗教的態度と国際比較」 **布教**, 6月号, 344-356, 1969年.
29. 西平重喜: 「日本人の宗教的態度と国際比較」 **布教**, 7月号, 403-417, 1969年.
30. 西平重喜: 「15年間の意見の変化 — 国民性第 IV 次調査より」 **国民生活研究**, Vol. 8, No. 7 (7月号), 44-50, 1969年.
31. 西平重喜: 「国民性の変化」 **新聞広告ゼミナール講演集第 20 回**, 全日本新聞広告会, 75-111, 1969年.

1970年

32. 統計数理研究所国民性調査委員会：第2日本人の国民性，至誠堂，1970年。
33. 林知己夫：「断絶する政党と国民の政治意識」自由，2月号，90-95，1970年。
34. 西平重喜：「国民性調査からみた現代日本人の考え方感じ方」TVVレポート，No. 67，81-85，1970年。
35. Nisihira, S. : Les attitudes des Japonais envers la religion, *Ann. Inst. Statist. Math.*, Sup. 6, 81-94, 1970.
36. Suzuki, T. : A study of the Japanese national character — Part IV —, *Ann. Inst. Statist. Math.*, Sup. 6, 1-80, 1970. (255. に収録)

1971年

37. 青山博次郎：「日本人—統計から見た特性」毎日夫人，No. 136 (5月号)，4-18，1971年。
38. 鈴木達三：「海外における日系人のパースナリティ調査企画」AD.R (KYOWA AD-REVIEW)，No. 54，9-13，1971年。

1972年

39. 林知己夫：「比較研究のむずかしさ」共同通信，1972年7月5日。
40. 林知己夫：「日本人の国民性について—第20回国際心理学会に出席して」産経新聞，1972年8月25日。
41. Hayashi, C. : The Japanese national character, *Abstract Guide of XXth International Congress of Psychology, 1972 Tokyo*, 46-47, 1972.
42. 西平重喜：「西洋人は宗教についてどう考えているか」宗務時報，No. 29，2-21，1972年。
43. 鈴木達三：「ハワイ（ホノルル）における日系人—日本人の国民性調査との関連—」学術月報，Vol. 24, No. 11 (308号，2月)，37-44，1972年。
44. 鈴木達三：「変わりゆく日本人の国民性」PRニュース (電通PRセンター)，77号 (9月1日号)，3，1972年。
45. Suzuki, T., Hayashi, C., Nisihira, S., Aoyama, H., Nomoto, K., Kuroda, Y. and Kuroda, A. K. : A study of Japanese-Americans in Honolulu, Hawaii, *Ann. Inst. Statist. Math.*, Sup. 7, 1-60, 1972. (255. に収録)

1973年

46. 「ハワイにおける日系人—日本人の国民性調査との関連，—ハワイ日系人の言語調査」数研研究レポート，No. 33，1973年。

47. 林知己夫：「比較文化研究に対する一つの統計的分析の試み II—態度数量化の方法 IV—」 **統計数理研究所彙報**, 21 卷 2 号, 173-181, 1973 年.
48. 林知己夫 (編著)・西平重喜・野元菊雄・鈴木達三：**比較日本人論** (中公新書 333), 中央公論社, 1973 年.
49. 西平重喜：「日本人の国民性について」 **心と社会**, Vol. 4, No. 1, 47-53, 1973 年.
50. 坂元慶行：「公共意識と個人の権利意識」 **AD.R (KYOWA AD-REVIEW)**, No. 63, 19-23, 1973 年.
51. 鈴木達三：「比較文化研究に対する一つの統計的分析の試み I—日本人の国民性とハワイ日系人—」 **統計数理研究所彙報**, 21 卷 2 号, 125-171, 1973 年.

1974 年

52. 「国民性の研究 第 5 回全国調査—1973 年全国調査—」 **数研研究レポート**, No. 38, 1974 年.
53. 林知己夫：**社会と統計** (放送大学実験放送テキスト), 旺文社, 1974 年.
54. 林知己夫：「日本人の心は変わったか—調査からみた日本人の国民性」 **日本人研究 1/日本人の心は変わったか** (日本人研究会 編), 至誠堂, 1-80, 1974 年.
55. 林知己夫：「日本人の科学文明観」 **内外教育** (時事通信社), 1974 年 5 月 24 日.
56. 林知己夫：「日本人はどのように変わったか—国民性の調査から—」 **町村週報**, 1165 号 (6 月), 3-7, 1974 年.
57. 林知己夫：「日本人の心のヒダ—根深い義理人情構造—」 **朝日新聞**, 1974 年 6 月 17 日夕刊.
58. 林知己夫：「現代の若者も人情課長を好む—現代若者の職場意識—」 **あすへの力** (神奈川県青少年育成課), No. 62 (7 月), 1-4, 1974 年.
59. 林知己夫：「日本人の国民性をめぐって」 **教育と医学**, 10 月号, 11-19, 1974 年.
60. 林知己夫：「相互理解の構造—年齢の断絶はくるか—」 **青淵**, 10 月号, 23-25, 1974 年.
61. 林知己夫：「義理と人情」 **にんげん百科**, 5 卷 7 号 (通巻 59 号), 1414-1415, 1974 年.
62. 林知己夫：「日本人は健全である—国民性調査 20 年で明らかにされた真実」 **正論**, 12 月号, 52-60, 1974 年.
63. 林知己夫：「日本人の偉人観」 **歴史と旅**, 1 卷 12 号 (12 月号), 141-142, 1974 年.
64. 林知己夫：「日本人の価値観」 **自治研修**, 12 月号, 11-20, 1974 年.
65. Hayashi, C. : Time, age and ways of thinking— from the Kokuminsei surveys, *J. of Asian and African Studies*, Vol. X, No. 1 & 2, 75-85, 1974. (77. に収録)
66. Hayashi, C. and Suzuki, T. : Quantitative approach to a cross-societal research; a comparative study of Japanese character, Part I, *Ann. Inst. Statist. Math.*, Vol. 26, No. 3, 455-516, 1974. (255. に収録)

67. 西平重喜：「政治についての世論の変化—20年史」**日本人研究 1/日本人の心は変わったか**(日本人研究会 編), 至誠堂, 81-113, 1974年.
68. 西平重喜：「変った国民性 変らない国民性」**自由**, 8月号, 174-182, 1974年.
69. Nisihira, S. : Changed and unchanged characteristics of the Japanese, *Japan Echo*, Vol. I, No. 2, 22-32, 1974. (68. の英訳)
70. Sakamoto, Y. : A study of the Japanese national character — Part V, *Ann. Inst. Statist. Math.*, Sup. 8, 1-57, 1974.
71. 鈴木達三：「国民性国際比較の方法—日本人とハワイ日系人の比較から」**日本人研究 1/日本人の心は変わったか**(日本人研究会 編), 至誠堂, 258-318, 1974年.
72. 鈴木達三：**日本人の国民性 20年の変遷**(電通モチベーションリサーチ研究委員会定例研究会リポート No. 12), 1974年6月.

1975年

73. 統計数理研究所国民性調査委員会：**第3日本人の国民性**, 至誠堂, 1975年.
74. 林知己夫：「日本人の意識は支持政党によりどうちがうか」**日本人研究 2/支持政党別日本人集団**(日本人研究会 編), 至誠堂, 1-54, 1975年.
75. 林知己夫：「統計で日本人の心を描く」**日立**, 37巻2号(2月号), 8-9, 1975年.
76. 林知己夫：「日本人の生きがいについて」**貯蓄時報**(日銀), No. 106(12月号), 12-22, 1975年.
77. Hayashi, C. : Time, age and ways of thinking — from the Kokuminsei surveys, IN *Adult Episode in Japan* (ed. Plath, D. W.), E. J. Brill, Leiden, 75-85, 1975. (65. を収録)
78. Hayashi, C. and Suzuki, T. : Quantitative approach to a cross-societal research; a comparative study of Japanese character, Part II, *Ann. Inst. Statist. Math.*, Vol. 27, No. 1, 1-32, 1975. (255. に収録)
79. 西平重喜：「日本人の宗教的態度の変化」**布教**, 29巻3号, 174-180, 1975年.
80. 坂元慶行：「戦後日本の経済と人間の意識構造」**週刊東洋経済**, No. 3868(4月24日臨時増刊号), 117-125, 1975年.
81. 鈴木達三：「比較文化研究の問題」**数理科学**, 13巻3号(No. 141), 39-44, 1975年.

1976年

82. 林知己夫：「変わる思想・変わらぬ思想」**信濃毎日**, 1976年1月1日.
83. 林知己夫：「調査は何を物語るか」**スチールデザイン**(新日本製鉄(株)), 154号, 3-5, 1976年.
84. 林知己夫：「日本人の考え方はどう変ったか」**日本文化会議月例懇談会収録集**, No. 85, 1976年.

85. 林知己夫：「世論をどうつかまえるか」**日本人研究 4/世論とは何か**(日本人研究会 編), 至誠堂, 1-48, 1976 年.
86. 林知己夫：「比較研究ということ」**統計**(日本統計協会), 27 巻 10 号(10 月号), 55-56, 1976 年.
87. 鈴木達三：「地域開発、地域社会に関する世論」**昭和 50 年代の地域開発を考えるための地域開発関連文献に関する調査・報告書**(日本地域開発センター), 95-98, 1976 年 3 月.
88. 鈴木達三：「思想と年齢」**数理科学**, 14 巻 1 号 (No. 151), 9-14, 1976 年.

1977 年

89. The Research Committee on the Study of the Japanese National Character : *Changing Japanese Value — Statistical Surveys and Analyses —*, Inst. Statist. Math., 1977.
90. 林知己夫：「世論調査の発展と現状」**世論調査の現状と課題**(輿論科学協会 編), 至誠堂, 51-88, 1977 年.
91. 林知己夫：「日本人の対外国態度と対外国人態度」**日本人研究 5/日本人の対外国態度**(日本人研究会 編), 至誠堂, 191-214, 1977 年.
92. 林知己夫：「価値観、につぼん 1895-1977」**週刊東洋経済**, No. 4001 (4 月 16 日号), (中綴じ 4 頁), 1977 年.
93. 林知己夫：「計量的日本人論」**文化庁月報**, No. 105 (6 月号), 4-7, 1977 年.
94. Hayashi, C. : Changes in Japanese thought during the past twenty years, *Text of Seminar in the U. S. (March 1977)*, *Nihonjin Kenkyukai: Changing Values in Modern Japan*, 3-57, 1977. (255. に収録)
95. Suzuki, T. and Jitodai, T. T. : Migration and prefectural identification in four Japanese prefectures, *Ann. Inst. Statist. Math.*, Vol. 29, No. 3, B, 511-525, 1977. (255. に収録)
96. Suzuki, T. and Kuroda, Y. : A note on immigrants to Hawaii, IN *A Comparative Sociological Study on the Adaptation and Attitude Change of Asian Emigrants (Migration Research Series No. 1)*, Dept. of Sociology, The University of Tsukuba, 30-39, 1977.

1978 年

97. 林知己夫：「日本人の対外国態度」**正論**, 4 月号, 31-32, 1978 年.
98. 林知己夫：「革新政党の伸びる条件」**Voice**, 4 月号, 38-39, 1978 年.
99. 林知己夫：「日本人のグループダイナミックス」**グループダイナミックス**(三隅二不二 編), 旺文社, 128-137, 1978 年.

100. 林知己夫：「国民性」**実験心理学研究**, 17巻2号, 153, 1978年.
101. 林知己夫：「政治意識の生態—時と場合で使い分け—」**朝日新聞**, 1978年12月16日夕刊.
102. Hayashi, C. : Japanese attitude and party preference, *Japan Echo*, Vol. 5, Special Issue, 58-81, 1978. (74. の翻訳)
103. Hayashi, C. : Nationality, IN *Social Psychology in Japan* (ed. Misumi, J.), Osaka University, 674-675, 1978.
104. Kuroda, Y., Suzuki, T. and Hayashi, C. : A cross-national analysis of the Japanese character among Japanese-Americans in Honolulu, *Ethnicity*, Vol. 5, 42-59, 1978.
105. 西平重喜：**世論反映の方法**(第II部第1章 日本人の国民性), 誠信書房, 1978年.

1979年

106. 「国民性の研究 第6回全国調査—1978年全国調査—」**統計数理研究所 研究レポート**, No. 46, 1979年.
107. 林知己夫：「戦後日本人の意識はどう変わったか—『伝統保守』へのUターンと“新型日本人”の出現」**朝日ジャーナル**, Vol. 21, No. 32 (8月17, 24日合併号), 96-100, 1979年.
108. 林知己夫：「都会人の自然観をめぐって—自然のあり方を考えるに際して—」**グリーンエイジ**((財)日本緑化センター), 9月号, 7-14, 1979年.
109. 林知己夫：「若い者は何をどう考えているか—国民性調査から—」**教育委員会月報**, No. 350 (10月号), 4-15, 1979年.
110. 林知己夫：「現代日本人の意識」**自警**, 12月号, 24-28, 1979年.
111. 林知己夫 他：「政治意識の感情構造の研究」**統計数理研究所 研究レポート**, No. 45, 1979年.
112. 林知己夫 他：「比較文化における統計的手法の確立—ハワイにおける日系人・非日系人調査—」**統計数理研究所 研究レポート**, No. 47, 1979年.
113. 鈴木達三：「いつ日本人は勤勉ではなくなるか」**文化会議**, 第121号(7月号), 29-30, 1979年.

1980年

114. 林知己夫：「日本人の自然観—心を探る統計的方法—(講演概要)」**新大広報**(新潟大学), 55号, 17-19, 1980年.
115. 林知己夫：「比較研究における方法論」**日本人とアメリカ人—比較研究の意義・方法・可能性—**(トヨタ財団第7回助成研究報告会資料), 74-92, 1980年2月.

116. 林知己夫：政治意識の感情構造と無党派層 ((社) 民主主義研究会報告書), 1980年3月.
117. 林知己夫：「心にとって加齢とは何か」 *日本老年医学会雑誌*, 17巻3号, 270-273, 1980年.
118. 林知己夫：「日本人の意識の底を探る試み—お化けへの関心—」 *数理科学*, 18巻6号 (No. 204), 23-32, 1980年.
119. 林知己夫：「若者の心の流れ」 *更正保護* (法務省保護局 編), 7月号, 32-35, 1980年.
120. 林知己夫：「多元化社会の青少年」 *教育委員会月報*, No. 362 (10月号), 4-15, 1980年.
121. 林知己夫・鮑戸弘・佐藤誠三郎・岩男寿美子・児島和人・田崎篤郎：多元化社会の生活関心 (多元化社会の生活関心研究グループ—大平総理の政策研究会報告書9), 1980年7月.
122. Hayashi, C. : Data analysis in a comparative study, IN *Data Analysis and Informatics* (eds. Deday, E. et al.), North-Holland, 31-51, 1980.
123. Leghorn, R. Y. and Suzuki, T. : Age, sex and cohort: explicating social change in post-war Japan, *Proc. of Kyoto American Studies Summer Seminar*, Doshisha University, 95-124, 1980.
124. 水野欽司：「“暮らし方”意識の動き—日本人の国民性調査から—」 *統計* (日本統計学会), 31巻5号 (5月号), 1-6, 1980年.
125. 西平重喜：「世論調査にみる同時代史 (1) 日本人の考え方の変化」 *自由*, 9月号, 18-27, 1980年.
126. 西平重喜：「日本人は宗教をどう考えているか」 *宗務時報*, No. 55, 7-20, 1980年.
127. The Research Committee on the Study of Honolulu Residents : Honolulu Residents and Their Attitudes in Multi-Ethnic Perspective: Toward a Theory of the American National Character, *The ISM Monograph*, 1, The University Press of Hawaii, 1980.
128. 鈴木達三：「アメリカ人の価値意識—国際比較の方法論的研究—」 *日本人とアメリカ人—比較研究の意義・方法・可能性—* (トヨタ財団第7回助成研究報告資料), 40-73, 1980年2月.
129. 鈴木達三：「調査データの見方」 *確率と統計—基礎から応用まで* (林知己夫 編著, テレビ大学講座), 旺文社, 101-114, 1980年.
130. Suzuki, T. : Pitfalls in cross-cultural survey research: comparative study of value systems in Japan and the United States, *Proc. of Symposium on Research Funded by the Toyota Foundation, The Japanese and the Americans: Significance, Methodology and Possibilities of International Comparative Studies*, Toyota Foundation, 97-101, 1980.

1981年

131. 林知己夫：「国民性の比較研究—国際比較研究の問題点—」**日本文化の国際性と国際化の研究** (放送開発センター, 昭和 55 年度), 33-54, 1981 年 3 月.
132. 林知己夫：**日本人研究三十年** (至誠堂選書 6), 至誠堂, 1981 年.
133. 林知己夫 他：「社会的態度基底構造についての国際比較方法の標準化に関する研究」**統計数理研究所 研究レポート**, No. 54, 1981 年.
134. 水野欽司：「日本人の価値観を探る—第 6 回・国民性調査から」**公務員の倫理と価値観** (地方自治研究資料センター 編, 自治研修叢書), 第一法規, 165-187, 1981 年.
135. 中村隆・鈴木達三：「コウホート分析について」**日本行動計量学会第 9 回大会発表論文抄録集**, 136-137, 1981 年.

1982年

136. 統計数理研究所国民性調査委員会：**第 4 日本人の国民性**, 出光書店, 1982 年.
137. 林知己夫：「考えの筋道による国際比較」**現代社会心理学の発展 I** (三隅二不二・木下富雄 編), ナカニシヤ出版, 291-339, 1982 年.
138. 林知己夫：「日本人論について」**文化と人間** (東洋 他編, 講座現代の心理学), 小学館, 365-424, 1982 年.
139. 林知己夫：「日本人の生きがいの変遷—国民性調査から—」**教育と医学**, 30 卷 4 号 (4 月号), 12-22, 1982 年.
140. 林知己夫：「計量的国民性研究の立場—日本人研究を中心として—」**学術月報**, Vol. 35, No. 3 (6 月号), 162-167, 1982 年.
141. 林知己夫：「法意識の底にあるものを求めて」**現代日本人の法意識** (日本文化会議 編), 第一法規, 45-83, 1982 年.
142. 林知己夫：「敬う (特集—新・日本人像—)」**月刊 NIRA**, 9 月号, 13-15, 1982 年.
143. 林知己夫 編著：**日本人の政治感覚** (日本人研究 6), 出光書店, 1982 年.
144. 林知己夫・穂山貞登 編：**日本と東南アジアの文化摩擦**, 出光書店, 1982 年.
145. 林知己夫・米沢弘：**日本人の深層意識** (NHK ブックス 414), 日本放送出版協会, 1982 年.
146. 中村隆：「ベイズ型コウホート・モデル—標準コウホート表への適用—」**統計数理研究所彙報**, 29 卷 2 号, 77-97, 1982 年.
147. 中村隆：「新しいコウホート分析について (1)~(3)」**中央調査報**, No. 297~299, 6-7, 1982 年.
148. 中村隆：「社会調査データのコウホート分析」**第 50 回日本統計学会講演報告集**, 181-183, 1982 年.

149. 中村隆：「ベイズ型コウホート・モデル」日本行動計量学会第10回大会発表論文抄録集, 42-43, 1982年.
150. 鈴木達三：「“ものの考え方”の変化と現代」サイコロジー, 3巻1号, 32-41, 1982年.
151. 鈴木達三：「国際比較の方法—日本人とアメリカ人—」数理科学, 20巻8号(No. 230), 7-21, 1982年.
152. 鈴木達三・中村隆：「継続調査の二次分析」統計数理研究所 研究レポート, No. 56, 1982年.
153. 鈴木達三・中村隆・柳原良造：「マーケティングの新しい手法コウホート分析(上)」DIAMOND ハーバード・ビジネス, Vol. 7, No. 4, 39-48, 1982年.
154. 鈴木達三・中村隆・柳原良造：「注目されるコウホート分析(下) マーケティング戦略にどうかすか」DIAMOND ハーバード・ビジネス, Vol. 7, No. 5, 86-95, 1982年.

1983年

155. 林知己夫：「女の意見の特色」日本人研究7/日本の女性の生き方(杉山明子編), 出光書店, 163-179, 1983年.
156. 林知己夫：「日本人論と行動計量学」行動計量学, 10巻1号, 1-6, 1983年.
157. 林知己夫：「日本人の健康観」労働衛生, 27巻7号(7月号), 30-31, 1983年.
158. 林知己夫：「比較日本人論」第26回TASK講演会予稿, TASK たばこ総合研究センター, 1983年11月.
159. Hayashi, C.: International understanding through broadcasting and the basic structure of the social behavior of people, *HBF News Letter*, ISSUE No. 16, May, 35-49, 1983.
160. 中村隆：「女性の意見の世代差」日本人研究7/日本の女性の生き方(杉山明子編), 出光書店, 44-83, 1983年.
161. 中村隆：「一般コウホート表の分析—ベイズ型コウホート・モデル(III)—」日本行動計量学会第11回大会発表論文抄録集, 65-66, 1983年.
162. 坂元慶行：「日本人の国民性」文化のなかの人間(永野重史・依田明編, 発達心理学への招待7), 新曜社, 199-214, 1983年.
163. 坂元慶行：「日本における意識動向の新たな断面—人間関係観を中心として—」統計数理研究所彙報, 31巻2号, 133-149, 1983年.
164. 鈴木達三：「コウホート分析—継続調査データの組織的利用法—」マーケティング・リサーチャー, No. 30, 43-49, 1983年.
165. 鈴木達三・中村隆：「社会調査データの集積化と二次分析」統計数理研究所 研究レポート, No. 58, 1983年.

1984年

166. 「伝統志向の中にも新しい日本人—文部省国民性調査」朝日新聞, 1984年11月17日.
167. 「義理人情は健在—日本人の国民性調査」産経新聞, 1984年11月17日.
168. 「大切なのは国より家族—国民性調査『義理人情』も健在」東京新聞, 1984年11月17日.
169. 「『国家より家族大切』—国民性の研究まとまる、本音思考派が増加」日本経済新聞, 1984年11月17日.
170. 「『清く正しく』が激減—30年前に比べ義理人情変わらず、伝統回帰も」毎日新聞, 1984年11月17日.
171. 「国民性の研究 第7回全国調査—1983年全国調査—」統計数理研究所 研究リポート, No. 60, 1984年.
172. 林知己夫: 調査の科学 (ブルーボックス 571), 講談社, 1984年.
173. 林知己夫: 「科学のおとし穴はどこにあるか」あいまいさを科学する (林知己夫・坂本賢三 編, ブルーボックス 554), 講談社, 17-54, 1984年.
174. 林知己夫: 「国際比較からみた私の日本人論」集団力学研究所紀要, 1巻, 21-59, 1984年.
175. 林知己夫: 「現代日本人の心情風景」産経新聞, 1984年12月10日夕刊.
176. 林知己夫: 「日本人の国民性に関する十章—30年間の調査から—」教育委員会月報, No. 412 (12月号), 4-25, 1984年.
177. 林知己夫: 「新しい日本人が生まれつつある」内外教育 (時事通信社), 1984年12月7日.
178. 林知己夫 編著: 多次元尺度解析法の実際, サイエンス社, 1984年.
179. 林知己夫 他: 「社会調査による国際比較方法の研究」統計数理研究所 研究リポート, No. 59, 1984年.
180. 林知己夫 他: 「新しい価値意識の形成過程に関する計量的研究」統計数理研究所 研究リポート, No. 61, 1984年.
181. Hayashi, C., Suzuki, T. and Hayashi, F.: Comparative study of lifestyle and quality of life: Japan and France, *Behaviormetrika*, No. 15, 1-17, 1984. (255. に収録)
182. Hayashi, C. and Suzuki, T.: Changes in belief systems, quality of life issues and social conditions over 25 years in post-war Japan, *Ann. Inst. Statist. Math.*, Part B, Vol. 36, No. 1, 135-161, 1984. (255. に収録)
183. 中村隆: 「コウホート分析の方法」ブレーン, Vol. 24, No. 9, 58-65, 1984年.

184. 中村隆：「支持政党のコウホート分析」第52回日本統計学会講演報告集, 321-322, 1984年.
185. The Research Committee on the Study of Japanese Americans in Honolulu, Hawaii : Honolulu's Japanese Americans in Comparative Perspective, *The ISM Monograph*, 2, The University Press of Hawaii, 1984.
186. 四手井綱英・林知己夫 編著：森林をみる心, 共立出版, 1984年.
187. 鈴木達三：「世代論の計量的展開—市場調査データとコウホート分析—」*ブレーション*, Vol. 24, No. 9, 45-56, 1984年.
188. 鈴木達三：「社会調査による国際比較研究における問題」日本心理学会シンポジウム予稿集, 1984年10月.
189. Suzuki, T. : Ways of life and social milieus in Japan and the United States: a comparative study, *Behaviormetrika*, No. 15, 77-108, 1984. (255. に収録)

1985年

190. 統計数理研究所国民性調査委員会：「国民性調査のコウホート分析—第3版—」*統計数理研究所 研究レポート*, No. 62, 1985年.
191. 林知己夫：「新しい日本の誕生」*世界日報*, 1985年1月13日.
192. 林知己夫：「私の世界—日本人研究(上・下)」*信濃毎日*, 1985年5月24, 25日夕刊.
193. 林知己夫：「国際理解と国際比較」*統計数理*, 33巻2号, 265-272, 1985年.
194. 林知己夫：「日本人のものの考え方・感じ方—国際交流における問題点—」*国際を考えるシリーズ* (国際商科大学国際交流研究所), 第3号, 3-27, 1985年.
195. 林知己夫：「国際文化比較の意味を考える」*文化会議*, 189号(3月号), 26-37, 1985年.
196. 林知己夫：*データ解析法*, 日本放送出版協会, 1985年.
197. 林知己夫：「翻訳とは何なのか」*言語生活*, 創立400号記念臨時増刊号, 58, 1985年.
198. 林知己夫：「日本人の国民性」*教育展望*, 5月号, 20-21, 1985年.
199. 林知己夫：「国際相互理解と日本人研究—『同じ所』『異なる所』を見極めよ」*産経新聞*, 1985年5月21日. (200. に収録)
200. 林知己夫：「国際相互理解と日本人研究—『同じ所』『異なる所』を見極めよ」*正論*, 1985年. (199. を収録)
201. 林知己夫：「調査極意」*市場調査* (輿論科学協会), 183号, 1-15, 1985年.
202. 林知己夫：「新しい日本人とはどんな人間？」*NEXT*, 8月号, 98-102, 1985年.
203. 林知己夫・赤池弘次・鈴木達三：*統計学特論*, 日本放送出版協会, 1985年.

204. 林知己夫 他：「比較文化研究における連鎖的調査手法の確立とその展開—1983年ハワイ・ホノルル市民調査—」**統計数理研究所 研究レポート**, No. 63, 1985年.
205. Hayashi, C., Hayashi, F., Suzuki, T., Lebart, L. and Kuroda, Y. : Comparative study of quality of life and multidimensional data analysis: Japan, France and the U. S. (Hawaii), IN *Fourth International Symposium, Data Analysis and Informatics (Versaille, France, Oct., 1985)*, INRIA, 573-583, 1985. (255. に収録)
206. Leghorn, R. Y. and Suzuki, T. : Age, sex and cohort: explicating social change in post-war Japan, *Behaviormetrika*, No. 18, 1-16, 1985. (255. に収録)
207. 中村隆：「ベイズ型コウホートモデル」**統計数理**, 33巻1号, 47-48, 1985年.
208. 西平重喜：「日本人の国民性の研究」**ケース・データにみる社会・世論調査** (代表者岡本宏), 芦書房, 36-72, 1985年.
209. 坂元慶行：**カテゴリカルデータのモデル分析**, 共立出版, 1985年.
210. 鈴木達三：「消費者行動の新しいとらえ方—コウホート分析を中心に—」**講演集・消費者行動を考える** (流通問題研究協会 編, IDR 研究資料98), 59-77, 1985年11月.
211. 鈴木達三・中村隆：「継続調査データの二次分析」日本行動計量学会第13回大会発表論文抄録集, 72-73, 1985年.

1986年

212. 林知己夫：「日本の国際化—世界の孤児にならないために—」**集団力学研究所紀要**, 3巻, 110-119, 1986年.
213. 林知己夫：「日本人の休み方、遊び方」**観光文化** (交通公社), Vol. 59, No. 91, 1, 1986年.
214. 林知己夫：「日本人の国民性」**新教育社会学辞典**, 東洋館出版社, 697-698, 1986年.
215. 林知己夫：「国民性の統計的研究—来しかたを見て行くさきを思う」**統計数理**, 34巻1号, 1-27, 1986年.
216. 林知己夫・鈴木達三：**社会調査と数量化—国際比較におけるデータ解析—**, 岩波書店, 1986年.
217. 林知己夫 他：「比較文化研究における連鎖的調査手法の確立とその展開—改定増補版—」**統計数理研究所 研究レポート**, No. 64, 1986年.
218. Kuroda, Y., Hayashi, C. and Suzuki, T. : The role of language in cross-national surveys: American and Japanese respondents, *Applied Stochastic Models and Data Analysis*, Vol. 2, 43-59, 1986. (255. に収録)
219. 中村隆：「交互作用項のあるコウホート・モデル—ベイズ型コウホートモデル(VI)—」日本行動計量学会第31回大会発表論文抄録集, 19-20, 1986年.

220. The Research Committee on the Study of Honolulu Residents : The Third Attitudinal Survey of Honolulu Residents, *The ISM Monograph*, 3, The University of Hawaii Press, 1986.
221. 鈴木達三 : 「国際比較の現状とあり方—『意識の国際比較方法論の研究』に向けて—」 **文化会議**, 第 209 号 (11 月号), 34-41, 1986 年.

1987 年

222. 林知己夫 : 「日本人の人間関係」 **人間関係論** (三隅二不二 編著), 日本放送出版協会, 166-182, 1987 年.
223. Hayashi, C. : Statistical study on Japanese national character, *J. of Japan Statistical Society*, Special Issue, 71-95, 1987.
224. Kuroda, Y., Kuroda, A. K., Hayashi, C. and Suzuki, T. : The end of westernization and the beginning of new modernization in Japan: attitudinal dynamics of the Japanese, 1953-1983, *The Arab J. of the Social Sciences*, Vol. 2, No. 1, 18-36, 1987. (255. に収録)
225. 中村隆 : 「公開講演会要旨 : 年齢・時代・世代の違いを探る—コウホート分析の方法—」 **統計数理**, 35 巻 1 号, 103-107, 1987 年.
226. 中村隆 : 「年齢・時代・世代の違いを捉える—ベイズ型コウホートモデル—」 **インフォメーション**, Vol. 6, No. 9, 74-84, 1987 年.
227. 中村隆 : 「年齢・時代・世代効果の分離—ベイズ型コウホートモデル—」 第 55 回日本統計学会講演報告集, 87-88, 1987 年.
228. 中村隆 : 「交互作用項のあるコウホート・モデル (2)—ベイズ型コウホートモデル (VII)—」 日本行動計量学会第 15 回大会発表論文抄録集, C2.3.1-2, 1987 年.
229. 坂元慶行 : 「階層帰属意識の実像」 **統計数理**, 35 巻 2 号, 233-255, 1987 年.
230. Sasaki, M. and Suzuki, T. : Changes in religious commitment in the United States, Holland, and Japan, *American J. of Sociology*, Vol. 92, No. 5, 1055-1076, 1987. (255. に収録)
231. Trommsdorff, G., Suzuki, T. und Sasaki, M. : Soziale ungleichheiten in Japan und der Bundesrepublik Deutschland, *Kölner Zeitschrift für Soziologie und Sozialpsychologie*, Vol. 39, No. 3, 496-515, 1987. (255. に収録)

1988 年

232. 林知己夫 : 「日本人研究と国際比較」 **総研ジャーナル** (関西学院大、総合研究室), No. 50, 1-22, 1988 年.
233. 林知己夫 : **生活価値観の変化とその測定** (マーケティング教育研究所レポート), 1988 年 3 月.

234. 林知己夫：日本人の心をはかる，朝日新聞社，1988年。
235. 林知己夫：「玉虫色好きは貴重な態度—日本人の国民性調査から—」産経新聞，1988年7月26日。(236.に収録)
236. 林知己夫：「日本人の国民性調査から」正論，10月号，(オピニオン正論欄30-31)，1988年。(235.を収録)

1989年

237. 「国民性の研究 第8回全国調査—1988年全国調査—」統計数理研究所 研究リポート，No. 69，1989年。
238. 林知己夫：「心をはかる 数量からみた日本人の心」東京新聞，1989年2月2日。
239. 林知己夫：「心をはかる 変わらぬ心、変わる心」東京新聞，1989年2月9日。
240. 林知己夫：「心をはかる 変化する『心の構図』」東京新聞，1989年2月16日。
241. 林知己夫：「心をはかる 変化の節目は15年刻み」東京新聞，1989年2月23日。
242. 林知己夫：新型日本人と企業の対応 (マーケティング教育研究所レポート)，1989年3月。
243. 林知己夫：「人間の価値観の重要性」RANDOM (リサーチ・アンド・デベロップメント)，5号，1-2，1989年。
244. 林知己夫：「日本人の科学文明観と情操教育」悠 (筑摩書房)，10月号，18-21，1989年。
245. 林知己夫：「国際化と日本人の意識」商工ジャーナル，11月号，9，1989年。
246. Hayashi, C. : Cultural link analysis for comparative research — a new approach to the exploration of structure in ways of thinking applied to cross-national analysis of general social attitude, *The Survey Statistician (ISI)*, No. 21, 14-15, 1989.
247. Kuroda, Y. and Suzuki, T. : Language and attitude: a study in Arabic, English, and Japanese on the role of language in cross-cultural thinking, IN *Thinking Across Cultures: The Third International Conference on Thinking* (eds. Topping, D. M., Crowell, D. C. and Kobayashi, V. N.), Lawrence Erlbaum Associates, 147-161, 1989. (255.に収録)
248. Sasaki, M. and Suzuki, T. : New directions in the study of general social attitudes: trend and cross-national perspectives, *Behaviormetrika*, No. 26, 9-30, 1989. (255.に収録)
249. Suzuki, T. : Cultural link analysis: its application to social attitudes—a study among five nations, *Bulletin of the International Statistical Institute, Proc. of the 47th Session, Paris*, 343-379, 1989. (255.に収録)
250. 吉野諒三：「『Batchelder と Romney の正答のないテスト理論』の拡張とアンケート調査法への応用」統計数理，37巻2号，171-188，1989年。

1990年

251. 林知己夫：「世論調査による日本人の国民性」**日本世論調査協会報**, 64号, 3-9, 1990年.
252. 林知己夫：「日本人の価値観」**道標** (実務研究所), 3月号, 8-9, 1990年.
253. 林知己夫：「国民性」**新教育学大事典**, 第一法規, 239-240, 1990年.
254. Hayashi, C. : Statistical study of Japanese national character and its international comparison among five nations, *The Survey Statistician (ISI)*, No. 23, 14-15, 1990.
255. Hayashi, C. and Suzuki, T. (eds.) : *Beyond Japanese Social Values — Trend and Cross-National Perspectives*, Inst. Statist. Math., 1990.

1991年

256. 林知己夫：「日本人の人間関係」**人間関係論** (三隅二不二 編著), 放送大学教育振興会, 177-192, 1991年. (222. の改訂版)
257. 林知己夫：「国民性をはかる」**市場調査** (輿論科学協会), 206-207 合併号, 2-32, 1991年.
258. 林知己夫：「国際社会とストレス」**ストレスと人間科学**, No. 6-1, 35-37, 1991年.
259. 林知己夫：「日本の若者」**Phase** (リサーチ・アンド・ディベロプメント社年報), 91, 2-23, 1991年.
260. 林知己夫：**生活価値観とグローバル・マーケティング**, マーケティング教育研究所 (R&D), 1991年.
261. 林知己夫：「豊さの中の日本 — その歩みと国際社会の中で」**進路ジャーナル**, 11月号, 94-97, 1991年.
262. 林知己夫・鈴木達三・林文 他：「意識の国際比較方法論の研究：連鎖的比較方法の確立とその展開 — 1988年ハワイ・ホノルル市民調査 —」**統計数理研究所 研究レポート**, No. 70, 1991年.
263. 林知己夫・鈴木達三・三宅一郎・佐々木正道・林文・吉野諒三：「意識の国際比較方法論の研究 — 新しい統計的社会調査法の確立とその展開 —」**統計数理研究所 研究レポート**, No. 71, 1991年.
264. 林知己夫・鈴木達三・三宅一郎・佐々木正道・林文・吉野諒三：「意識の国際比較方法論の研究 — 5カ国調査共通ファイルコードブック —」**統計数理研究所 研究レポート**, No. 72, 1991年.
265. Hayashi, C., Suzuki, T. and Leghorn, R. Y. : *The Japanese and the Americans — Comparative and Time Series Surveys of the Institute of Statistical Mathematics*, Inst. Statist. Math., 1991.

266. Hayashi, C., Suzuki, T. and Sasaki, M. (eds.) : *Japanese/American National Character Conference (Hoover Institution, Stanford University, March 17-18, 1990)*, Inst. Statist. Math., 1991.
267. Kuroda, Y. and Suzuki, T. : Arab students and English: the role of implicit culture, *Behaviormetrika*, 29, 23-44, 1991.
268. Nishihira, S. et Condominas, C. : *L'opinion des Japonais; Société-Travail-famille à Travers les Sondages — Comparaison Internationale —*, Paris, Sudestasia, 1991.
269. 坂元慶行 : 「継続調査から何がわかるのだろうか — 『中流意識』 の分析をめぐる素朴な疑問 —」 **中央調査報**, No. 400, 1-5, 1991 年.
270. Sakamoto, Y. : *Categorical Data Analysis by AIC*, Kluwer Academic Publishers, Dordrecht, Holland, 1991.

1992 年

271. 統計数理研究所国民性調査委員会 : **第 5 日本人の国民性 戦後昭和期総集**, 出光書店, 1992 年.
272. ブラジル日系人意識調査委員会 : **ブラジル日系人の意識構造**, サンパウロ人文科学研究所, 1992 年.
273. 林知己夫 : 「国際的にみた日本人の意識」 **よろん** (世論調査協会報), 70 号, 69-74, 1992 年.
274. 林知己夫 : 「日本人の考えの筋道を探る」 **Satya** (東洋大学), 7, 12-14, 1992 年.
275. 林知己夫 : **生活価値観の動向と市場創造の課題**, マーケティング教育研究所 (R&D), 1992 年.
276. 林知己夫 : 「統計的方法による『日本人の国民性研究と意識の国際比較』方法論序説」 **日本統計学会誌**, 21 巻 3 号, 353-367, 1992 年.
277. 林知己夫 : 「公開講演会要旨 : 日本人の国民性」 **統計数理**, 40 巻 2 号, 227-234, 1992 年.
278. Hayashi, C. : Belief systems and the Japanese way of thinking: interchronological and international perspectives, IN *Social, Educational and Clinical Psychology, Proc. of the 22nd International Congress of Applied Psychology*, Vol. 3, Lawrence Erlbaum Associates, 3-34, 1992.
279. Hayashi, C. : Quantitative social research — belief systems, the way of thinking and sentiments of five nations —, *Behaviormetrika*, Vol. 19, No. 2, 127-170, 1992.
280. Hayashi, C., Suzuki, T. and Sasaki, M. : *Data Analysis for Comparative Social Research, International Perspectives*, Elsevier, North-Holland, 1992.

281. Kuroda, Y. and Suzuki, T. : A comparative analysis of the Arab culture: Arabic, English, and Japanese languages and values, *Behaviormetrika*, 30, 35-53, 1992.
282. Kuroda, Y. and Suzuki, T. : Tahalil Mugarin Thagafa Al-Arabiye; Al-Lughat Wa Al-Queem Al Arabiye Wa Al-Ankelizidyeh Wa Al-Yabaniye (A comparative analysis of the Arab culture; Arabic, English and Japanese language and values), *Al Mustaqbal Al Arabi (The Arab Future)*, No. 16, 14-31, 1992.
283. 中村隆 : 「継続調査データによって社会の変化をとらえる — コウホート分析の方法 —」 **教育と情報**, No. 406, 46-47, 1992年.
284. 中村隆 : 「コウホート分析におけるモデル選択 — ベイズ型コウホートモデル (XII)」 **日本行動計量学会第20回大会発表論文抄録集**, 20-21, 1992年.
285. Nisihira, S. : Public opinion in Japan — changes and comparisons, *Japanstudien*, Band 4, 37-54, 1992.
286. 坂元慶行 : 「統計学の効用」 **教育と情報**, No. 416, 46-47, 1992年.
287. 鈴木達三 : 「公開講演会要旨 : 国民性比較の方法論」 **統計数理**, 40巻2号, 243-253, 1992年.
288. 吉野諒三 : 「社会調査データの国際比較の枠組みのための “superculture”」 **統計数理**, 40巻1号, 1-16, 1992年.
289. Yoshino, R. : An extension of the test theory without answer key by Batchelder and Romney for social survey research, IN *Social, Educational and Clinical Psychology, Proc. of the 22nd International Congress of Applied Psychology* (eds. Motoaki, H., Misumi, J. and Wilpert, B.), Vol. 3, Lawrence Erlbaum Associates, Publishers, 108, 1992.
290. Yoshino, R. : Superculture as a frame of reference for cross-national comparisons of national characters, *Behaviormetrika*, Vol. 19, No. 1, 23-41, 1992.
291. Yoshino, R. : The unbiased BIGHT model and its application to the distinction of responses to a free-answer question in a social survey, *Behaviormetrika*, Vol. 19, No. 2, 83-96, 1992.

1993年

292. 林知己夫 : **行動計量学序説**, 朝倉書店, 1993年.
293. 林知己夫 : 「国民性, 県民性」 **現代学校教育大辞典**, ぎょうせい, 1993年.
294. 林知己夫 : 「日本人の国民性」 **Phase** (リサーチ・アンド・ディベロプメント社年報), 93, 64-95, 1993年.
295. 林知己夫 : **生活価値観と消費市場**, マーケティング教育研究所 (R&D), 1993年.

296. 林知己夫・鈴木達三・三宅一郎・佐々木正道・林文・吉野諒三：「意識の国際比較方法論の研究—5カ国調査性別、年齢別集計—」**統計数理研究所 研究レポート**, No. 73, 1993年.
297. 林知己夫・水野坦・鈴木達三・吉野諒三・林文・山本勝造・河合武夫・脇坂勝則・宮尾進・森幸一：「ブラジル日系人の意識調査—1991~1992年調査(改訂補遺版)」**統計数理研究所 研究レポート**, No. 74, 1993年.
298. 中村隆：「コウホート分析におけるモデル選択の誤差—ベイズ型コウホートモデル(XIII)—」**日本行動計量学会第21回大会発表論文抄録集**, 194-195, 1993年.
299. 鈴木達三：「“ものの考え方”を比較する—国民性比較の方法論—」**教育と情報**, No. 420, 44-45, 1993年.
300. Suzuki, T. : Macro analysis by means of cohort analysis, *Behaviormetrika*, Vol. 20, No. 1, 77-90, 1993.

1994年

301. 「国民性の研究 第9回全国調査—1993年全国調査—」**統計数理研究所 研究レポート**, No. 75, 1994年.
302. 「『家族が一番大切』42%—文部省の国民性調査」**朝日新聞**, 1994年7月17日.
303. 「高まる家族志向、『金・名誉』より『のんき・趣味』—文部省国民性調査」**産経新聞**, 1994年7月17日.
304. 「衣食足りて強まる家族志向!?—文部省の国民性調査」**東京新聞**, 1994年7月17日.
305. 「『社会に満足』初の50%—国民性調査」**日本経済新聞**, 1994年7月17日.
306. 「半数が『社会に満足』—国民性調査『緩やかな保守化』示す」**毎日新聞**, 1994年7月17日.
307. 「マイホーム派増え仕事志向には陰り—国民性調査」**読売新聞**, 1994年7月17日.
308. 「性の制約薄れ『人生に挑戦』」**日本経済新聞**, 1994年8月17日.
309. 林知己夫：「消費者意識の流れを読む」**観光文化** (交通公社), Vol. 103, 2-7, 1994年.
310. 林知己夫：「心の変化と不変が綾なす風景」**産経新聞** (正論), 1994年3月15日.
311. 林知己夫：「国民性と環太平洋構想」**大平正芳記念財団レポート**, 11号, 11, 1994年.
312. 林知己夫：「国民性と環太平洋連帯構造」**大平正芳政治的遺産**, 大平正芳記念財団, 341-348, 1994年.
313. 林知己夫：「日本人の国民性：変わらぬ点, 変わる点, 特殊な点, 普遍的な点」**ESTRELA** (統計情報研究開発センター), 11月号, 28-32, 1994年.
314. 林知己夫：「日本人の国民性：変わらぬ点, 変わる点, 特殊な点, 普遍的な点」**ESTRELA** (統計情報研究開発センター), 12月号, 28-31, 1994年.
315. 林知己夫：「日本人の国民性」**フォーリン・プレス・センター**, 1994年.

316. Hayashi, C. : The Japanese national character, *Foreign Press Center*, 1994.
317. 林文 : 「日本人の自然観 — プリテスト調査から —」 **森林野生動物研究会誌**, No. 20, 25-30, 1994年.
318. 林文 : 「日本人の自然観についての予備的考察」 **NSS Journal**, No. 1, 159-174, 1994年.
319. Hayashi, F. : Comparative analysis of the Japanese and Germans: some topics on social values, *Behaviormetrika*, Vol. 21, No. 1, 61-78, 1994.
320. Murakami, M. : Estimate of the number of international children in Japan, based on trends in intermarriage, *Int. J. of Japanese Sociology*, No. 3, 29-43, 1994.
321. 中村隆 : 「国民性調査データのコーホート分析 — ベイズ型コーホートモデル(XIV)」 **日本行動計量学会第22回大会発表論文抄録集**, 144-145, 1994年.
322. 坂元慶行 : 「質的な事象の要因を探す」 **データを科学的に読む**, 統計数理研究所創立50周年記念・日経NEEDS20周年記念講演, 1-5, 1994年.
323. 坂元慶行 : 「価値や視線は私生活に集中 — 『日本人の国民性調査』から —」 **FORUM** (日経産業消費研究所), No. 121, 2-3, 1994年.
324. 坂元慶行 : 「『日本人の国民性調査』の40年」 **経済統計学会第38回全国総会報告要旨**, 33-34, 1994年.
325. 坂元慶行 : 「調査環境の変化と調査設計の一例」 **第62回日本統計学会講演報告集**, 141-142, 1994年.
326. 鈴木達三 : 「国際比較調査の事例から『日本語の国際化』を考える」 **日本語学**, 13巻13号, 43-59, 1994年.
327. 吉野諒三 : 「国民性意識の国際比較調査研究 — 統計数理研究所による社会調査研究の時間・空間的拡大 —」 **統計数理**, 42巻2号, 259-276, 1994年.

1995年

328. 林知己夫 : 「国民性からみた日本の将来」 **日本教育**, No. 221 (1月号), 12-14, 1995年.
329. 林知己夫 : 「日本人の心の行方」 **ライフスタイル展望** 21, R&D, 1-39, 1995年.
330. 林知己夫 : 「日本人の柔かな思想」 **市場調査** (輿論科学協会), 222号, 2-16, 1995年.
331. 林知己夫 : **数字からみた日本人のこころ**, 徳間書店, 1995年.
332. 林知己夫 : 「日本の現象に浸透の中間的好み」 **産経新聞** (正論), 1995年7月25日.
333. 林知己夫 : 「日本人の心を探る — 日本人の『長』に対するイメージを通して —」 **マーケティング教育研究所**, 6, 1, 1995年.
334. 林知己夫 : 「外交の基本は国民性の理解に」 **産経新聞** (正論), 1995年10月21日.
335. 林知己夫 : 「調査に携わる者は」 **市場調査** (輿論科学協会), 225号, 1-19, 1995年.

336. 林知己夫・林文：「国民性の国際比較」*統計数理*, 43巻1号, 27-80, 1995年.
337. 林知己夫・鈴木達三 他(データライブラリーに関する研究会)：**データライブラリーのあり方に関する研究**(地域社会研究所 研究報告), 1995年.
338. Hayashi, C. : *Changing and Enduring Aspects of Japanese National Character*, Institute of Social Research, INSS (Institute of Nuclear Safety System), 1995.
339. Hayashi, F. and Suzuki, T. : Data analytic representation of characteristics of various breakdowns in cross-cultural survey, IN *Data Science and Its Application* (eds. Hayashi, C. et al.), Harcourt Brace Japan, 235-246, 1995.
340. 駒澤勉・土屋隆裕：「可視化による探索的数量化 III 類の分析法—『第9次日本人の国民性調査』データの順序構造に関する分析」*統計数理*, 43巻1号, 161-176, 1995年.
341. 前田忠彦：「日本人の満足感の構造とその規定因に関する因果モデル—共分散構造分析の『日本人の国民性調査』への適用—」*統計数理*, 43巻1号, 141-160, 1995年.
342. 前田忠彦：「満足感をめぐる日本人の意識構造」第63回日本統計学会講演報告集, 64-65, 1995年.
343. 前田忠彦：「満足感をめぐる意識の男女差について」日本行動計量学会第23回大会発表論文抄録集, 280-281, 1995年.
344. 中村隆：「交互作用効果モデルと過大分散モデルを用いたコウホート分析—『日本人の国民性調査』データへの適用—」*統計数理*, 43巻1号, 99-119, 1995年.
345. 中村隆：「国民性調査データのコウホート分析—交互作用効果モデルと過大分散モデルを用いて—」第63回日本統計学会講演報告集, 56-58, 1995年.
346. 中村隆：「戦後の日本人意識の変遷—国民性調査のコウホート分析—」日本人口学会第47回大会報告要旨集, 37-39, 1995年.
347. 西平重喜：「社会的価値観は変わるか」*統計数理*, 43巻1号, 81-97, 1995年.
348. 坂元慶行：「『日本人の国民性調査』—40年間の意識動向—」*統計数理*, 43巻1号, 5-26, 1995年.
349. 坂元慶行：「意識調査の調査方式と調査結果 その(1)」*ESTRELA* (統計情報研究開発センター), 10月号, 43-51, 1995年.
350. 坂元慶行：「意識調査の調査方式と調査結果 その(2)」*ESTRELA* (統計情報研究開発センター), 11月号, 34-42, 1995年.
351. 坂元慶行：「日本人の国民性調査」**データライブラリーのありかたに関する研究—その機能と特徴を中心として**(データライブラリーに関する研究会), 地域社会研究所, 174-177, 1995年.

352. 坂元慶行：『日本人の国民性調査』—40年間の意識動向」第63回日本統計学会講演報告集, 47-49, 1995年.
353. Sakamoto, Y. : A study of Japanese national character: ninth nationwide survey, *I.S.M. Research Memorandum*, No. 572, 1995.
354. 鈴木達三：「調査法に関する一考察—質問の順や文脈, 前後関係による影響 (context effects)—」**ESTRELA** (統計情報研究開発センター), No. 16, 8-15, 1995年.
355. 鈴木達三・吉野諒三・林知己夫・村上征勝・林文 他：「意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究—総合報告書—」**統計数理研究所 研究レポート**, No. 76, 1995年.
356. 鈴木達三・吉野諒三・林知己夫・村上征勝・林文 他：「意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究—国民性の国際比較の為のマニュアル—」**統計数理研究所 研究レポート**, No. 77, 1995年.
357. 鈴木達三・吉野諒三・林知己夫・村上征勝・林文 他：「意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究—イタリア調査の回答コードブック—」**統計数理研究所 研究レポート**, No. 78, 1995年.
358. 鈴木達三・吉野諒三・林知己夫・村上征勝・林文 他：「意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究—イタリア調査の自由回答データ—」**統計数理研究所 研究レポート**, No. 79, 1995年.
359. 鈴木達三・吉野諒三・林知己夫・村上征勝・林文 他：「意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究—オランダ調査の回答コードブック—」**統計数理研究所 研究レポート**, No. 80, 1995年.
360. 鈴木達三・吉野諒三・林知己夫・村上征勝・林文 他：「意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究—オランダ調査の自由回答データ—」**統計数理研究所 研究レポート**, No. 81, 1995年.
361. 鈴木達三・吉野諒三・林知己夫・村上征勝・林文 他：「意識の国際比較における連鎖的調査分析方法の実用化に関する研究—イタリア・オランダ調査の共通ファイルコードブック—」**統計数理研究所 研究レポート**, No. 82, 1995年.
362. 土屋隆裕：「項目分類のための数量化法」**行動計量学**, 22巻2号, 95-109, 1995年.
363. 土屋隆裕：「複数データセット間の違いを探る等質性分析—『日本人の国民性調査』データへの適用—」**統計数理**, 43巻1号, 121-140, 1995年.
364. 吉野諒三・林知己夫・鈴木達三：「国民性の国際比較調査の為の質問文の作成—翻訳のプロセスを中心として—」**行動計量学**, 22巻1号, 62-79, 1995年.
365. Yoshino, R. and Khor, D. : Complementary scaling for cross-national analyses of national character, *Behaviormetrika*, Vol. 22, No. 2, 155-184, 1995.

1996年

366. 林知己夫：日本人の心とガン告知（日本癌病態治療学会報告書），1996年。
367. 林知己夫：日本らしさの構造— ころと文化をはかる，東洋経済新報社，1996年。
368. 林知己夫：「日本特殊論は成り立つか」 コンセンサス，2月号，6-7，1996年。
369. 林知己夫：「数字からみた日本人の心」 住友マネジメントレビュー，2月号，30-31，1996年。
370. 林知己夫：「統計で探る日本人のころ」 郵政，3月号，6-9，1996年。
371. 林知己夫：「日本人の心とガン告知」 産経新聞（正論），1996年2月29日。
372. 林知己夫：「日本人の国民性— 変わるものと変わらないもの，特殊なものと普通なもの—」 交詢雑誌，No. 387，12-20，1996年。
373. 林知己夫：「トップのリーダーシップについて思うこと」 運輸と経済，9月号，2-3，1996年。
374. 林知己夫・加留部清・北田淳子・北條眞：「日本における『長』のイメージ」 INSS Journal，No. 3，90-132，1996年。
375. Hayashi, C. : Cultural link analysis (CLA) for qualitative comparative social research and its applications, IN *Quantitative Social Research in Germany and Japan* (eds. Hayashi, C. and Scheuch, E.), Leske+Budrich, 202-229, 1996.
376. 中村隆：「コウホート分析における識別問題再考— ベイズ型コウホートモデル (XV)—」 日本行動計量学会第24回大会発表論文抄録集，208-209，1996年。
377. Sasaki, M. and Suzuki, T. : Changes in religious commitment in the United States, Holland, and Japan, IN *Comparing Nations and Cultures* (eds. Inkeles, A. and Sasaki, M.), Prentice-Hall, 586-601, 1996.
378. 鈴木達三：「国際比較調査における標本計画と調査実施に関する一考察」 行動計量学，23巻1号，46-62，1996年。
379. 鈴木達三：「サンプリング，国際比較，分析・報告（の一部）」 世論調査事典（NHK放送文化研究所編），大空社，1996年。
380. Suzuki, T. : Macro analysis by means of cohort analysis, IN *Quantitative Social Research in Germany and Japan* (eds. Hayashi, C. and Scheuch, E.), Leske+Budrich, 53-70, 1996.
381. Suzuki, T. and Sasaki, M. : The Use and Role of the Data Library for Improving Survey Methods, *Paper presented at the WAPOR Regional Conference in Tokyo*, 1996.
382. Yoshino, R. : Degree of conformity for the cross-national comparative study of national character, IN *Quantitative Social Research in Germany and Japan* (eds. Hayashi, C. and Scheuch, E.), Leske+Budrich, 182-206, 1996.

1997年

383. 林知己夫：「長(リーダー)の命運と社会の命運」**市場調査**(輿論科学協会), 229号, 2-19, 1997年.
384. 林知己夫：日本人の意識の特色と変化・不変化, 第87回尾張講習会(名古屋東別院), 1997年.
385. 林知己夫：「講演：社会調査と数量化—第7回 社会と情報に関するシンポジウム」**社会情報**, Vol. 7, No. 1, 7-35, 1997年.
386. 林知己夫・鈴木達三：社会調査と数量化(増補版)—国際比較におけるデータの科学—, 岩波書店, 1997年.
387. Hayashi, C. and Kuroda, Y. : *Japanese Culture in Comparative Perspective*, Praeger, 1997.
388. 林文：「国民意識の動向」**過渡期としての1950年代**(中村隆英・宮崎正康 編), 東京大学出版会, 215-238, 1997年.
389. 前田忠彦：「生活満足感と階層帰属意識の関連要因」日本行動計量学会第25回大会発表論文抄録集, 254-255, 1997年.

1998年

390. Study on Japanese behavior and attitude patterns in JAs, **Hokubei Mainichi**, 1998.10.14.
391. Studies of Nikkei character underway, **Nikkei West**, 1998.10.15.
392. 統計数理研究所国民性国際調査委員会：国民性七か国比較, 出光書店, 1998年.
393. 林知己夫：「社会調査と数量化(文献紹介)」**社会学文献事典**, 弘文堂, 1998年.
394. 林知己夫：「『日本的なるもの』の行方を探る(対談)」**炸**, No. 50 (12月号), 6-7, 1998年.
395. Hayashi, C. : What is data science? — Fundamental concepts and a heuristic example, IN *Data Science, Classification and Related Methods* (eds. Hayashi, C. et al.), Springer-Verlag, 40-51, 1998.
396. Hayashi, C. : The quantitative study of national character, interchronological and international perspectives, *Int. J. of Comparative Sociology*, Vol. 39, No. 1, 91-114, 1998. (後に Sasaki, M. (ed.), *Values and Attitude Across Nations and Time*, Brill, pp.91-114 に再録)
397. 前田忠彦：「階層帰属意識と生活満足感」**現代日本の階層意識**(間々田孝夫 編, 1995年SSM調査シリーズ6), 1995年SSM調査研究会, 89-112, 1998年.
398. 前田忠彦：「2種類の満足感の相互関係」**共分散構造分析[事例編]—構造方程式モデリング—**(豊田秀樹 編著), 北大路書房, 1998年.

399. 前田忠彦：「社会調査における満足感関連項目の因果分析」日本行動計量学会第26回大会発表論文抄録集, 13-16, 1998年.
400. 中村隆：「調査データの標本誤差評価とブートストラップ法—層別確率比例復元2段無作為抽出法の場合—」ESTRELA (統計情報研究開発センター), 3月号, 11-19, 1998年.
401. 中村隆：「1995年SSM調査の標本設計と標本精度—標本抽出法を考慮した分析に向けて—」社会階層・移動の基礎分析と国際比較(石田浩編, 1995年SSM調査シリーズ1), 1995年SSM調査研究会, 77-100, 1998年.
402. 鈴木達三：「イメージの中の日本」国際社会と日本語, 国立国語研究所, 23-24, 1998年.
403. 鈴木達三・高橋宏一：標本調査法, 朝倉書店, 1998年.
404. 柳井晴夫・前田忠彦：「偏多重対応分析の理論とその応用」第66回日本統計学会講演報告集, 378-379, 1998年.

1999年

405. 「日本人, 全体に『自信喪失』—文部省が国民性調査」朝日新聞, 1999年4月28日.
406. 「日本の経済力『よい』5年で47ポイント減の32%—国民性調査」産経新聞, 1999年4月28日.
407. 「不況の影 5年の落差 自信喪失 “症候群”—国民性調査」東京新聞, 1999年4月28日.
408. 「現状『不満』将来『悲観』—日本人の国民性」日本経済新聞, 1999年4月28日.
409. 「『社会に満足』半減—日本人の国民性調査」毎日新聞, 1999年4月28日.
410. 「日本広がる悲観論—文部省国民性調査」読売新聞, 1999年4月28日.
411. Survey: Nothing to cheer about, Asahi Evening News, 1999.4.28.
412. 林知己夫：「公開講演会要旨：国民性の国際比較—計量的文明論構築へ向けて—」統計数理研究所ニュース, No. 66, 3, 1999年.
413. 林知己夫：「調査とデータの科学」国際社会と日本語, 国立国語研究所, 125-138, 1999年.
414. 林知己夫：「平成11年度会長訓話『現在の社会と学問を超えて』」市場調査(輿論科学協会), 240号, 4-23, 1999年.
415. 林知己夫：「国際比較調査の実際(談)」新情報, Vol. 78, 5-8, 1999年.
416. 林文：「意識調査からみた日本人の自然観—自然観の意識構造と若者の意識—」東洋英和女学院大学人文・社会科学論集, 15号, 31-51, 1999年.
417. 前田忠彦：「満足感関連項目に関する因子構造の国際比較」日本行動計量学会第27回大会発表論文抄録集, 319-322, 1999年.

418. 中村隆：「年齢・時代・世代の違いを探る — コウホート分析の方法 —」 *こうしょう (高翔)*, No. 32, 15-18, 1999 年.
419. 中村隆：「公開講演会要旨：国民性と変化 — 年齢・時代・世代、どれが意識の違いを生むか —」 *統計数理研究所ニュース*, No. 66, 2, 1999 年.
420. 中村隆・土屋隆裕・前田忠彦・坂元慶行：「国民性の研究 第10次全国調査 — 1998年全国調査 —」 *統計数理研究所 研究レポート*, No. 83, 1999 年.
421. Riffault, H. : 「Letter to Japanese colleagues」 *よろん*, 第83号, 51-52, 1999 年.
422. 坂元慶行：「日本人の国民性調査 — 20世紀後半期の意識動向」 *文部時報*, No. 1474, 52-55, 1999 年.
423. 坂元慶行：「私見『日本人の国民性調査』」 *よろん*, 84号, 5-14, 1999 年.
424. 坂元慶行：「公開講演会要旨：統計的日本人研究 — 『日本人の国民性調査』の半世紀」 *統計数理研究所ニュース*, No. 66, 2, 1999 年.
425. Sakamoto, Y. : Statistical Research of the Japanese National Character: General Trends in Attitudes over the Latter Half of the Twentieth Century, *WAPOR 52nd Conference Papers*, No. 12, 1999. (451. に再録)

2000 年

426. 「『生まれ変わっても、また女』の時代 — 文部省研究所の国民性調査」 *朝日新聞*, 2000 年 8 月 25 日.
427. 林知己夫：「時系列からみた日本人の国民性 — 創立 54 周年記念特別講演『21 世紀のキーワードと国民性』より」 *市場調査 (輿論科学協会)*, No. 242, 4-23, 2000 年.
428. 林知己夫：「これからの国民性研究 — 人間研究の立場と地域研究・国際比較研究から計量的文明論の構築へ —」 *統計数理*, 48 巻 1 号, 33-66, 2000 年.
429. 林知己夫：「公開講演会要旨：国民性の国際比較 — 計量的文明論の構築へむけて —」 *統計数理*, 48 巻 1 号, 259, 2000 年.
430. 林知己夫：「国民性の国際比較とデータマイニング — データの質の評価とデータ解析 —」 *日本分類学会研究報告予稿集*, 37, 2000.
431. 林知己夫・山岡和枝：「日本人と日系人の比較」 *よろん*, 85 号, 7-11, 2000 年.
432. Hayashi, C. : Questionnaire construction, data collection and data analysis: an approach by the idea of data science, IN *Proc. of the International Conference on Measurement and Multivariate Analysis*, Vol. 1, Scientific Program Committee of the ICMMA, 7-9, 2000.
433. Hayashi, C. : Evaluation of data quality and data analysis, IN *Data Analysis, Classification and Related Methods* (eds. Kiers, H.A.L., Rasson, J.-P., Groener, R.J.R. and Schader, M.), Springer Verlag, 335-310, 2000.

434. Hayashi, C. : Design and analysis of data in social surveys, *Bulletin de Methodologie Sociologique*, No. 68, 50, 2000.
435. Hayashi, C. : The enduring and changing patterns of opinion — Japanese national character surveys — social science methodology in the new millennium, *Proc. of the Fifth International Conference on Logic and Methodology*, 276, 2000.
436. 林文 : 「野生動物に対する日本人の意識」 **教育と情報**, No. 513, 24-25, 2000年.
437. 黒田安昌 : 「変化してゆく日本文化: その要素と原因」 **統計数理**, 48巻1号, 77-92, 2000年.
438. 前田忠彦 : 「国民性調査における調査精度の経時的比較」 日本行動計量学会第28回大会発表論文抄録集, 195-198, 2000年.
439. 前田忠彦・中村隆 : 「近年5回の国民性調査の標本設計と標本精度について」 **統計数理**, 48巻1号, 147-178, 2000年.
440. Maeda, T. : Analyses of satisfaction related items in the Japanese national character survey by structural equation modeling, IN *Proc. of the International Conference on Measurement and Multivariate Analysis*, Vol. 2, Scientific Program Committee of the ICMMA, 152-155, 2000.
441. 中村隆 : 「質問項目のコウホート分析 — 多項ロジット・コウホートモデル —」 **統計数理**, 48巻1号, 93-119, 2000年.
442. 中村隆 : 「公開講演会要旨: 国民性と変化 — 年齢・時代・世代、どれが意識の違いを生むか —」 **統計数理**, 48巻1号, 255-258, 2000年.
443. 中村隆 : 「質問項目のコウホート分析 — ベイズ型コウホートモデル (XVI) —」 日本行動計量学会第28回大会発表論文抄録集, 191-192, 2000年.
444. 西平重喜 : 「国民性調査の周辺」 **統計数理**, 48巻1号, 67-76, 2000年.
445. 西平重喜 : 「女は明るく、男はやさしく — 世界青年意識調査から」 **新情報**, Vol. 83, 7-9, 2000年.
446. 坂元慶行 : 「日本人の考えはどう変わったか — 『日本人の国民性調査』の半世紀 —」 **統計数理**, 48巻1号, 3-32, 2000年.
447. 坂元慶行 : 「公開講演会要旨: 統計的日本人研究 — 『日本人の国民性調査』の半世紀 —」 **統計数理**, 48巻1号, 253, 2000年.
448. 坂元慶行 : 「日本人の考えはどう変わったか — 『日本人の国民性調査』の半世紀」 日本行動計量学会第28回大会発表論文抄録集, 189-190, 2000年.
449. 坂元慶行 : 「男と女」 **統計数理研究所ニュース**, No. 68, 14, 2000年.
450. 坂元慶行 : 「調査方法と調査結果」 **統計数理研究所ニュース**, No. 71, 7, 2000年.
451. Sakamoto, Y., Tsuchiya, T., Nakamura, T., Maeda, T. and Fouse, D. B. : A Study of the Japanese National Character: the Tenth Nationwide Survey (1998),

Research Report, General Series No. 85, The Institute of Statistical Mathematics, 2000. (425. を付録として再録)

452. 土屋隆裕 : 「UNISCAL による『日本人の国民性調査』データの分析」**統計数理**, 48 巻 1 号, 121-145, 2000 年.
453. 吉野諒三 他 : 「国民性に関する意識調査データに基づく文化の伝播変容のダイナミズムの統計科学的解析」**統計数理研究所 研究レポート**, No. 84, 2000 年.
454. 鄭躍軍 : 「七カ国における自然観・環境観の比較分析」日本行動計量学会第 28 回大会発表論文抄録集, 273-274, 2000 年.
455. Zheng, Y. and Yoshino, R. : A cross-national analysis of the natural and environmental consciousness based on the survey data in seven countries, *Proc. of the Seventh Japan-China Symposium on Statistics*, 231-234, 2000.

2001 年

456. 「頭痛・イライラ・不眠でもぐっと我慢の日本人 — 健康観を国際比較 文科省研究所」**朝日新聞**, 2001 年 7 月 18 日.
457. 林知己夫 : **日本人の国民性研究**, 南窓社, 2001 年.
458. 林知己夫 : **データの科学**, 朝倉書店, 2001 年.
459. 林知己夫 : 「国民性を土台に考える — 変えてはいけぬものと変えてよいもの —」**医療改革本当のところはどうなんだ**, 日医総研, 20-29 & 30-47, 2001 年.
460. 林知己夫 : 「『日本らしさ』の構造」**佛教大学総合研究所報**, 7 月号, 21-23, 2001 年.
461. 林知己夫 : 「柳は緑、花は紅」**市場調査** (輿論科学協会), 248 号, 4-19, 2001 年.
462. 林文 : 「自然と人間の関係についての日本人の意識」**教育と情報**, No. 516, 8-9, 2001 年.
463. 林文 : 「面接調査の調査不能による回収率の偏りの検討 — WHO 『DV と女性の健康調査』日本調査 (横浜市) を例として —」**中央調査報**, No. 530, 1-4, 2001 年.
464. 前田忠彦 : 「二段抽出におけるデザイン効果の検証」日本行動計量学会第 29 回大会発表論文抄録集, 354-357, 2001 年.
465. 前田忠彦 : 「二段抽出因子分析モデルにおけるデザイン効果の検討」**科研費研究集会「因子分析と共分散構造分析に関する諸問題」講演報告集**, 45-63, 2001 年.
466. 前田忠彦・土屋隆裕 : 「日本人の国民性 2000 年度吟味調査報告〜電話・郵送・面接調査の比較〜」**統計数理研究所 研究レポート**, No. 87, 2001 年.
467. Maeda, T. and Tsuchiya, T. : Comparison among telephone, mail and face-to-face interviewing surveys, *IMPS-2001 International Meeting of the Psychometric Society Abstracts*, 177, 2001.

468. 中村隆：「コウホート分析から見た調査の継続性—ベイズ型コウホートモデル (XVII)—」日本行動計量学会第29回大会発表論文抄録集, 372-373, 2001年.
469. 坂元慶行：「日本人の考えはどう変わったか①—1970年代までの変化」ESTRELA (統計情報研究開発センター), No. 88, 83-86, 2001年.
470. 坂元慶行：「質的データのデータマイニング—最適なクロス表の自動探索 CAT-DAP ①」ESTRELA (統計情報研究開発センター), No. 91, 82-85, 2001年.
471. 坂元慶行：「質的データのデータマイニング—最適なクロス表の自動探索 CAT-DAP ②」ESTRELA (統計情報研究開発センター), No. 92, 84-87, 2001年.
472. 坂元慶行：「日本人の考えはどう変わったか②—1970年代以降の変化を中心に」ESTRELA (統計情報研究開発センター), No. 93, 81-84, 2001年.
473. 坂元慶行：「『日本人の国民性調査』—社会調査研究のある最前線」理論と方法, 16巻1号, 75-88, 2001年.
474. 坂元慶行・土屋隆裕・中村隆・桂康一：あなたは旧人類？ 新人類？ (日経2000年夢のプロジェクト用ソフト), 2001年7月.
475. Tsuchiya, T. and Maeda, T. : On the characteristics of two telephone survey methods, *IMPS-2001 International Meeting of the Psychometric Society Abstracts*, 179, 2001.
476. 吉野諒三：心を測る—個と集団の意識の科学, 朝倉書店, 2001年.
477. 吉野諒三 (研究代表者)：国民性に関する意識調査データに基づく文化の伝播変容のダイナミズムの統計科学的解析 (平成10年度～平成12年度科学研究費補助金 (基盤研究A(2)) 研究成果報告書), 2001年. (453. を改訂したもの)
478. 吉野諒三 他：「文化の伝搬変容の統計科学的研究—ハワイ日系人・非日系人国際比較調査—」統計数理研究所 研究レポート, No. 86, 2001年.
479. 鄭躍軍：「科学・技術に対する意識の国際比較」科学と社会 2000 (総合研究大学院大学 編), 総合研究大学院大学, 121-141, 2001年.
480. 鄭躍軍・吉野諒三：「科学・技術に対する信—日米欧の7カ国データに見られる信頼感のあり方—」, *I.S.M. Research Memorandum*, No. 813, 2001年.
481. 鄭躍軍・吉野諒三・山岡和枝・林文：「日米欧における科学文明観の比較分析」日本行動計量学会第29回大会発表論文抄録集, 368-371, 2001年.
482. Zheng, Y. and Yoshino, R. : Cross-national comparison on consciousness of science, nature and environment, *Proc. of 35th International Institute of Sociology Congress in Krakow*, 171, 2001.

2002年

483. Fugita, S. S., Kashima, T. and Miyamoto, S. F. : Methodology of comparative

- studies of national character: west coast survey, *Behaviormetrika*, Vol. 29, No. 2, 143-148, 2002.
484. Fugita, S. S., Miyamoto, S. F. and Kashima, T. : Interpersonal style and Japanese American organizational involvement, *Behaviormetrika*, Vol. 29, No. 2, 185-202, 2002.
485. 林知己夫 : 「世論調査とデータの科学」 *よろん*, 89号, 36-39, 2002年.
486. 林知己夫 編著 : *社会調査ハンドブック*, 朝倉書店, 2002年.
487. 林知己夫・櫻庭雅文 : *数字が明かす日本人の潜在力—50年間の国民性調査データが証明した真実*, 講談社, 2002年.
488. Hayashi, C. : Questionnaire construction, data collection and data analysis: an approach by the idea of data science, IN *Measurement and Multivariate Analysis* (eds. Nishisato, S. et al.), Springer-Verlag, 13-24, 2002.
489. Hayashi, C. : Design and analysis of data in sample surveys on Japanese national character, *Comparative Sociology*, Vol. 1, No. 1, 93-114, 2002.
490. 林文・佐々木正道 : 「日米の親子調査—親子間における考え方の継承について—」 *日本行動計量学会第30回大会発表論文抄録集*, 342-343, 2002年.
491. 林文・山岡和枝 : *調査の実際—不完全なデータから何を読みとるか*, 朝倉書店, 2002年.
492. Kashima, T., Miyamoto, S. F. and Fugita, S. S. : Religious attitudes and beliefs among Japanese Americans: King county, Washington and Santa Clara county, California, *Behaviormetrika*, Vol. 29, No. 2, 203-229, 2002.
493. 前田忠彦 : 「郵送調査法の特徴に関する研究 : 一つの事例報告」 *第33回数理社会学学会大会研究報告要旨集*, 10-13, 2002年.
494. 前田忠彦 : 「郵送調査法の特性に関する研究—2000年度1都3県有権者調査報告—」 *統計数理研究所 研究教育活動報告*, No. 14, 2002年.
495. Miyamoto, S. F., Fugita, S. S. and Kashima, T. : A theory of interpersonal relations for cross cultural studies, *Behaviormetrika*, Vol. 29, No. 2, 149-184, 2002.
496. Nakamura, T. : Cohort analysis of data obtained using a multiple choice question, IN *Measurement and Multivariate Analysis* (eds. Nishisato, S. et al.), Springer-Verlag, 241-248, 2002.
497. 坂元慶行 : 「日本人の国民性調査」 *社会調査ハンドブック* (林知己夫 編), 朝倉書店, 611-615, 2002年.
498. 山岡和枝・鄭躍軍・吉野諒三 : 「健康観と信頼感」 *日本行動計量学会第30回大会発表論文抄録集*, 350-351, 2002年.

499. 吉野諒三：「『信の崩壊』—世論調査方法論の今日の課題—」**行動計量学**, 29巻1号, 45-54, 2002年.
500. 吉野諒三：「シンポジウム『集団と個』に関するデータ解析の問題点—『世論調査』及び『東アジア価値観』の方法論研究の視点から—」日本行動計量学会第30回大会発表論文抄録集, 72-75, 2002年.
501. 吉野諒三(研究代表者)：**文化の伝搬変容の統計科学的研究—ハワイ日系人・非日系人国際比較調査—**(平成11年度～平成13年度科学研究費補助金(基盤研究A(2))研究成果報告書), 2002年.(478.を改訂したもの)
502. Yoshino, R. : A time to trust—a study on peoples' sense of trust from a viewpoint of cross-national and longitudinal study on national character—, *Behaviormetrika*, Vol. 29, No. 2, 231-260, 2002.
503. Yoshino, R. and Hayashi, C. : Editorial, *Behaviormetrika*, Vol. 29, No. 2, 121-124, 2002.
504. Yoshino, R. and Hayashi, C. : An overview of cultural link analysis of national character, *Behaviormetrika*, Vol. 29, No. 2, 125-142, 2002.
505. 鄭躍軍：「中国・日本における国民の環境意識に関する研究」環境経済・政策学会2002年大会報告要旨集, 72-73, 2002年.
506. 鄭躍軍：「環境意識形成の要因分析—中・日の環境意識比較を例として—」環境経済・政策学会2003年大会報告要旨集, 258-259, 2002年.
507. 鄭躍軍・吉野諒三：「標本抽出名簿がない場合の個人標本抽出—北京市・上海市における意識調査—」日本行動計量学会第30回大会発表論文抄録集, 346-349, 2002年.
508. 鄭躍軍・吉野諒三：「標本抽出名簿がない場合の個人標本抽出—北京市・上海市における意識調査—」日本行動計量学会第30回大会発表論文抄録集, 346-349, 2002年.

2003年

509. 「北京・上海市民8割が失業不安—日中共同意識調査」**朝日新聞**, 2003年7月9日.
510. 林文・佐々木正道：「日本の国際化に関する意識の世代間の比較」日本行動計量学会第31回大会発表論文抄録集, 248-249, 2003年.
511. インケルス, アレックス(吉野諒三訳)：**国民性論—精神社会的展望**, 出光書店, 2003年.
512. Kuroda, Y. : The rainbow model of American ethnic groups, *Behaviormetrika*, Vol. 30, No. 1, 39-62, 2003.

513. 前田忠彦：「伝統-近代をめぐる意識変遷の再分析」日本行動計量学会第31回大会発表論文抄録集, 304-305, 2003年.
514. 三好美浩・吉野諒三：「自由回答に見る職業意識の分析」日本行動計量学会第31回大会発表論文抄録集, 252-253, 2003年.
515. Nakamura, T. : A Bayesian logit age-period-cohort model, IN *Science of Modeling — The 30th Anniversary of the Information Criterion (AIC)*, *ISM Report on Research and Education*, No. 17, Inst. Statist. Math., 61-70, 2003.
516. Sakamoto, Y. : CATDAP: Categorical data analysis program for data mining, IN *Science of Modeling — The 30th Anniversary of the Information Criterion (AIC)*, *ISM Report on Research and Education*, No. 17, Inst. Statist. Math., 271-281, 2003.
517. 土屋隆裕・前田忠彦：「二種類の電話調査法の比較実験調査」*行動計量学*, Vol. 30, 93-109, 2003年.
518. 山岡和枝・吉野諒三：「健康感と関連要因：東アジア価値観調査結果の分析」日本行動計量学会第31回大会発表論文抄録集, 250-251, 2003年.
519. Yamaoka, K. and Hayashi, C. : Cultural link analysis of Japanese Americans, *Behaviormetrika*, Vol. 30, No. 1, 7-20, 2003.
520. 吉野諒三：「(付)日本における国民性研究」*国民性論 — 精神社会的展望*(インケルス著/吉野諒三訳), 朝倉書店, 447-470, 2003年.
521. 吉野諒三：「東アジア諸国の人々の日本語観」*ECO-FORUM* ((財)統計研究会), Vol. 22, No. 1, 42-51, 2003年.
522. 吉野諒三：「国際比較方法論の確立を目指して」*よろん*, 92号, 28-35, 2003年.
523. 吉野諒三：「富国信頼 — 東アジアの人々の『信頼感』の分析 —」日本行動計量学会第31回大会発表論文抄録集, 254-257, 2003年.
524. 吉野諒三・鄭躍軍・朴承根：「東アジア諸国の人々の日本語観」*行動計量学*, 30巻1号, 31-52, 2003年.
525. Yoshino, R. and Hayashi, C. : Editorial, *Behaviormetrika*, Vol. 30, No. 1, 5-6, 2003.
526. 鄭躍軍・村上征勝・吉野諒三・馬場康維・前田忠彦・袁衛・趙彦雲・王棋延：「日本・中国の国民性比較のための基礎研究 — 中国北京市における意識調査 —」*統計数理研究所 研究レポート*, No. 89, 2003年.
527. 鄭躍軍・村上征勝・吉野諒三・前田忠彦・周国模・唐和平：「日本・中国の国民性比較の基礎研究(2) — 中国上海市における意識調査 —」*統計数理研究所 研究レポート*, No. 90, 2003年.

528. 鄭躍軍・吉野諒三：「東アジア価値観比較調査に向けて—中国における意識調査のための標本抽出の実践的検討」*よろん*, 91号, 16-21, 2003年.
529. 鄭躍軍・吉野諒三：「中国人・日本人の国民性の特徴 (I) —不安感・満足感、家庭・家族間と伝統的な価値観を中心に—」日本行動計量学会第31回大会発表論文抄録集, 244-247, 2003年.
530. Zheng, Y. and Yoshino, R. : Diversity patterns of attitudes toward nature and environment in Japan, USA, and European nations, *Behaviormetrika*, Vol. 30, No. 1, 21-37, 2003.

IV 調查項目一覽表

調 査 項 目

§	項 目		全							
	#	見 出 し	I 1953	II 1958		III 1963	IV 1968	V 1973		
§1 基 本 項 目	1.1	性	1	1	101	性	性	K性	M性	
	1.2	年 齡	1	1	101	年 齡	年 齡	K年 齡	M年 齡	
	1.2b	婚姻・子	56	-	-	-	-	-	-	
	1.3	学 歴	55	32a	132a	学 歴	学 歴	K学 歴	K29	
	1.4	職 業	57	31a	131a	職 業	職 業	-	-	
	1.4*	職 業	-	-	-	-	-	K職業	M30	
	1.4b	職 業	-	-	-	-	-	-	-	
	1.4c	職 業 (新形式)	-	-	-	-	-	-	-	
	1.4d	勤務形態	-	-	-	-	-	-	-	
	1.5	市郡別	} サンプリング台帳より							
	1.6	地方別								
	1.7	おくに (生まれ)	-	33	133	-	-	-	-	
	1.8	帰属階層	-	-	-	-	-	-	-	
	1.9	所有 (財産)	-	-	-	-	-	-	-	
	1.10	新聞よむか	52	-	-	-	-	-	-	
	1.10b	ラジオのニュースきくか	53	-	-	-	-	-	-	
	1.10c	映画みるか	54	-	-	-	-	-	-	
	1.22	世帯人員数	-	-	-	-	-	-	-	
	1.30	騒 音	-	-	-	-	-	-	-	
	§2 個 人 的 態 度	2.1	しきたりに従うか	4	7	107	7	8	K11	-
2.2		反対をおしきって実行	-	27	127	19	21	K27	-	
2.2b		スジかまるくか	-	-	-	-	-	-	-	
2.3		幸福か	-	20	-	-	-	-	-	
2.3b		住所に満足か	2	-	-	-	-	-	-	
2.3c		家庭に満足か	-	-	-	-	-	-	M 9a	
2.3d		社会に満足か	-	-	-	-	-	-	M 9b	
2.3f		生活環境満足か	-	-	-	-	-	-	-	
2.3g		健康状態満足か	-	-	-	-	-	-	-	
2.3h		くらしむき満足か	-	-	-	-	-	-	-	
2.3i		仕事や職場に満足か	-	-	-	-	-	-	-	
2.3j	余暇に満足か	-	-	-	-	-	-	-		
2.3k	健康状態に満足か	-	-	-	-	-	-	-		

一 覧 表

(全国調査のみ)

国												ページ
VI 1978		VII 1983		VIII 1988		IX 1993		X 1998		XI 2003		
K性	M性	K性	M性	K性	M性	K性	M性	K性	M性	K性	M性	11
K年齢	M年齢	K年齢	M年齢	K年齢	M年齢	K年齢	M年齢	K年齢	M年齢	K年齢	M年齢	11
-	-	-	-	-	-	-	-	K40	M36	-	-	
K学歴	M学歴	K学歴	M学歴	K学歴	M学歴	K40	M34	K38	M34	K38	M33	12
K職業	M職業	K職業	M職業	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	K職業a	M職業a	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	K職業b	M職業b	K41b	M35b	K39	M35	K39	M34	13
-	-	-	-	-	-	K41a	M35a	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15
-	-	K33	M30	K32	M23	K37	M22	-	M24	-	M24	16
-	-	K所有	M所有	K所有	M所有	K38	M32	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	K40	M35	17
-	-	-	M29	-	-	-	-	-	-	-	-	
K 6	-	K 6	M 5	K 7	-	K 6	-	K 7	-	K 7	-	18
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
K13	-	K27	-	K25	-	K28	-	K29	-	K30	-	19
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	M 5a	K32a	-	-	-	-	M20c	-	M21c	-	M20c	22
-	M 5b	K32b	M19	K31b	M20b	-	M20a	-	M21a	-	M20a	20
-	-	-	M12	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	M13	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	K31a	M20a	-	-	-	-	-	M13	26
-	-	-	-	-	-	-	M20b	-	M21b	-	M20b	21
-	-	-	-	-	-	-	M20d	-	M21d	-	M20d	23
-	-	-	-	-	-	-	M20e	-	M21e	-	M20e	24

§	項 目		全					
	#	見 出 し	I 1953	II 1958	III 1963	IV 1968	V 1973	
§ 2 個 人 的 態 度	2. 31	生活全体に満足か	-	-	-	-	-	-
	2. 4	くらし方	39	22	-	26	31	K34 -
	2. 4*	くらし方	-	-	-	-	-	M26
	2. 5	自然と人間との関係	34	15	-	15	17	K23 M20
	2. 6	過去と将来	44	-	-	-	18	K24 -
	2. 7	一番大切なもの	47	29	129	29	34	K41 -
	2. 7a2	二番大切なもの	-	-	-	-	-	-
	2. 7b	あなたの趣味は	-	-	-	-	-	-
	2. 8	一生働くか	-	-	-	-	-	M 2
	2. 9	ムダにしているか	-	-	-	-	-	M 6
	2. 10	幸福かためになることか	-	-	-	-	-	M11
	2. 11	好きなくらし方か人のためか	-	-	-	-	-	-
	2. 11b	可能性をためすか	-	-	-	-	-	-
	2. 12	他人のためか自分のためか	-	-	-	-	-	-
	2. 12b	スキがあれば利用されるか	-	-	-	-	-	-
	2. 12c	人は信頼できるか	-	-	-	-	-	-
	2. 13	将来に備えるか楽しむか	-	-	-	-	-	-
	2. 30	不安感 重い病気	-	-	-	-	-	-
	2. 30b	仕事上の事故	-	-	-	-	-	-
	2. 30c	街での暴力	-	-	-	-	-	-
	2. 30d	交通事故	-	-	-	-	-	-
	2. 30e	失 業	-	-	-	-	-	-
	2. 30f	戦 争	-	-	-	-	-	-
	2. 30g	原子力施設の事故	-	-	-	-	-	-
	2. 30h	経済面の不安	-	-	-	-	-	-
	2. 31a	関心度 定年後	-	-	-	-	-	-
	2. 31b	余暇	-	-	-	-	-	-
	2. 31c	株	-	-	-	-	-	-
	2. 31d	科学技術	-	-	-	-	-	-
	2. 31e	防衛問題	-	-	-	-	-	-
	2. 32a	社会への関心度 内面的生き方	-	-	-	-	-	-
	2. 32b	自分と家族	-	-	-	-	-	-
2. 32c	自分と友人	-	-	-	-	-	-	
2. 32d	自分と隣人	-	-	-	-	-	-	

VI 1978		VII 1983		VIII 1988		IX 1993		X 1998		XI 2003		ページ
-	-	-	-	-	-	-	M20f	-	M21f	-	M20f	
K19	-	K20	M20	K18	M 9	K22	M10	K22	-	K24	-	27
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
K16	-	K17	M17	K15	-	K19	-	K19	-	K21	-	28
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
K32	-	K13	-	K11	-	K10	-	K10a	-	K10a	-	29
-	-	-	-	-	-	-	-	K10b	-	K10b	-	30
-	-	K12	-	K10	-	K 9	-	-	-	-	-	
K 1	-	K 2	M 1	K 3	M 1	-	M 1	-	M 4	-	M 3	31
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	-	K25	-	K26	-	32
-	M 6	K21a	-	K19	M10	-	M11	-	M10	-	M 9	33
-	-	K21b	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
K27	-	K 7	-	-	-	K14	-	K14	-	K14	-	34
K28	-	K 8	-	-	-	K15	-	K15	-	K15	-	35
K29	-	K 9	-	-	-	K16	-	K16	-	K16	-	36
-	M 7	-	-	K20	-	-	M13	-	M12	-	M11	37
-	-	-	M25a	-	-	-	-	-	M15a	-	M14a	38
-	-	-	M25b	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	M25c	-	-	-	-	-	M15b	-	M14b	39
-	-	-	M25d	-	-	-	-	-	M15c	-	M14c	40
-	-	-	M25e	-	-	-	-	-	M15d	-	M14d	41
-	-	-	M25f	-	-	-	-	-	M15e	-	M14e	42
-	-	-	M25g	-	-	-	-	-	M15f	-	M14f	43
-	-	-	-	-	-	-	-	-	M15g	-	M14g	44
-	-	-	-	-	M26a	-	M26a	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	M26b	-	M26b	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	M26c	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	M26d	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	M26e	-	M26c	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	M27a	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	M27b	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	M27c	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	M27d	-	-	-	-	

§	項 目		全						
	#	見 出 し	I 1953	II 1958	III 1963	IV 1968	V 1973		
§ 2 個 人 的 態 度	2.32e	社会への関心度 自分と職場	-	-	-	-	-	-	
	2.32f	自分と国家	-	-	-	-	-	-	
	2.32g	自分と国際社会	-	-	-	-	-	-	
	2.80a	病気 頭痛	-	-	-	-	-	-	
	2.80b	背中の痛み	-	-	-	-	-	-	
	2.80c	いらいら	-	-	-	-	-	-	
	2.80d	うつ状態	-	-	-	-	-	-	
	2.80d*	ゆううつ	-	-	-	-	-	-	
	2.80e	不眠症	-	-	-	-	-	-	
§ 3 宗 教	3.1	宗教を信じるか	-	16a	-	28a	33a	K19a	-
	3.1b	宗派名	-	16b	-	28a	33a	K19a	-
	3.1c	(宗教)していること	-	-	-	28a	33a	K19a	-
	3.2	「宗教心」は大切か	-	16c	-	28b	33b	K19b	-
	3.2b	「宗教心」は大切か	-	-	-	-	-	-	-
	3.3	宗教は1つか	-	17	-	-	-	-	-
	3.4	人々の宗教への態度	-	18	-	-	-	-	-
	3.5	「あの世」を信じるか	-	19	-	-	-	-	-
	3.6	宗教か科学か	37	-	-	-	-	-	-
	3.7	性善・性悪	46	-	-	-	-	K36	-
	3.8	自殺やむをえぬか (板ばさみ)	21-1	-	-	-	-	-	-
	3.8b	〃 (生活苦)	21-2	-	-	-	-	-	-
	3.9	首相の伊勢参り	14	-	110	10	11	K14	-
3.9*	首相の伊勢参り	-	-	-	-	-	-	M 4	
3.9b	首相の伊勢参り	-	-	-	-	-	-	-	
§ 4.1 子 供	4.1	子供を使いに出すとき	-	4	-	-	-	-	-
	4.2	水鉄砲に注意	-	5	-	-	-	-	-
	4.3	弟のわがまま	31	-	-	-	-	-	-
	4.4	先生が悪いことをした	9	6	-	4	4	K 5	-
	4.4b	ウソー先生のうわさ話	-	-	-	-	-	-	M 7a
	4.4c	ウソーつき合い	-	-	-	-	-	-	M 7b
	4.4d	ウソー国内の混乱	-	-	-	-	-	-	M 7c
	4.5	子供に「金は大切」と教える	24-1	-	-	5	5	K 6	-
4.5*	子供に「金は大切」と教える	-	-	-	-	-	-	M10	

国						ページ
VI 1978	VII 1983	VIII 1988	IX 1993	X 1998	XI 2003	
-	-	-	M27e	-	-	
-	-	-	M27f	-	-	
-	-	-	M27g	-	-	
-	-	-	M25a	M28a	M27a	45
-	-	-	M25b	M28b	M27b	46
-	-	-	M25c	M28c	M27c	47
-	-	-	M25d	M28d	-	49
-	-	-	-	-	M27d	48
-	-	-	M25e	M28e	M27e	50
K11a	K15a	K13a	K12a	K12a	K12a	51
-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	
K11b	-	-	-	-	-	53
-	K15b	K13b	K12b	K12b	K12b	52
-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	
-	K29	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	
K 7	M 6	K 9	K 8	K 9	K 9	54
-	-	-	-	-	-	
-	M19	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	
K 4	K 4	K 5	K 4	K5	K 5	55
-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	
K 5	K 5 M 4	K 6	K 5	K 6	K 6	56
-	-	-	-	-	-	

§	項 目		全					
	#	見 出 し	I 1953	II 1958	III 1963	IV 1968	V 1973	
§ 4.1	4.6	子供に「メツは大切」と教える	24-3	-	-	-	-	K 8 -
	4.7	子供に自由と規律	24-4	-	-	-	6	K 7 -
	4.13	就職のとき	-	-	-	-	-	M15a
	4.13b	嫁入りのとき	-	-	-	-	-	M15b
	4.14	子供の雑誌売り	-	-	-	-	-	-
	4.15	親もテレビに出すべきか	-	-	-	-	-	-
	4.16	子供の将来の性質	-	-	-	-	-	-
§ 4.2	4.8	結婚式・葬式盛大に	17	-	109	9	10	K13 -
	4.8*	結婚式に金をかける	-	-	-	-	-	M 3
	4.9	本家・分家を考えるか	-	-	105	-	-	-
	4.10	他人の子供を養子にするか	28-1	-	106	2	2	K 3 -
	4.10b	親類の子供を養子にするか	28-2	-	-	-	-	-
	4.11	先祖を尊ぶか	3	-	-	-	-	K20 -
	4.12	有名人の息子のチンドン屋	12	-	-	-	-	-
	4.30	家庭はくつろぐ場所	-	-	-	-	-	-
	4.31	家事や子供の世話	-	-	-	-	-	-
	4.32	離婚すべきでないか	-	-	-	-	-	-
	4.33	お盆は親族で	-	-	-	-	-	-
§ 5	5.1	恩人がキトクのとき	41	-	111a	13a	15a	K21a -
	5.1*	恩人がキトクのとき	-	-	-	-	-	M17a
	5.1b	親がキトクのとき	42	-	111b	13b	15b	K21b -
	5.1b*	親がキトクのとき	-	-	-	-	-	M17b
	5.1c1	入社試験 (親戚)	-	-	-	20a	22a	K28a M16a
	5.1c2	入社試験 (恩人の子)	-	-	-	20b	22b	K28b M16b
	5.1d	大切な道徳	-	-	-	17	20	K26 -
	5.1e	「親孝行」戦前との比較	-	-	-	18a	-	-
	5.1f	「恩返し」戦前との比較	-	-	-	18b	-	-
	5.1g	「権利尊重」戦前との比較	-	-	-	18c	-	-
	5.2	恩人のむすこの入社	26 (27)	14a (bc)	114a (bc)	-	-	-
	5.3	出し合う金が高いとき	-	13	-	-	-	-
	5.4	目上の誤解の注意	19	-	116	-	-	-
5.4c	目上につかわれるとき	11	-	-	-	-	-	
5.5	巡査へ口答え	-	-	118	-	-	-	

§	項 目		全						
	#	見 出 し	I 1953	II 1958	III 1963	IV 1968	V 1973		
§ 5 身 近 な 社 会	5.6	めんどろをみる課長	35	-	117	21	23	K29	-
	5.6*2	めんどろをみる課長	-	-	-	-	-	-	-
	5.6*	上役とのつき合い	-	-	-	-	-	-	M 5
	5.6b	つとめたい会社	-	-	-	-	-	-	M18
	5.6c	嫌いな旅行-いくべきか	-	-	-	-	-	-	-
	5.6d	嫌いな旅行-世間では	-	-	-	-	-	-	-
	5.6e	課長-ヨメの世話	-	-	-	-	-	-	-
	5.6f	課長-引っ越し	-	-	-	-	-	-	-
	5.6g	課長-居残り	-	-	-	-	-	-	-
	5.6h	他人との仲か仕事か	-	-	-	-	-	-	-
	5.7	近所・安い・有名な店	36	-	-	-	24	-	-
	5.8	共同炊事	40	-	-	-	25	-	-
	5.9	秀吉は若者の手本	6	-	-	-	-	K 9	-
	5.10	四十七士はよいか	50	-	-	-	-	-	-
	5.16	三万円の借用書	-	-	-	-	26	-	-
	5.17	社会生活で注意しあう	-	-	-	-	-	-	M12
	5.18	友人のタイプ	-	-	-	-	-	-	M14
	5.19	議論をつくすか	-	-	-	-	-	-	M19
	5.19b	議論をつくすか	-	-	-	-	-	-	-
	5.20	「自由」は大切か	-	-	-	-	-	-	M24a
	5.20b	「規律」は大切か	-	-	-	-	-	-	M24b
	5.20c	「宗教的な心」は大切か	-	-	-	-	-	-	M24c
	5.20d	「国を愛するということ」は大切か	-	-	-	-	-	-	M24d
	5.20e	「先祖をとうとぶこと」は大切か	-	-	-	-	-	-	M24e
	5.20f	「親孝行」は大切か	-	-	-	-	-	-	M24f
5.20g	「恩返し」は大切か	-	-	-	-	-	-	M24g	
5.20h	「お金」は大切か	-	-	-	-	-	-	M24h	
5.21	課長の選挙違反	-	-	-	-	-	-	-	
5.22	金か人間のつながりか	-	-	-	-	-	-	-	
5.23	能力か功労か	-	-	-	-	-	-	-	
5.23*	能力か功労か	-	-	-	-	-	-	-	
5.24	勤め先を変えるか	-	-	-	-	-	-	-	
5.25	リーダーの条件	-	-	-	-	-	-	-	
5.81a	生活領域の重要性 家族や子供	-	-	-	-	-	-	-	

国								ページ		
VI 1978	VII 1983		VIII 1988		IX 1993	X 1998	XI 2003			
K22	-	K23 M22	K22 M18	K26	-	K27	-	K28	-	71
-	-	-	-	-	-	-	-	-	M16	72
-	-	-	-	-	-	M 9	-	M 8	-	73
K23	-	-	-	-	M19	-	M20	-	M19	74
K25a	-	-	-	M19a	-	-	-	-	-	
K25b	-	-	-	M19b	-	-	-	-	-	
K30a	-	-	-	-	-	-	-	K17a	-	75
K30b	-	-	-	-	-	-	-	K17b	-	76
K30c	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
K14	-	K26	-	-	K27	-	K28	-	K29	77
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	M10	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	M 9	-	-	-	-	-	M22	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
K20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	M14	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	M 8	-	-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	M 8	-	M 8	-	M 7	78
-	-	-	-	-	-	-	-	K18	-	79
-	-	-	-	-	M17	-	M18	-	M17	80
-	-	-	-	-	M18	-	M19	-	M18	81
-	-	-	-	-	M14a	-	-	-	-	

§	項 目		全						
	#	見 出 し	I 1953	II 1958	III 1963	IV 1968	V 1973		
§5 身 近社 な会	5.81b	生活領域の重要性 職業や仕事	-	-	-	-	-	-	
	5.81c	自由時間	-	-	-	-	-	-	
	5.81d	友人、知人	-	-	-	-	-	-	
§6 男 女 の 差 異	6.1	中学校の男女共学	-	-	102	-	-	-	-
	6.2	男・女の生まれかわり	-	-	103	1a	1a	K 1a	M 1a
	6.2b	男・女を希望	16	-	-	-	-	-	-
	6.2c	苦勞どちらが多いか	-	-	-	1b	1b	K 1b	M 1b
	6.2d	楽しみどちらが多いか	-	-	-	1c	1c	K 1c	M 1c
	6.2e	男の子と女の子	-	-	-	-	-	-	-
	6.2f	どちらがトクか	-	-	-	-	-	-	-
	6.3	女は家庭か世間か	-	-	104	-	-	-	-
	6.4	女の仕事は好ましいか	10	-	-	-	-	K 2	-
	6.5	男女の能力差	-	-	120	-	-	-	-
6.6	年下の上役と女の上役	-	-	-	-	-	-	-	
§7 一 般 の 社 会 的 問 題	7.1	人間らしさはへるか	5	3	-	6	7	K10	-
	7.2	心の豊かさはへらないか	29	24	-	12	13	K18	-
	7.2b	21世紀の世の中	-	-	-	-	14	-	-
	7.3	家族・国家中心と個人中心	-	26	126	-	-	-	-
	7.4	日本と個人の幸福	45	-	-	16	19	K25	-
	7.4*	国と個人の幸福	-	-	-	-	-	-	-
	7.4b	国の繁栄と国民の生活	-	-	-	-	-	-	-
	7.5	公益と個人の権利	-	-	119	-	-	-	-
	7.5*	公益と個人の権利	-	-	-	-	-	-	-
	7.5b	公益と個人の権利	-	-	-	23	28	K31	-
	7.5b*	公益と個人の権利	-	-	-	-	-	-	M21
7.5c	道路立退き反対運動	-	-	-	-	-	-	M22a	
7.5d	学校立退き反対運動	-	-	-	-	-	-	M22b	
7.6	勲章か賞金か	23	9	-	14	16	K22	-	
7.7	仕事の価値	8	-	108	8	9	K12	-	
7.8	個人賞金の使い方(ノーベル)	-	23	-	-	-	-	-	
7.9	ふしだらな科学者	48	-	-	-	-	-	-	
7.10	公金使いこみの疑い	-	-	115	-	-	-	-	
7.11	自称・他称の統一	-	10	-	-	-	-	-	

§	項 目		全					
	#	見 出 し	I 1953	II 1958	III 1963	IV 1968	V 1973	
§ 7 一 般 の 社 会 的 問 題	7.12	競輪で教育施設	-	8	-	-	-	-
	7.12b	競輪で教育施設	22	-	-	-	-	-
	7.13	法律は金持に有利か	-	-	121	-	-	-
	7.13c	法律の精神	-	-	-	22	27	K30
	7.13d	行為か動機か	-	-	-	-	-	-
	7.14	客がない車中のタバコ	-	-	122a(b)	-	-	-
	7.15	労組をつくるのはよいか	38	-	-	-	-	-
	7.16	事故と社長	-	-	-	-	-	M13
	7.18	人間の健康の面はよくなるか	-	-	-	-	-	M27a
	7.18b	心のやすらかさはますか	-	-	-	-	-	M27b
	7.18c	人間の自由はふえるか	-	-	-	-	-	M27c
	7.18d	生活は豊かになるか	-	-	-	-	-	M27d
	7.18e	幸福になるか	-	-	-	-	-	M27e
	7.19	才能か運か	-	-	-	-	-	-
	7.20	自分の責任か	-	-	-	-	-	-
	7.21	金を貰えばわるい気はしないか	-	-	-	-	-	-
	7.21b	金があれば墮落するか	-	-	-	-	-	-
	7.21c	かせいだ金と幸運の金	-	-	-	-	-	-
	7.21d	金にきちょうめん	-	-	-	-	-	-
	7.21e	無理して金をかせぐか	-	-	-	-	-	-
	7.22	万事金か	-	-	-	-	-	-
	7.23	事故と先生—本人の意見	-	-	-	-	-	-
	7.23b	事故と先生—一般の親は	-	-	-	-	-	-
	7.24	就職の第1の条件	-	-	-	-	-	-
	7.24b	就職の第2の条件	-	-	-	-	-	-
	7.25	お金と仕事	-	-	-	-	-	-
	7.29	くらしむき	-	-	-	-	-	-
	7.29b	たけのご生活	-	-	-	-	-	-
	7.30a	生活水準10年の変化	-	-	-	-	-	-
	7.30b	日本人の生活水準	-	-	-	-	-	-
	7.31	今後の生活水準	-	-	-	-	-	-
	7.32	お金とコネがあればよい治療うけられか	-	-	-	-	-	-
	7.33	コンピュータ社会は好ましいか	-	-	-	-	-	-

§	項 目		全					
	#	見 出 し	I 1953	II 1958		III 1963	IV 1968	V 1973
§ 7 一 般 の 社 会 的 問 題	7.34	省エネルギーは重要か	-	-	-	-	-	-
	7.35	環境の保護は重要か	-	-	-	-	-	-
	7.36	科学上の発見・利用は生活に役立つか	-	-	-	-	-	-
	7.37	自分だけとに残されているか	-	-	-	-	-	-
	7.38	努力は報われるか	-	-	-	-	-	-
	7.39a	社会のために働く人	-	-	-	-	-	-
	7.39b	仕事に打ち込む人	-	-	-	-	-	-
	7.40	社会は公平か	-	-	-	-	-	-
	7.82	アリとキリギリス	-	-	-	-	-	-
§ 8 政 治 的 態 度	8.1	政治家にまかせるか	30	12	112	11	12	K15 -
	8.1*	政治家にまかせるか	-	-	-	-	-	M 8
	8.1b	政治家にまかせるか	-	-	-	-	-	-
	8.2	「民主主義」はよい感じか	-	-	123a	-	-	-
	8.2b	「資本主義」はよい感じか	-	-	123b	-	-	-
	8.2c	「自由主義」はよい感じか	-	-	123c	-	-	-
	8.2d	「社会主義」はよい感じか	-	-	123d	-	-	-
	8.2e	「民主主義」はよいか	-	-	-	27a	32a	K35a -
	8.2f	「資本主義」はよいか	-	-	-	27b	32b	K35b -
	8.2g	「自由主義」はよいか	-	-	-	27c	32c	K35c -
	8.2h	「社会主義」はよいか	-	-	-	27d	32d	K35d -
	8.2i	「共産主義」はよいか	-	-	-	-	-	K35e -
	8.2j	「全体主義」はよいか	-	-	-	-	-	K35f -
	8.3	科学者と政治	-	11	-	-	-	-
	8.3b	専門の研究と政治	43	-	-	24	29	K32 -
	8.4	校長の礼服	-	2	-	3	-	-
	8.4b	校長の礼服	-	-	-	-	3	K 4 -
	8.5	社会問題への関心	-	30a (b)	130a (b)	-	-	-
	8.6	選挙への関心	-	34	134	33	38	K39 -
	8.7	支持政党	58	35	135	35	39	K40 M28
8.7g	支持政党	-	-	-	-	-	-	
8.7h	支持政党	-	-	-	-	-	-	
8.7i	支持政党	-	-	-	-	-	-	
8.8	社会は変えるべきか	-	-	-	-	-	-	

§	項 目		全						
	#	見 出 し	I 1953	II 1958	III 1963	IV 1968	V 1973		
§ 8 政 態 治 度 的	8.9	社会不満の表し方	-	-	-	-	-	-	
	8.10	福祉国家の是非	-	-	-	-	-	-	
	8.11	憲法改正に賛成か	-	-	-	-	-	-	
	8.80	国家目標	-	-	-	-	-	-	
§ 9 日 本 人 種	9.1	日本人の性格(長所)	-	28	128	32a	37a	K38a	-
	9.1c	日本人の性格(短所)	-	-	-	32b	37b	K38b	-
	9.3	日本の庭・西洋の庭	32	21	-	25	30	K33	M23
	9.3b	パリ・イラン・ニューヨークの建物	33	-	-	-	-	-	-
	9.4	立派な人物	-	-	-	34	-	-	-
	9.5	日本人・西洋人の残酷	-	25	-	-	-	-	-
	9.6	日本人・西洋人の優劣	25	-	-	30	35	K16	-
	9.7	すぐれた人種	-	-	124	31	36	K37	-
	9.8	人種的能力差	-	-	125	-	-	-	-
	9.9	日本の立場	-	-	113	-	-	-	-
	9.10	国旗をあげること(競技)	7	-	-	-	-	-	-
	9.10b	国旗をあげること(競技)	-	-	-	-	-	K17	-
	9.12	日本の「科学技術の水準」	-	-	-	-	-	-	M25a
	9.12b	日本の「芸術」	-	-	-	-	-	-	M25b
	9.12c	日本の「経済力」	-	-	-	-	-	-	M25c
	9.12d	日本の「生活水準」	-	-	-	-	-	-	M25d
	9.12e	日本の「心の豊かさ」	-	-	-	-	-	-	M25e
9.13	日本文化の国際化	-	-	-	-	-	-	-	
9.14	外国人との結婚	-	-	-	-	-	-	-	
9.15	外国旅行の経験	-	-	-	-	-	-	-	
9.16	国際貢献	-	-	-	-	-	-	-	
9.17	地球環境	-	-	-	-	-	-	-	

国						ページ
VI 1978	VII 1983	VIII 1988	IX 1993	X 1998	XI 2003	
- M24	- -	- M22	- M21	- M23	- M23	118
- -	- -	- -	K33 -	- -	- -	
- -	- -	- -	- M 9	- -	- -	
- -	- -	- -	K34 -	- -	- -	
- -	K31 -	K30 -	- -	K36 -	K36 -	119
- -	- -	- -	- -	- -	- -	
- -	- -	- -	- -	- -	- -	
- -	- -	- -	- -	- -	- -	
- -	- -	- -	- -	- -	- -	
- -	- -	- -	- -	- -	- -	
- -	K11 -	- -	K17 -	K17 -	K19 -	120
- -	- -	- -	- -	- -	- -	
- -	- -	- -	- -	- -	- -	
- -	- -	- -	- -	- -	- -	
- M22a	- -	- M27a	- M28a	- M29a	- M28a	121
- M22b	- -	- M27b	- M28b	- M29b	- M28b	122
- M22c	- -	- M27c	- M28c	- M29c	- M28c	123
- M22d	- -	- M27d	- M28d	- M29d	- M28d	124
- M22e	- -	- M27e	- M28e	- M29e	- M28e	125
- M21	- -	- -	- -	- -	- -	
- -	- -	- M 3	- M 3	- M 6	- M 5	126
- -	- -	- M 4	- M 4	- -	- -	
- -	- -	- -	- M29	- M31	- M30	127
- -	- -	- -	- M30	- M30	- M29	128

Research Report
General Series No.92

A STUDY OF THE JAPANESE NATIONAL CHARACTER

— The Eleventh Nationwide Survey —

Research Committee
on the Study of the Japanese National Character

April, 2004

The Institute of Statistical Mathematics
(Tōkei Sūri Kenkyūzyo)

4-6-7 Minami-Azabu, Minato-ku
Tokyo 106-8569, Japan